


709
124

709-124

1200501584603

知縣案內



4



縣案內



發行所寄贈本



Faint vertical text impression, likely bleed-through from the reverse side.



709
124

凡例

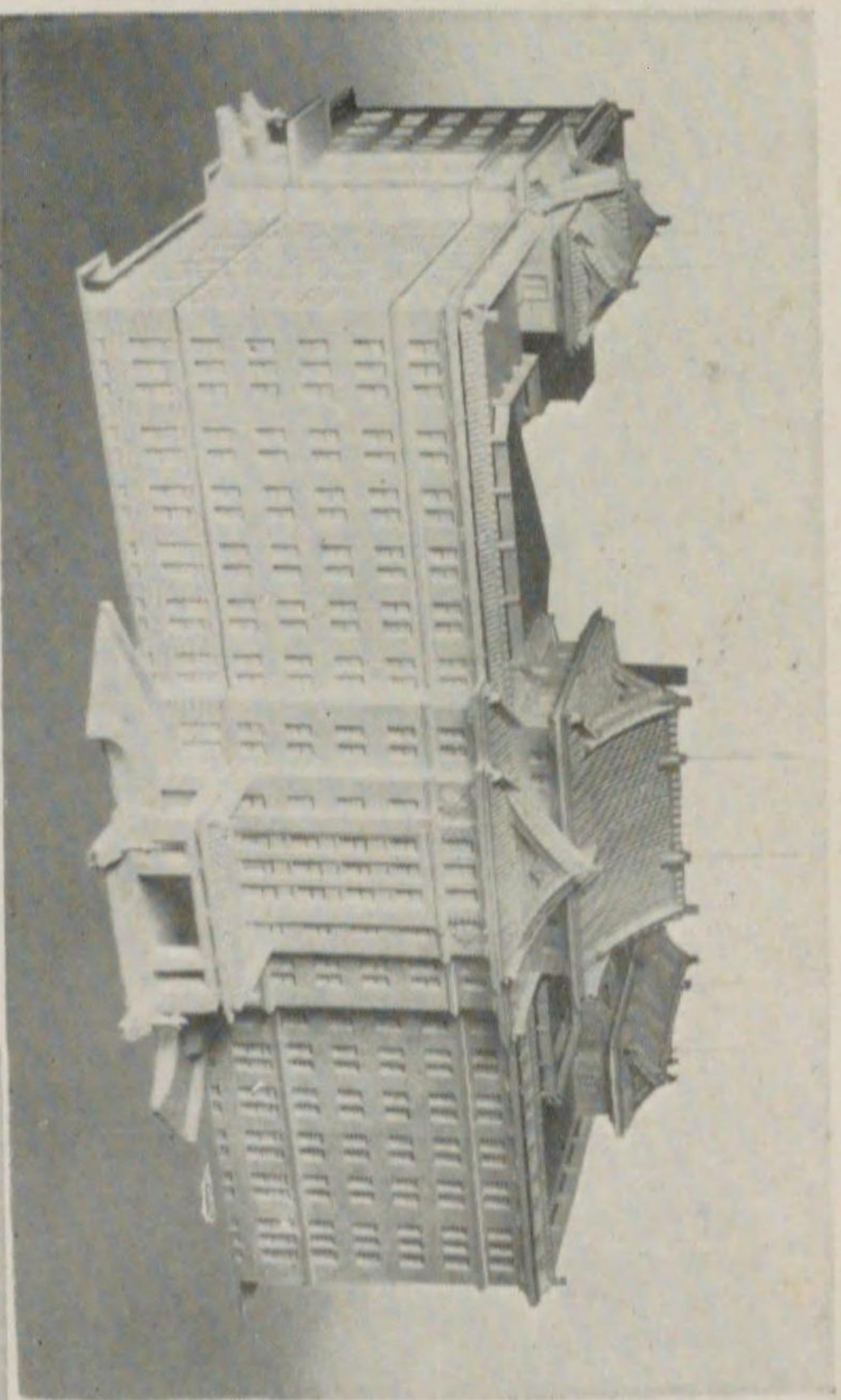
- 一、本書は愛知縣の概要を記述したるものにして前編に於ては縣勢の一般を、後編に於ては産業、都邑、社寺、名所、舊跡等に就て地方別に記載せり。
 - 一、本書は各項目に亘りて其の主なるもの、代表的なるもの、特色あるものを網羅せんとつとめたるも不備の點なきを保し難し他日訂正増補の機會あらんことを望むものなり。
 - 一、本書の記事中現況を示す數字は多く昭和九年、同十年年度の統計に據りたり、又後編に於ける交通機關名稱の電氣鐵道、鐵道等を線と略記せり。
 - 一、本書の編纂は齋藤俊之助を主査とし小栗鐵次郎、増子篤協力之に任ぜり。
 - 一、本書編纂に就ては末廣統計調査課長、深尾地方統計主事終始周到なる注意と、懇切なる指導とを與へられたり。
- 本書の資料蒐集に當りて廳内各課及關係官衙、市町村を煩はしたるもの多し。共に茲に記して深謝の意を表す。

昭和十一年十一月

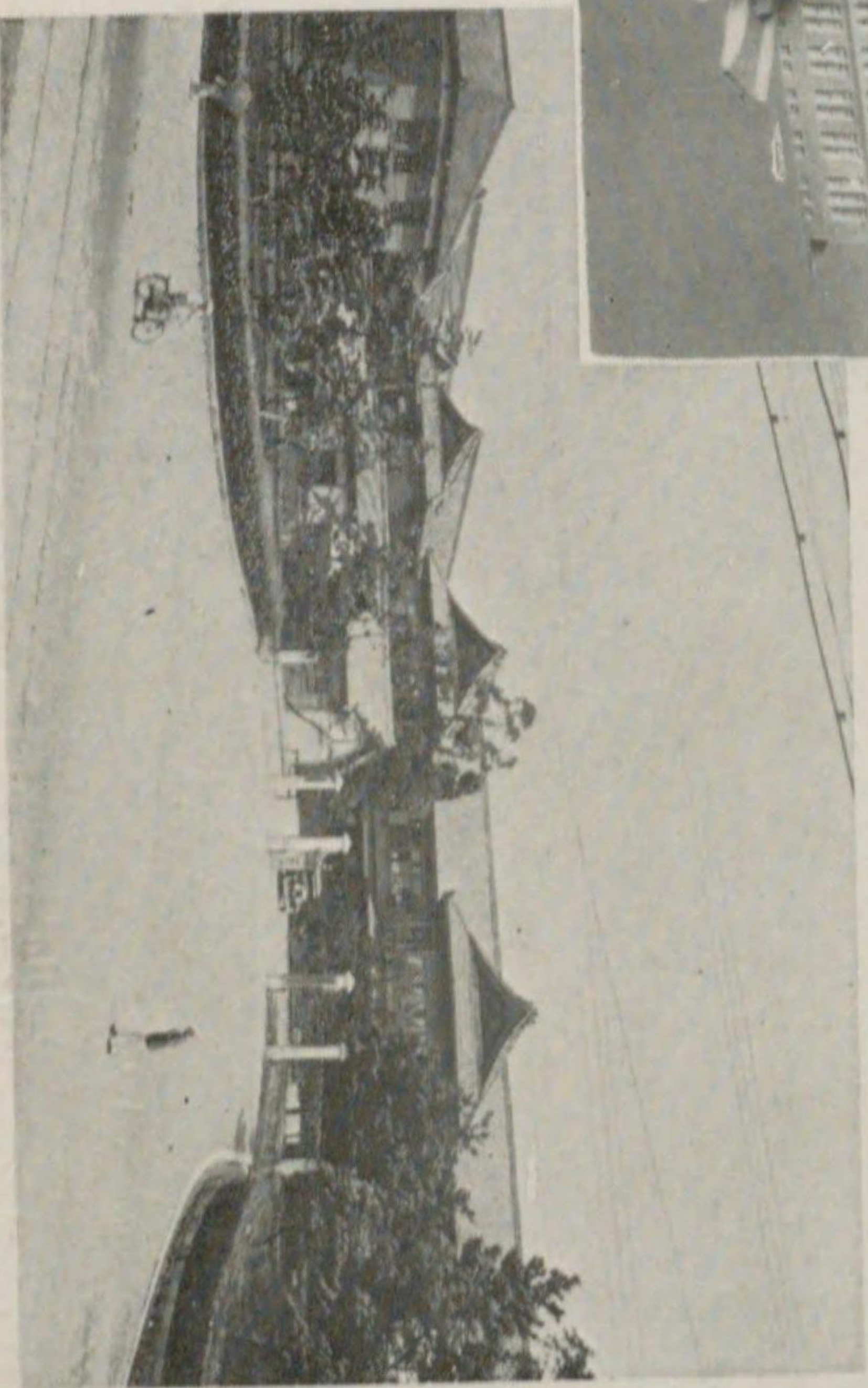
編者 識

愛知縣立図書館蔵本

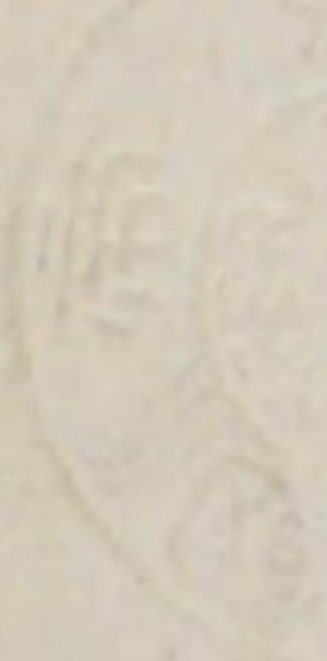
155



新廳舍模型



愛知縣廳



愛知縣案內目次

前編

地序	沿自財神	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說
序	神財自沿	兵	事	社教	政治	改革	口候	勢置	地理	說

徵兵檢査	八
海軍志願兵	九
在鄉軍人會	九
軍人遺家族慰藉救護	〇
防空防護施設	〇
國寶及史蹟名勝	三
國寶	三
史蹟	三
名勝及天然紀念物	三
教育	三
初等教育	三
「小學校」、「幼稚園」	三
中等教育	四
「師範學校」、「中學校」、「高等女學校」、「實業學校」	四
高等教育	六
特殊教育	六
「特殊教育」、「各種學校」	六

其他.....二七

「特殊施設」、「學事獎勵」、「校外教護施設」

社會教育.....二六

青年學校.....二六

圖書館.....二〇

青年團.....三

「男子青年團」、「女子青年團」

青少年團體.....三

婦人團體.....三

勤勞者教育.....三

成人教育.....三

公民教育.....三

教化事業.....三

映畫教育.....三

社會事業.....三

兒童保護事業.....三

「妊産婦並乳幼兒保健事業」、「保育事業」、「少年教護事業」、「兒童虐待防止事業」

「貧兒扶助」
救貧事業……………三七

「公的救助」、「私的救助」
方面事業……………三七

救療事業……………三六

經濟的保護事業……………三六

隣保事業……………三六

勞働保護事業……………三六

地方改善事業……………三六

內鮮融和事業……………三六

釋放者保護事業……………三六

業……………三六

農……………三四

「農業組織」、「農產物」、「園藝」、「肥料消費狀況」、「組合」
副業……………三〇

「組合」
蠶絲業……………五一

畜……………三五

「桑苗」、「栽桑」、「蠶種製造」、「養蠶」、「製絲業」、「組合」
「養鷄」、「組合」
林業……………三七

「林業地」
礦業……………三六

水產……………三三

「漁業」、「河川漁業」、「遠洋漁業」、「水產製造物」、「淡水養殖」、「組合」
工業……………三〇

「紡績業」、「織物業」、「染物業」、「莫大小製品製造業」、「紡織機製造業」、「車輛製造業」、「時計製造業」、「金屬製品製造業」、「軍需品製造業」、「陶磁器製造業」、「土管、瓦及煉瓦製造業」、「七寶製造業」、「セメント製造業」、「硝子製造業」、「人造絹絲製造業」、「人造肥料製造業」、「其の他の化學工業」、「釀造業」、「製粉業」、「漬物類」、「其の他の飲食料品製造業」、「雜工業」、「組合」
商業……………二八

「商工會議所」、「會社」、「保險業」、「取引所」、「倉庫業」、「市場」、「貿易」、「金融」、「組合」
「農業倉庫」
產業組合……………二八

土木交通	九〇
道路	九〇
鐵道及軌道	九三
〔國有鐵道〕	
〔私設鐵道〕	
河川	九四
港灣	九四
都市計畫	九五
都市計畫區域	
〔道路網〕	
〔地域及防火地區〕	
〔運河網、公園、風致地區〕	
都市計畫事業	九六
〔街路事業〕	
〔中川運河〕	
〔下水道事業〕	
〔土地區劃整理〕	
耕地整理	一〇〇
警察備	一〇五
消防	一〇六
電氣及瓦斯事業	一〇七
電氣	一〇七

瓦斯	一〇八
衛生	一〇九
病院	一〇九
水道	
水道	
下水道	
下水處	
尿尿處	
尿尿處	
屠塵芥處理場	
選舉	一一三
〔貴族院議員〕	
〔衆議院議員〕	
〔縣會議員〕	
〔市會議員〕	
〔町村會議員〕	
歴代の知事	一二四
主要官公署一覽	一二五

後編

名古屋市

名古屋市	一九
官幣大社熱田神宮	二〇
明治天皇覽礎地	二三
名古屋港	二四
中川運河	二五
眞宗大谷派本願寺名古屋別院	二六
寶生院 <small>大須觀音</small>	二七
盛 <small>り</small> 場	二八
七 <small>寺</small>	二九
縣社若宮八幡社	三〇
名古屋城	三一
縣社東照宮	三二
縣社那古野神社	三三
中村公園	三四
建 <small>中</small> 寺	三五
德川美術園	三六
德川美術館	三七

長母寺	三九
日 <small>暹</small> 寺	四〇
東山公園	四一
鶴舞公園	四二
八事山	四三
笠 <small>覆</small> 寺	四四
主なる工場、會社	四四
「株式會社大隈鐵工所」、「東海電極製造株式會社名古屋工場」、「日本陶器株式會社」、「日本車輛製造株式會社」、「三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所」、「株式會社大同電氣製鋼所」、「愛知時計電機株式會社」、「日本碍子株式會社」、「岡本工業株式會社」	四七
主なる官公署、學校、銀行、工場、會社一覽	四七

豐橋市

豐橋市	一五
吉田城址	一六
縣社吉田神社	一七
縣社神明社	一八
縣社神明社	一九
悟 <small>眞</small> 寺	二〇

高師原 一六〇
主なる官公署、學校、銀行、工場、會社一覽 一六一

岡崎市

岡崎市 一六三
縣社伊賀八幡宮 一六四
縣社六所神社 一六五
岡崎城趾 一六五
菅生の川祭 一六七
小豆坂古戰場 一六八
愛知縣種畜場 一六九
愛知縣追進農場 一六九
農林省岡崎種鶏場 一七〇
ガラ紡 一七一
主なる官公署、學校、銀行、工場、會社一覽 一七一
一宮市 一七四

國幣中社眞清田神社 一七五
三八市 一七六
主なる官公署、學校、工場、會社一覽 一七七

瀬戸市

瀬戸市 一七九
窯業 一八〇
郷社深川神社 一八二
加藤春慶の碑と民吉の墓 一八三
印所の粘土採掘 一八四
砂防事業 一八五
主なる官公署、學校、工場、會社一覽 一八六

愛知郡

鳴海町 一八七
桶狭間古戰場 一八八
和合ゴルフ・リンクス 一九〇
音聞山 一九〇

長久手古戰場……………二九二

東春日井郡

小牧山……………二九三

大山廢寺塔趾……………二九三

密藏院……………二九五

龍泉寺……………二九七

守山町……………二九八

森林公園……………二九八

玉野川……………二九九

定光寺……………三〇〇

西春日井郡

枇杷島と青物市場……………三〇一

宮重大根……………三〇四

清洲町……………三〇四

清洲城趾……………三〇五

新川の開墾……………二〇七

丹羽郡

布袋町……………二〇八

木津用水……………二〇八

國幣中社大縣神社……………二〇九

入鹿池……………二一〇

尾張富士と石上祭……………二一一

ひとつばたご自生地……………二一二

犬山町……………二一三

犬山城……………二一四

木曾川の峡谷……………二一五

古知野町……………二一七

葉栗郡

宮田用水……………二一九

曼陀羅寺……………二二〇

木曾川堤の櫻……………二二二

中島郡

木曾川町……………三三

稻澤町……………三三

縣社尾張大國靈神社……………三四

性海寺……………三五

妙興寺……………三六

起興寺……………三七

祖父江町……………三九

尾張國分寺陞……………三九

海部郡

津島町……………三二

國幣小社津島神社……………三三

七寶燒開祖梶常吉碑……………三三

甚目寺……………三四

方領大根……………三六

蟹江町……………三六

知多郡

彌富町……………三六

半田町……………三六

半田大本營と御野立所……………三九

龜崎町……………四〇

縣社神前神社と乙川御野立所……………四〇

大府町……………四一

有松絞……………四二

大高町……………四三

横須賀町……………四四

八幡町……………四四

岡田町……………四五

大野・新舞子海水浴場 附水族館……………四六

常滑燒……………四七

鶉ノ山の鶉蕃殖地……………四九

大御堂寺……………四九

内海町と其の附近	二五一
豊濱港	二五二
郷社羽豆神社と羽豆城址	二五三
篠島	二五四
武豊町	二五五
長尾山の聖蹟	二五七
成岩町	二五八
碧海郡	
安城町	二五九
安城の農業	二六〇
明治用水	二六二
對歐無線電信送信所	二六四
高濱町附近の陶業	二六五
北野廢寺址	二六六
縣社知立神社	二六六
八橋	二六七

刈谷町	二六九
刈谷城址	二七〇
幡豆郡	
西尾町	二七一
西尾城址	二七二
平坂町	二七三
一色町 <small>附 大提灯祭</small>	二七三
天竺社	二七五
金蓮寺	二七六
吉田町	二七六

額田郡	
瀧山寺	二七六
大樹寺	二七九
信光明寺	二八〇
眞福寺	二八一

西加茂郡

舉母町 二八二
 舉母城趾 二八三
 長興寺 二八四
 縣社猿投神社 二八五
 猿投山と御陵墓 二八六
 舞木廢寺塔趾 二八七
 勘八峽 二八七

東加茂郡

足助町 二八九
 足助城趾 二九〇
 高月院と松平氏墓 二九一
 賀茂縣有模範林 二九二

北設樂郡

田口町 二九三

南設樂郡

段戸の御料林と田峰觀音 二九三
 乳岩及び乳岩峽 二九四
 本郷町 二九五
 花祭 二九六
 茶臼山 二九六
 川宇連の花ノ木 二九七
 津具金山 二九八
 黒田貯水池 二九九

寶飯郡

新城町 三〇〇
 野田城趾 三〇一
 長篠城趾 三〇一
 鳳來峽 三〇三
 鳳來寺山と鳳來寺 三〇四
 寶飯郡 三〇七
 御油と赤坂 三〇七

宮路山	三〇八
三河國分寺	三〇八
縣社八幡宮	三〇九
國幣小社砥鹿神社	三一〇
豐川町	三一〇
三河海苔	三一〇
縣社菟足神社	三一〇
國府町	三一三
三谷町	三一四
蒲郡町と海岸	三一五
渥美郡	
二川町	三二七
岩屋觀音	三三八
普門寺	三三九
東觀音寺	三四〇
田原町	三四〇

田原城趾	三三一
伊良湖岬	三三三
福江町	三四四

八名郡

阿寺の七瀧	三三六
黃柳の自然林	三三七
富賀寺	三三七
縣社賀茂神社	三三六
石卷山	三三六

挿畫目次

熱田神宮	(口繪)
織田信長畫像	(口繪)
豐臣秀吉畫像	(口繪)
徳川家康畫像	(口繪)
愛知縣廳	(口繪)

前編

官祭招魂社	三
名古屋城	三
名古屋市中ノ町尋常高等小學校	二四
名古屋醫科大學	二六
愛知縣昭和塾堂	二九
下奥田町改良住宅	三〇
愛知縣社會事業協會西尾隣保館	三〇
愛知縣安城農事試驗場	三〇
産卵記録保持鶏	三五
砂防工事施行前	三五
同 施行直後	三五
同 施行十八年後の林相	三五
賀茂縣有林の林道	三六
愛知縣水産指導船白鳥丸	三六
綿織物作業狀況	三九

トヨタ號	七一
七寶製品	七四
愛知縣商工館	八六
東海道松並木	九〇
尾張大橋	九一
中川運河中川口閘門	九七
名古屋驛完成後の驛前景觀	九八
排水機室	一〇二
梯子自動車唧筒	一〇六
東邦電力熱田火力發電所	一〇七
名古屋市上水道配水塔	一〇九

後編

廣小路通	一一〇
廣小路通夜景	一一三
國寶鎮皇門	一一三
明治天皇覽稜地	一一三

名古屋港	二四
眞宗大谷派本願寺名古屋別院本堂	二七
寶生院本堂	二八
万松寺通	二九
本尊阿彌陀坐像	三〇
名古屋城御殿玄關車寄	三一
東照宮と例祭の山車	三二
秀吉産湯の井戸	三三
徳川美術館	三六
日暹寺舍利奉安塔	四〇
鶴舞公園	四一
八事山興正寺の五重塔	四二
玉糸工場に於ける作業状況	四三
吉田城址	四七
縣社吉田神社	五一
悟眞寺大書院内御座の間	五一
花崗町	五三

縣社伊賀八幡宮	一四
岡崎城址	一六
家康産湯の井戸	一七
農林省岡崎種鶏場	一七〇
一宮市街と毛織物工場の一部	一七四
國幣中社眞清田神社	一七五
三八市場の状況	一七六
瀬戸市街を望む	一七九
陶磁器製造状況	一八〇
藤四郎作陶製狛犬	一八二
加藤春慶の碑	一八三
印所に於ける粘土採掘状況	一八四
鳴海絞作業状況	一八七
桶狭間古戰場	一八九
和合ゴルフリンクス	一九〇
長久手古戰場	一九一
小牧山	一九四

大山廢寺塔趾古瓦	一九五
玉野川	一九九
徳川義直廟	二〇〇
枇杷島青物市場狀況	二〇三
宮重大根	二〇四
清洲城趾	二〇六
國幣中社大縣神社	二一〇
入鹿池	二一一
石上祭	二一二
犬山城	二二四
木曾川と犬山城	二二六
宮田用水々路	二二九
曼陀羅寺	二三〇
木曾川堤	二三二
大國靈神社の裸祭	二三五
性海寺多寶塔	二三六
國寶勅使門	二三七

起驛渡船場趾	二三八
尾張國分寺趾	二三九
國幣小社津島神社	二四二
梶常吉作香爐	二四三
國寶仁王門	二四四
方領大根	二四五
彌富金魚	二三七
半田港	二三八
有松絞作業狀況	二四二
綿織物搬出狀況	二四五
新舞子海水浴場と水族館の一部	二四六
陶磁器製造狀況	二四七
鶉ノ山に於ける鶉の棲息状態	二四九
源義朝の墓	二五〇
磔浦の磔岩	二五一
師崎港と羽豆神社々叢	二五三
篠島より北方の屬島を望む	二五四

武 豐 港 二五六

安城の農耕狀況 二六一

明治用水々源地 二六三

對歐無線電信依佐美送信所 二六四

高濱に於ける土管積出狀況 二六五

知立神社境内 二六七

一色港と大提灯祭 二七四

天 竺 神 二七五

宮 崎 海 岸 二七七

瀧 山 寺 本 堂 二七八

大樹寺多寶塔 二七九

縣社猿投神社 二八五

勘 八 峽 二八八

香嵐溪の紅葉 二九〇

松平氏の墓 二九一

乳岩及び乳岩川 二九五

津 具 金 山 二九八

黒 田 貯 水 池 二九九

長 篠 城 趾 三〇二

鳳 來 峽 三〇四

鳳 來 寺 山 三〇五

御 油 の 宿 三〇七

國 寶 梵 鐘 三〇九

國幣小社砥鹿神社 三二〇

妙嚴寺吒枳尼天堂 三三一

三 谷 港 三三四

蒲郡海岸と觀光ホテル 三三五

舊二川宿の本陣 三三七

岩 屋 觀 音 三三八

國寶四天王の一 三三九

孔 子 像 三三二

伊良湖岬の突端 三三三

阿 寺 の 七 瀧 三三六

石卷山の遠望 三三九

愛知縣案内 前編

附錄

指定史蹟名勝天然紀念物國寶一覽表
管内交通圖

愛知縣案内 前編

序 說

和やかな氣候、廣漠の平野、重疊の山、それ等の間に指脈と流れる河川、靜穩なる海灣等の恵みのうへ、京畿と東國との交通の要所をなしてゐた愛知縣の地に、早くより優良民族の居住、發展の歴史をもとめ得ることは蓋し自然のこととせあらう。

かの神劍にからむ物語は景行天皇の朝のことである。皇子日本武尊が東夷を平定して還軍の御途次、天璽草薙神劍を、熱田に生れ在ます妃宮簀姫命に託して、更に膽吹山の荒神討征に向はせられたが、不幸にして能褒野に夢ぜらるゝや、命の嘆きはただならず、せめては此の神劍こそ尊の御靈と身を離さず遂に熱田の地を卜し、此處に奉齋せられて一千六百有餘歳、異る時代の装ひにも關

らず年と共に、衆民は云はず、歴世皇室の尊崇彌々篤く神苑益々靈境と淨む官幣大社熱田神宮である。

ついで源頼朝は此の神苑に由縁深い熱田に生れた。當時世は無能力な公卿と不謹慎な武家とによつて王朝末期の病的社會に馴致されてゐた。頼朝は岬然立つて之を一掃し、武家政治を確保したのであつた。

さりながら政権が北條氏の手にうつるや、高時の暴政となつた。英邁なる後醍醐天皇は之を倒して朝權を回復せんとし給ふたが、兵を擧げさせられる前に事洩れ、笠置山に潜幸し給ふたのである。ときに強弓で鎮西八郎爲朝を聯想する足助次郎重範の笠置山に於ける忠誠と其の一族の王事に殉じた勤王とは本縣のために萬丈の氣を吐くに足るものがあつた。かくして奮迅の苦闘酬ひられ、世は一たび建武中興の凱歌を奏したが、その基礎いまだ固るに至らず、再び世は足利の暗黒時代へ崩壊の一途を辿り、聽て下剋上の有様となつて下層に沈淪する有爲の人々は常に隙を覘つて上を凌がんと劍の塵を掃ふて宇内をせましとした。

所謂群雄割據の世相である。

波濤は波濤を呼び、暗雲は地に垂れ、烈風之を裂き散らさんとすれば密雲更に掩ふて心なき草木も早や劫滅の時到れるかと地にひれ伏した。闇のさ中を時は流れた。そのぬば玉の闇の世に一條の陽光を颯と射入したのは織田信長の天下蕩平の策であつた。次いで豊臣秀吉その後を継ぎ、亂階を鎮めて漸く社會の秩序を恢復したが、更に三河より徳川家康出でて是等の遺業を完成し萬民鼓腹擊壤の泰平を謳歌するに至つたのである。

斯くの如く、何時果つべくもなかつた冥暗の世に陽を迎へた三傑の非凡な素質は、もとより先天性に依るとしても此處にいま一つ、地理的環境の重厚な理由も看過し得ないことであらう。

幾世の擾亂のさ中にあつて、當時地方農民の心亦兢々、けじめもさだかならぬ歲月を送り迎へてゐたのである。然るに、天恵多き地に培はれ來つた快朗の精神と、過去幾百歳のあひだ風水と闘ひ抜いて來た根強い力を有つ此の地の農

民のみは獨り田島の復興に黙々と従事してゐた。かうした土地の内部より醜醜する氣魄が凝つて一團の雲となり、時代の擾亂の渦中にぬつくと起ち上つた英雄の姿と化身したのである。

其の後三河は小藩や旗本に分割せられ、尾張には名君敬公が封ぜられて金鯨城の出現となつた。敬公始め各領主は専ら意を殖産工業に注いで幾多の新田を拓き、治水に灌漑に改修を加へ、或は各種産業を保護奨励するなど、後年此の地が文物燦然として東海の儀表となつた基礎はこゝに堅く築かれたのである。而して愛知縣が今日産業王國として世に誇り得る所以も歴史に遡つて愈々その來由を瞭らかにし得るのである。

地理

位

置

本縣は本邦の中央、東經百三十六度四十分より百三十七度五十分、北緯三十四度三十六分より三十五度二十六分に位し、尾張三河の兩國よ

り成る。廣袤五千八十一方艸一四、五市十八郡を統轄してゐる。東は靜岡縣に、東北の一部は信濃の山脈と連互して長野縣に、北は美濃の群山に據つて岐阜縣に、西は環流する木曾川によつて岐阜三重兩縣の一部に隣接してゐる。知多半島は長く海中に延びて伊勢海を限り、南は渥美半島斗出して風波靜穩な渥美灣を抱擁してゐる。

地

勢

山嶽は概して東部北部に多く、殊に三河は面積の十分の八以上を占めて都邑の發達を沮害してゐる。然し攀登に苦しむほどの高峯なく、ゆるやかに起伏する山脈は多く分水嶺をなす。豊川は東偏南下して渥美灣に注ぎ、矢作川は西邊を南流して知多灣に入る。

尾張に於ては北東より東方一帯に亘つて緩漫な丘陵起伏し、更に南走して海に突出してゐるが、その西南は坦々として視野を遮るものなく廣漠たる平野である。庄内川はその中央を東より西南に向つて流れ、木曾川は丹羽、葉栗、中島、海部の四郡を廻流南下して尾濃勢の國界をなし、その流れは洋々たる大江

の相貌を具へ遠く舟運の便をなすと共に廣く尾張平野を潤してゐる。

本縣は南に渥美、知多、伊勢の三大灣を擁し、海岸線の延長三百二十餘軒に達してゐる。海上には二十有餘の島嶼散在するが古來人の住む島は日間賀島、篠島及佐久島にすぎない。

氣

候

本縣の氣候は概して溫和であるが、南に海灣を控へ、北に山嶽を負ふため地方に依り氣溫を異にしてゐる。主要地の平均氣溫を示せば

名古屋市	一四・七 ^度	豐橋市	一三・〇 ^度
渥美郡田原町	一五・七	岡崎市	一五・二
		同 稻橋村	二・三
		北設樂郡田口町	一三・〇 ^度

人

口

昭和十年十月一日現在國勢調査結果に依る本縣人口は二百八十六萬二千七百一人で府縣中第四位に當り、男百人に對し女百九人の割合を示してゐる。之を前回の昭和五年國勢調査結果に比べると二十九萬五千二百八十八人の増加である。

沿革

明治維新の當時、尾張には名古屋、犬山二藩の領土の他に今尾藩の飛地や熱田神宮始め多少の社寺領があつたが、明治四年七月廢藩置縣が行はれて名古屋、犬山の二縣となり、同年十一月名古屋、犬山の二縣を廢して單に名古屋縣と改め、同五年四月名古屋縣を愛知縣と改めた。

三河はもと西尾、岡崎、豐橋、舉母、田原、刈谷、西端、半原、西大平の九藩の領地並野村、菊間、川越、岩城平、龍岡、大多喜等諸藩の飛地、幕府の直轄地、數十旗下の采邑及三百五十に餘る社寺領等あつて其の管轄區域は頗る錯雜を極めた。明治元年新に重原藩を置き、後三河裁判所を置いて幕府の直轄地、旗下の采邑、社寺の領土を管轄せしめたが、同三年六月に至つて諸藩の飛地、裁判所々轄を伊奈縣に移し、同四年十一月三河全國及知多郡を以て總て額田縣の管轄となし、同五年十一月額田縣を廢して其の所管を愛知縣に移した。

茲に始めて管地の統一を見た本縣は管内を十五區に分つたが、同九年八月之を廢して更に十八區を設けた。同十一年十二月郡區町村編制法の施行によつて従前の各區を廢し、名古屋を名古屋區と改め、他は悉く郡名を以て區畫するこゝとなり、同時に加茂郡を割きて東、西加茂の二郡に、又設樂郡を分けて南、北設樂の二郡と定めた。同十三年二月更に春日井郡を東、西二郡に分け、越えて大正二年七月海東、海西の二郡を併せて海部郡と稱した。明治二十二年名古屋區に市制を布き従前の區役所を市役所と改稱し、各郡に町村制を實施して町村區域及名稱を改め、舊町村名は其の儘大字として残した。同三十九年四月町村自治の必要上一大合併を斷行し、其の結果三百九十ヶ町村の減少を見るに至つた。同年八月渥美郡豊橋町に他の二ヶ村を併せて豊橋市と改稱、翌年四月愛知郡熱田町を名古屋市に編入した。而して大正五年七月岡崎町に、同十年九月一宮町に、昭和四年十月瀬戸町に各々市制を布いた。又大正四年名古屋市に、昭和五年岡崎市に、昭和七年豊橋市に於て隣接町村を併合したのでそれ等市の

面積は従前に數倍した。

尙大正十五年郡役所廢止後郡名は單に舊行政區劃名として存する事となつた。

自治

明治四年の廢藩置縣に依つて地方制度に一新面目を開いたが、未だ準據すべき一定の法規なく百事は概ね從來の慣習と當事者の見解とによつて處斷されてゐた。同年十月縣治條例の發布に依つて縣廳内に三課を設けて諸事務を管掌したが、同十一年七月府縣會規則の制定されるに及んで始めて自治團體たる事が認められた。爾來屢々法令の改廢あつて縣の經濟は同十五年度より名古屋區と各郡とを分離し、所謂三部制を實施する事となつた。同二十五年度に於て一度之を合同したが同三十一年度より再び市、郡の經濟を分別し現在に至つたものである。

管内は五市、八十一箇町、百五十箇村に分れ、市役所五、區役所四、町村役

自治、財政

場（含組合役場一）二百三十を算へる。

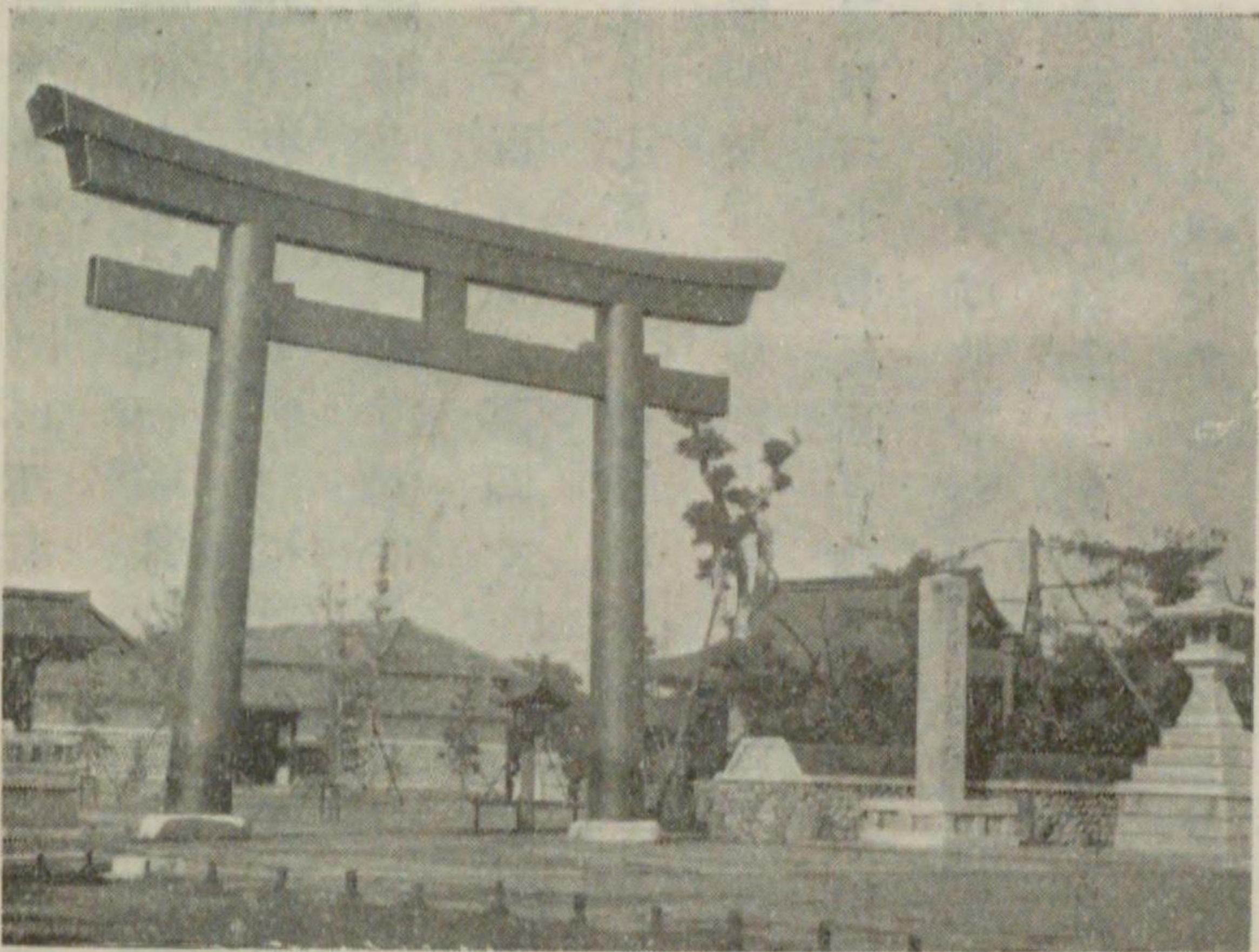
水利組合は總數八十六、内普通水利組合七十七、水害豫防組合九で組合員總數は二十一萬四千餘人に及ぶ。其の内官吏管理三十八、市町村長管理四十八に分れ、組合豫算は近時縣營用排水幹線改良事業の起工によつて著しき増加を示し、昭和十一年度豫算に就てみれば明治用水普通水利組合の三十二萬二千圓を最高に、成今川用水普通水利組合の四十八圓を最低として總豫算額百三十萬圓に達する。

財政

本縣は本邦産業の中心地をなし且大都市名古屋を包容する關係上警察、土木、教育、勸業、社會事業等に於て時代の要求に順應する各般の施設と其の經營に、縣の經濟は逐年膨脹を示してゐる。之を昭和十一年度歳入歳出豫算に就てみれば特別會計を除き總額二千五百九十七萬圓に上る。試に十年前の昭和元年度當

初豫算一千四百九十四萬圓に比較すれば一千百三萬圓の激増を示してゐる。又昭和十一年度一般豫算を以て他府縣に比較すれば總額に於て全國中第四位に當り、更に主要費目に就てみるときは警察費は第四位、教育費は第五位、土木費は第三位、勸業費は首位に當る。而して昭和十一年度當初豫算歳入中稅收入は一千百五十二萬圓で、内各稅目別金額は地租附加稅三百二十一萬圓、特別地稅二十七萬圓、營業收益稅附加稅百三十五萬圓、所得稅附加稅二百二十八萬圓、取引所營業稅附加稅一萬圓、家屋稅百四十四萬圓、營業稅二十三萬圓、雜種稅二百六十九萬圓、鑛業稅附加稅六百圓、都市計畫特別稅四萬圓となつてゐる。又縣債は他府縣と同様に逐年増加の趨勢を示し、昭和十年度末現在縣債總額は三千百三十三萬圓である。之は主として土木港灣に關する經費支辨の爲起債したものである。

神社及宗教



官 祭 招 魂 社

神 社

本縣の地は古くから文化が發達し交通も至便で面積の割合に人口多く、敬神思想亦旺んで神社は早くから營まれてゐた。延喜式の神社に就ても百四十七座の多きを算へ、式外のものにも由緒深い神社が尠くない。縣下の神社數は官幣大社熱田神宮を始め國幣社四、縣社三十三、郷社二百一、村社二千三百二十九で、之に無格社九百四十九を加へると總計三千五百十七座となり、其の神職數は四百七十六名である。

之等の内には他府縣に例をみない特殊な祭事の行はれる神社が尠くない。海部郡の津島神社、中島郡の尾張大國靈神社、丹羽郡の大宮淺間神社、西加茂郡の猿投神社、寶飯郡の菟足神社、渥美郡の神戸神社の如きは著しきものである。尙近時到る處社殿の改築、修覆が行はれて著しく外觀と内容の充實をみるに至つた。

官國幣社並縣社一覽

社格	神社名	祭	神	創立年代	鎮座地
官幣大社	熱田神宮	草薙御劍相殿	天照皇大神	景行天皇	名古屋市南區熱田新宮坂町
中幣中社	眞清田神社	火明命	崇神天皇	一宮市大字一宮	
小幣小社	大縣神社	大縣神	垂仁天皇	丹羽郡樂田村字宮山	
小幣小社	砥鹿神社	大己貴命	不詳	寶飯郡一宮村大字一宮	

神社及宗教

國幣 津島神社

建速須佐之男命 大穴牟遲命

欽明天皇

海部郡津島町 大字向島

縣社 那古野神社

建速須佐之男大神 左兵主大神 相殿 右勇三女神

延喜十一年三月十六日

名古屋市西區 茶屋町

東照宮

德川家康相殿

元和五年九月十七日

末廣町 中區

若宮八幡社

應神天皇(左) 仁德天皇(右)

延喜十一年三月

御器所町

尾陽神社

德川義直 德川慶勝

大正十一年六月三十日

御器所町

片山八幡神社

天照皇大神 菊品陀媛別命

不詳

大曾根町 東區 豐橋市關屋町

吉田神社

素盞鳴命

不詳

中八町

神明社

天照皇大神

不詳

岡崎市康生町

龍城神社

德川家康 本田忠勝

天文十一年

伊賀町

伊賀八幡宮

應神天皇

康平年中

明大寺町

六所神社

猿田彦命 事勝國勝畏狹命

齊明天皇(御宇)

明大寺町

内々神社

建稻種命

不詳

東春日井郡坂下町 大字内津

針綱神社

尾治針名根連命

不詳

丹羽郡犬山町 大字犬山

前利神社

傳神八井耳命

不詳

大字齊藤 扶桑村

若栗神社八幡宮

天押帶日子命 應神天皇

白鳳年中

葉栗郡葉栗村 大字島村

伊富利部神社

譽田和氣命

不詳

木曾川 町大字門間

尾張大國靈神社

大國主神荒魂

崇神天皇

中島郡稻澤町 大字國府宮

藤島神社

伊知伎嶋姬命

不詳

海部郡七寶村 大字秋竹

神前神社

神倭余彥命

不詳

知多郡龜崎町 大字龜崎

知立神社

鶴茅葺不合命 彥火火出見命

不詳

碧海郡知立町 大字知立

八幡社

譽田別尊

不詳

幡豆郡寺津町 大字寺津

幡頭神社

建稻種命 譽田別尊

不詳

吉田町 大字宮崎

神社及宗教

神社及宗教

縣社	猿投神社	大碓命 景行天皇 垂仁天皇 少彥名命	八衢比古命 八衢比賣命 久那戶命	不詳	西加茂郡猿投村大字猿投
〃	六所神社	猿田彦神 克勝國勝長狹神 倉稻魂命	岐天照大御神 日本武命	〃	東加茂郡松平村大字東宮口
〃	石座神社	天御中主命 天雅彥命 比賣大神	伊弉册命 大山祇命 倉稻魂命	大寶三年	南設樂郡東郷村大字大宮
〃	菟足神社	菟上足尼命		御天武天皇	寶飯郡小坂井町大字小坂井
〃	八幡宮	應神天皇 神功皇后	三女神	白鳳年中	〃 八幡村 大字八幡
〃	總社	全國總社		不詳	〃 國府町 大字白鳥
〃	御津神社	大國主命		〃	〃 御津町 大字廣石
〃	形原神社	埴安神		〃	〃 形原町 大字形原
〃	赤日子神社	彥火々出口尊		〃	〃 蒲郡町 大字神ノ郷
〃	巴江神社	兒島高貞 三宅康貞		文化十二年 六月二十五日	渥美郡田原町 大字田原

〃	賀茂神社	賀茂別雷命 菅原朝臣命	少名彥命 宇氣母知命	速須佐之男命 天照皇大神 豐受姬命	天平元年 三月	八名郡賀茂村 字神山
〃	櫻井神社	伊弉諾神 伊弉册神 菊理媛神	火產靈神 菅原道眞公 火之迦具土神	應神天皇 倭姫尊	養老二年	〃 櫻井村 大字櫻井

尙神職養成の機關として愛知縣神職會の經營にかゝる愛知國學院がある。修業年限は本科專修科共に二ヶ年で生徒三百名、教員十七名を有し、豫算額は一萬五千圓である。

宗 教 開化の起源古き地に早くより佛教の取入れられたるは蓋し自然の事である。併し乍ら歲月を経るまゝに幾度かの變遷に遭ひ、巨利の絶へて廢寺となつたものも尠くない。現在國分兩寺の他に礎石、遺瓦の類によつて隙かに奈良朝に營まれたと思はれる寺址が十餘に達し、而も是等寺院の建築に用ひた瓦の焼かれた窯跡も數箇所に見發見されてゐる。千數百年の昔に於て既にかかる多數の規模の壯大な寺院の建立されてゐた事は如何に早くから佛教が盛ん

神社及宗教

であつたかを物語るものである。

現在縣下の寺院は總數三千六百九十九ヶ寺で、内天台宗八十七、眞言宗二百七十六、淨土宗七百六十五、臨濟宗三百六十二、曹洞宗一千五十二、黄檗宗十四、眞宗九百九十、日蓮宗百三十八、時宗十四、各宗聯合一に分れ、之等の住職數は三千三百三十九名に達してゐる。此の他佛道諸教會七百三十六、神道諸教會六百八十、神佛道以外の諸教會五十八がある。

兵 事

徴兵検査

検査は市郡を通じ四十箇所に徴兵署を設置して之を實施してゐる。最近に於ける壯丁の體格と教育程度別を表示せば次の通りである。

年 度	受驗人員	受驗人員ニ對スル百分比					
		甲 種	乙 種	其ノ他	甲 種	乙 種	
昭和十年度	二四、四六	七、一四	七、六九	九、六四	二九・二二%	三・五二%	三九・三五%

年 度	高等専門卒業以上	中學校卒業以上	高等小學校卒業以上	尋常小學校卒業以上	尋常小學校半途退學	不就學
昭和十年度	一、〇一一	二、七三三	一四、五五四	五、七六	三三	六

海軍志願兵

志願者は年々増加の傾向にある。最近に於ける合格種別、教育程度別を示せば次の通りである。

年 度	合 格 人 員	種 別				
		航空一般兵	航空科兵	偵察兵	水兵	同電信兵
昭和十年度	三六	三	六	三	一元	五

年 度	看護兵	主計兵	受驗人員	中等學校卒業以上			高等小學校卒業以上			尋常小學校卒業以上	同上以下
				上	内	上	内	上	内		
昭和十年度	六	三	一、〇七三	三	八四	一五	一				

在郷軍人會

在郷軍人會は縣下を通じて聯合分會三十一、分會三百九十三

を算し、その會員十萬四百五十六名を達するがそれ等の會員は常に郷黨の中堅となつてし活躍成績の見る可きものが多い。

軍人遺家族慰藉救護

現在縣下に於ける軍人遺家族四千二百七十九名、傷痕軍人一千百八十七名並軍人家族中の生活困難者の慰藉救護に就ては軍事救護法及縣に設置された軍人遺家族世話係（専任職員一名、市町村を通じ一千五百四十名の世話係）と、市町村に於ける尙武團體、帝國軍人後援會愛知支會、愛國婦人會愛知縣支部、日本赤十字社愛知縣支部、愛知縣國防義會、第三師管内大日本國防婦人會、其の他の救護團體との活動によつて遺憾なき機能の發揮を期してゐる。

防空防護施設

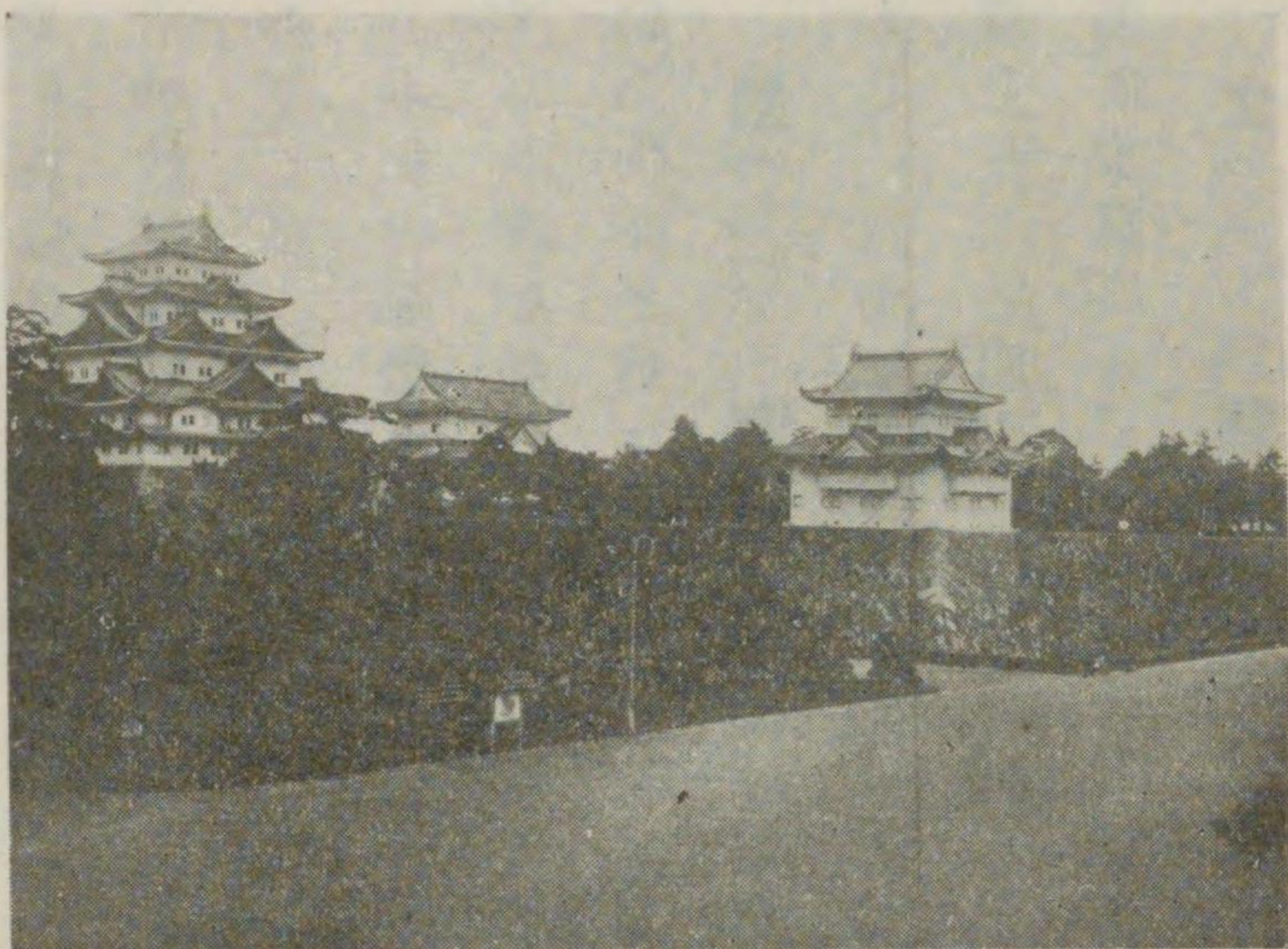
昭和七年十二月防空防護規約を制定し愛知縣防空防護委員會を組織すると共に名古屋防空防護委員會、名古屋聯合防護委員會及名古屋聯合防護團を組織せしめ既に數回に亘つて大規模な防空防護演習が實施された。越えて同九年二月瀬戸市に委員會並防護團が組織せられ、次いで豊橋、岡崎、一

宮の各市に於ても之が結成を見たが、現在では郡部各町村に亦大半その施設を

見るに至り愛知縣國防義會の活動と相俟つて、今や縣下に一大防空防護網が見事な統制下に布かれてゐる。

國寶及史蹟名勝

本縣の地は古來天幸多く、文化の發達も早いので、原始時代を始め各時代に亘つて遺された遺蹟遺物多く、由緒あるこれらのうちには優秀なる建造物や寶物を所藏し、既に國寶に指定せられたものも尠くない。殊に常闇の世を想はしめた戰國時代にあつ



名古屋城 (名古屋城西區南外堀町)

ては、英雄豪傑競つて起り、其の築いた城砦、大小幾多の古戰場、中にも桶狭

間、長篠、長久手の三大戦の如きは國史上に精彩を放つもので、之等遺蹟や史乘に於ける人物の誕生地が平地に或は山地に比較的よく保存されてゐる。又明治維新以後に於ける聖蹟も其の數多く、その保存に就ては特に注意が拂はれてゐる。

本縣の地勢はなべて平坦なる爲山岳に奇勝を多く索め得ぬ憾みはあるが、河川の幽邃なる名勝や沿海の明眉なる風景は比較的多く、その間に散在する天然紀念物亦貴重なものがある。

國

寶

建造物は城二、其の他の棟數七十九、所有社寺數は三十五である。寶物は所有社寺數四十一で、總件數百六十八の多きに達してゐるが、内譯をみると彫刻の五十九最も多く、繪畫の四十、書籍の二十九、刀劍の二十八、美術工藝の八、筆蹟の二、金石文、經卷各一の順となつてゐる。

史

蹟

總數二十四を算へ、名古屋市及知多郡各四ヶ所で最も多く、碧海郡の三、愛知郡、東春日井郡、寶飯郡の各二、丹羽、中島、海部、西加茂、

南設樂、渥美の六郡及豊橋市の各一の順となつてゐる。

名勝及天然記念物

天然紀念物の總數十五、名勝は一、名勝及天然紀念物は四で總計二十を算してゐる。

教

育

本縣の地は明治維新前から教育隆盛で、尾張藩の明倫堂始め各藩みな學館を設け、私塾には佐藤牧山の朝日學校、鷺津幽林の有隣堂始め四十三塾あつて當時の文化に貢献する所尠くなかつたが、明治五年學制發布を見るに及んで教育上に一新紀元を劃し、爾後初等教育、中等教育と漸次組織的發達を遂げて今日に至つた。

初等教育

小學校は現在尋常小學校二百四十七（内私立一）、尋常高等小學校四百十一、高等小學校十二で、兒童總數四十三萬五千餘名、教員數九千九百十五名を算へ、一ヶ年の經常費は一千六十二萬四千餘圓である。

小學校教育の搖籃であり、家庭教育の補足機關である幼稚園は現在公私立合せて七十八、園兒總數七千百餘名、保姆數二百七十六名を算へ、一ケ年の經費は十七萬圓九千餘圓である。



校學小等高常尋町ノ中市屋古名

服務義務年限は本科第一部三ケ年、

中等教育 師範學校は男子二、女子

一、何れも本科第一部、同第二部及專攻科を設け、生徒總數一千餘名、教員數九十五名、一ケ年の經費二十二萬餘圓である。本科に於ては入學生徒の四分の三を自費生、四分の一を給費生とし、給費生に對しては學資金月額男子六圓、女子五圓、專攻科男子十二圓、女子十圓宛を支給し、卒業後の同第二部一ケ年半、專攻科一ケ年と定めて

ある。

中學校は縣立十四、私立五で生徒總數一萬二千四百九十名、教員數五百十名、一ケ年の經費は縣費六十九萬圓、私費二十一萬二千餘圓である。此の他夜間中學縣立一、私立一がある。

高等女學校は縣立十三、市町村立十、私立七で（内補習科を置くもの十七、高等科並專攻科を置くもの各一）生徒總數一萬四千四百五十餘名、教員數六百三名、一ケ年の經費は公費七十四萬二千餘圓、私費二十一萬八千三百餘圓である。

實業學校は工業學校八（縣立五、市立二、私立一）、農業學校八（縣立七、村立一）、商業學校十六（縣立一、市町村立六、私立九）、農商學校二（町立一、私立一）、職業學校十七（市町立十二、私立五）で生徒總數は二萬に垂々としてゐる。教員數七百六十三名、一ケ年の經費は公費八十三萬五千餘圓、私費五十一萬餘圓である。

高等教育

は官立に名古屋醫科大學、第八高等學校、名古屋高等工業學

校、名古屋高等商業學校があり、私立には

名古屋藥學專門學校、金城女子專門學校、

眞宗專門學校、椋山女子專門學校、安城女

子專門學校等がある。

特殊教育 特殊教育としては縣立盲

學校一、同豊學校一、私立盲聾啞學校二で

何れも初等部、中等部を設け、生徒總數四

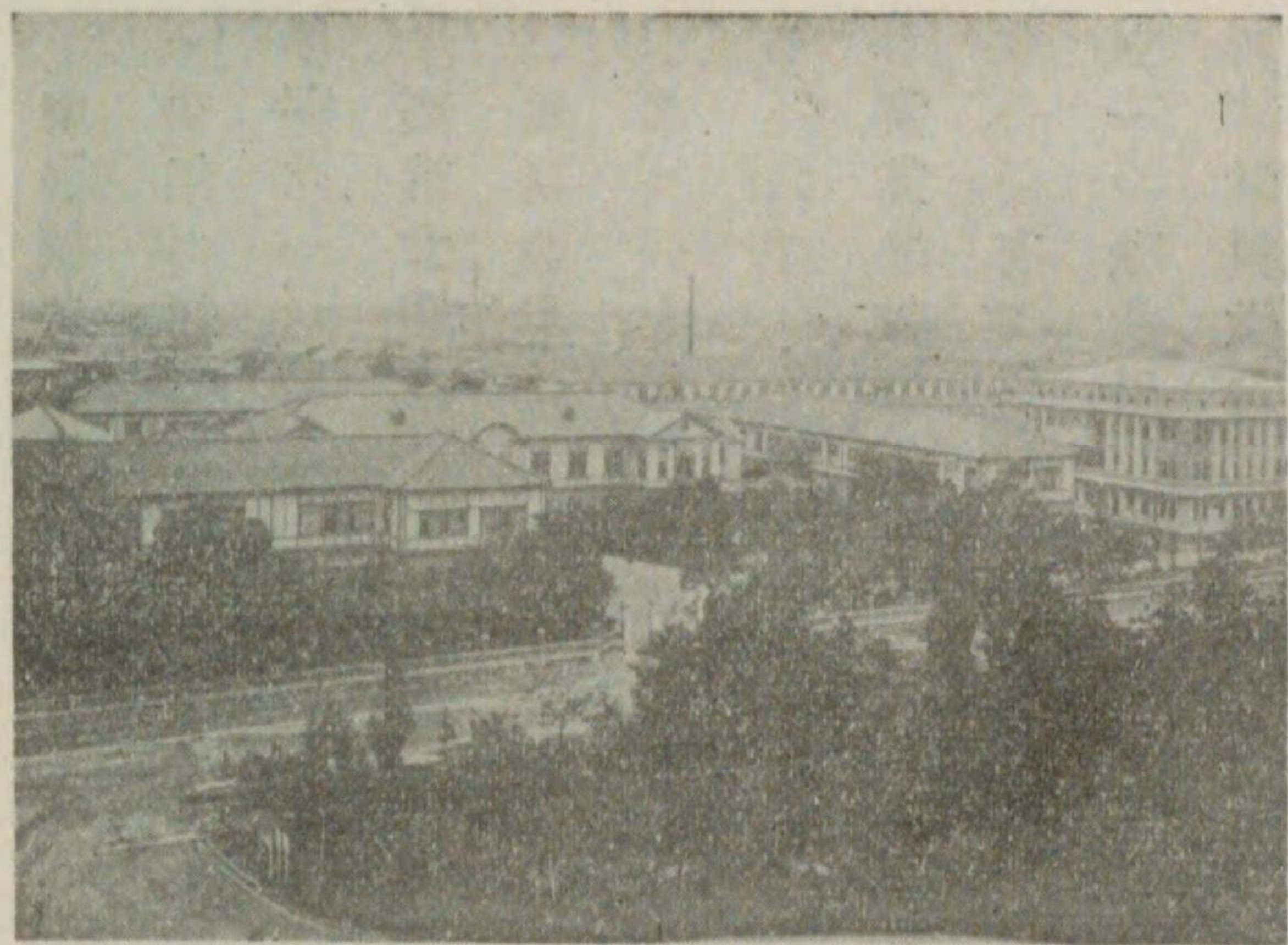
百八十餘名、教員數五十七名、廿九年の經

費は縣費四萬五千圓、私費一萬八千餘圓で

ある。

各種學校は合計九十餘校あるが、之等は

自動車、産婆、看護婦等直接職業に關する



名古屋醫科大學

主として裁縫、簿記、電氣、速算、自動車、産婆、看護婦等直接職業に關する

學術と技能を教授する學校である。

其他 特殊施設として本縣は明治三十五年以來東亞同文書院及哈爾

濱學院へ留學生を派遣してゐる。現在派遣中の者は東亞同文書院へ七名、哈爾

濱學院へ三名で（月額五十五圓支給の者六名、三十圓の者四名）、卒業生は彼の

地に就職し帝國海外發展に尠からぬ貢献をなしてゐる。

學事獎勵としては昭和二年本縣で陸軍特別大演習の行はれた際の御下賜金四

千圓及御大典の際の御下賜金五千圓を基金とし、之に縣費六千圓を加へて學校

生徒獎學資金を設定し、その利子を以て毎年度各中等學校卒業生中成績優秀な

る者各一名に對して賞品を授與してゐる。又昭和二年度には縣費十萬圓を以て

教育者子弟獎學資金を設定し、教員の子弟で專門學校以上に學ぶ者に對し、毎

年其の利子を以て獎勵金を支給してゐるが、現在其の受給者は五十名に上る。

校外教護施設近時社會環境の情勢に伴ひ、生徒兒童の校外生活を保護、監督

並善導する校外教護が極めて必要となつたので、昭和八年四月愛知縣中等學校

校外教護聯盟を創設した。一ケ年の經費は一萬餘圓、現在名古屋市内中等學校四十餘校が之に加盟してゐるが、尙豊橋市に東三支部の誕生を見、又岡崎市、一宮市、知多郡半田町、幡豆郡西尾町等を中心とする支部も結成近く、互に連繫を保つて校外教護の萬全を期してゐる。

愛知縣教育會は明治二十年三月の創立で本縣教育の改善發達を圖るを目的とし、縣下郡市教育會及其他教育團體を以て組織され、豫算年額二萬五千圓を計上して研究、審査施設、講習講話會の開催、出版等の事業を行つてゐる。

社會教育

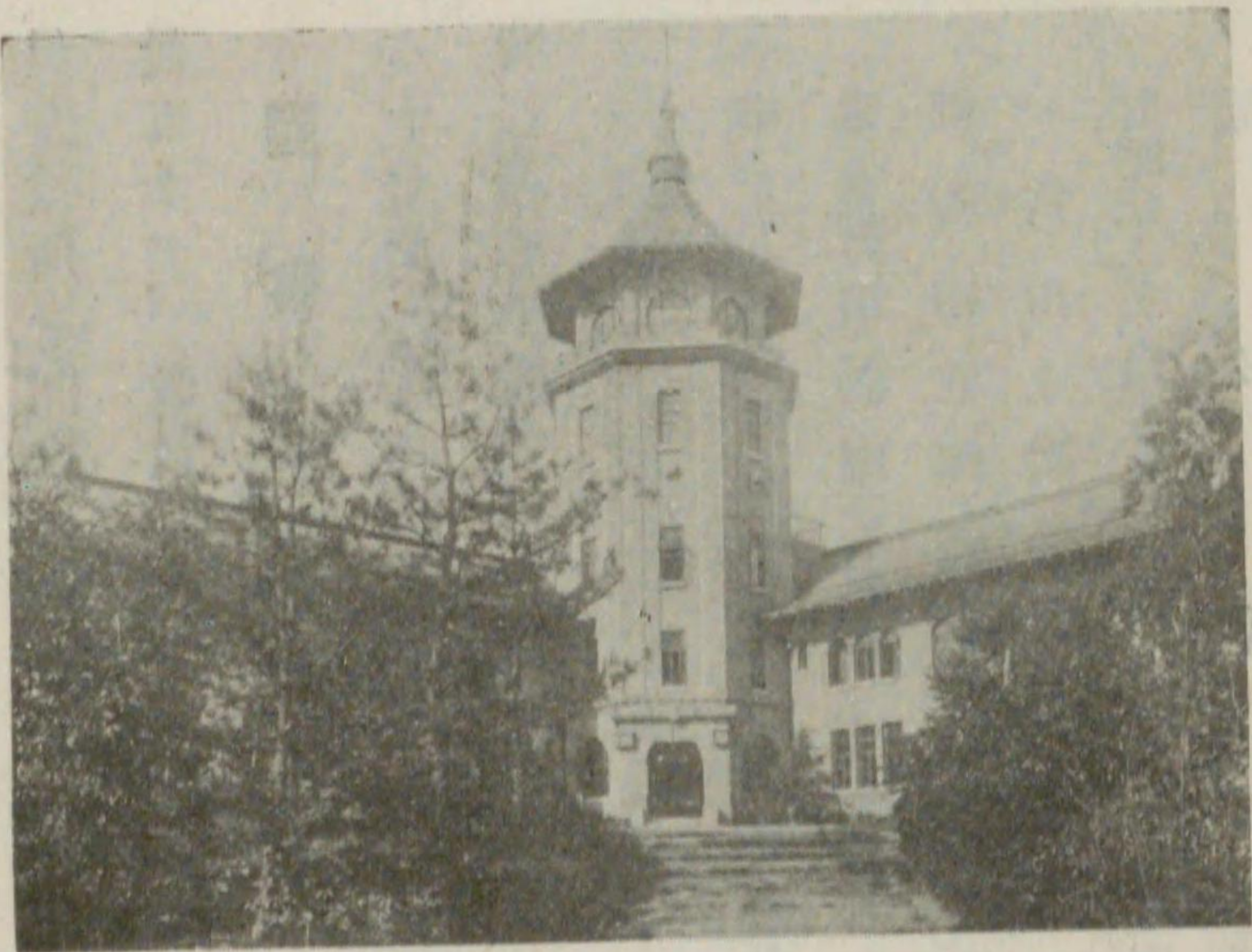
近時社會の情勢は一般民衆の教育向上を促し、殊に思想善導の要切なるものがあるので、本縣は縣民の組織的訓練によつてその實効を擧げんと男女青少年團、青年學校等の指導並勤勞者教育、教化事業、國民更生運動、映畫教育、圖書館等の獎勵に留意し、社會教育委員（現在八千餘名）の制度を設けて専ら其

の普及と徹底に努めてゐる。而して之等男女青少年團の幹部は素より社會教育

の樞軸となつて活動すべき人物養成の目的を以て昭和三年名古屋市に愛知縣昭和塾堂を建設し、社會教化の修道場として實績を擧ぐるに努めてゐる。

青年學校

昭和十年四月青年學校令公布と共に本縣は同月之が施行細則其の他を定めて内容の充實を圖つた。現在公立四百三十一、私立十九、合計四百四十七校で、生徒總數七萬二百名に上り、内普通科五千五百名、本科四萬二千九百名、研究科一萬一千七百名、專修科九千八百名で、之等就



愛知縣昭和塾堂

學率は七十四%五を示してゐる。

又青年學校の專任教員を養成する爲大正七年本縣に修業年限二ヶ年の實業教員養成所を開設したが、昭和十年之を青年學校教員養成所と改稱した。生徒定員五十名、教員十二名を有し、經費一萬三千八百餘圓を支出してゐる。

圖書館 本縣に於ける圖書館は市立四、町立四十三、私立二十、總計六十七で、其の藏書冊數三十一萬二千餘、一ヶ年の經費は公費七萬五千圓、私費二萬二千圓である。主なる圖書館を示せば

館名	所在地	創立年月	圖書冊數	閱覽人員
市立名古屋圖書館	名古屋市中區鶴舞町	大正五年九月	二二、二五	三六、三九
豐橋市立圖書館	豐橋市花田町	明治廿四年	二六、七五	八二、八六
岡崎市立圖書館	岡崎市公園内	〃	三〇、五六	五四、七四
一宮市立圖書館	一宮市人形町	大正二〇年九月	六、二三	五、六一
財團法人名古屋公衆圖書館	名古屋市東區武平町	〃	四〇、三〇	一五七、四七
瀧文庫	丹羽郡古知野町	〃	一、九〇	四、四九
財團法人岩瀨文庫	幡豆郡西尾町	明治四〇年	八、一五	二、四〇

青年團 男子青年團は總數四百七で、内郡市區聯合青年團二十八、郡部青年團三百六十四に分れ、團員總數七萬四千名に上り、一ヶ年の經費は十六萬圓に達してゐる。而して之等團體を以て組織する愛知縣聯合青年團は經費年額一萬二千圓を以て青年團事業の奨励と指導に當つてゐる。

女子青年團の總數は三百三十一で、團員總數四萬一千名、一ヶ年の經費は二萬八千圓である。之等團體を以て組織する愛知縣聯合女子青年團は豫算年額六千餘圓を以て郡市聯合女子青年團に對し補助、事業の奨励等をなしてゐる。

少年少女團體 現在總數三百三十四、團員總數十一萬一千名、一ヶ年の經費は二萬圓に及んでゐる。此の内少年赤十字團は百九十二、宗教少年團、其の他各七十一で、以上の他に尙少年團日本聯盟加盟團四十七がある。何れも發展過程に在つて本縣は其の統制と學校少年團の普及、指導等を圖つてゐる。

婦人團體 從來本縣の婦人團體は愛國婦人會を除き、同窓會、社交團體、母の會、法話會、婦人農會、婦人消防隊等其の數百餘を算へ、社會的活動は見

るべきものがあつたが、時代の趨勢は更に婦人の覺醒とその協力を促し、從來の偏頗な特殊的傾向を脱して普遍的運動の緊要を叫ばしめた結果、昭和八年には愛知縣聯合婦人會が創設せられ、家庭教育の振興並生活改善の實行を期し、婦人團體の一大教化網を組織するに至つた。

勤勞者教育

本縣は昭和四年度より文部省と協同して勤勞者輔導學級を開設し、一般勞働者の教養向上に資してゐる。又縣下の工場、交通勞働者二十餘萬人に對する修養指導機關として愛知縣勤勞者協會を設立、名古屋、豊橋、岡崎、一宮、瀬戸の各市を連絡團體とし、豫算年額一千餘圓を以て會員相互の親睦、修養、啓發等に専ら努力してゐる。

成人教育

本縣の成人教育講座は從來市町村との共同主催として開設、地方民の實際生活に即せる教養の向上を圖つて來たが、最近新に文部省と共同主催の講座をも開設し、専ら地方啓發に努めてゐる。

公民教育

本縣に於ては町村を單位として公民、産業、道德等其の町村

の實際に即せる研究並之が實行を促す常設公民講座を開設し、婦人講座、成人教育講座等と相俟つて一般民の教養向上に格段の努力を拂つてゐる。

教化事業

本縣の教化事業は民力涵養、勤儉獎勵、教化總動員、公私經濟緊縮運動等を経て今次の國民更生運動に移つた。爾來縣は常に縣民の指導、教化に努め、民間に於ても之を強調する團體漸次多きを加ふるに至り、縣の施設と相俟つて近年著しき進展を示した。則ち昭和三年には國民道德の向上を目的とする各種團體が結合して愛知縣教化事業協會を設立し、縣内各市町村を單位とする教化網の完成を得てその組織的統制を圖り、互に連繫して堅實なる發達を期してゐる。

尙昭和六年滿洲事變突發以來外交問題の重大性が擴大すると共に經濟問題及思想問題も亦急迫し難局に逢着したので、茲に國民精神の振作、經濟生活の刷新を企圖し、政府の國民更生運動方針に基き縣費を投じて洽く縣民の教化運動を開始し、各種事業を行つてその指導誘掖に腐心した結果、現在に於ては都市

教化の擴張、農山村の更生方策樹立等縣下各地に於て目覺しき更生運動の實効を收めてゐる。

映畫教育

本縣は映畫の思想上に及ぼす影響の極めて顯著なるに着目し映畫班を設け健全なる娛樂の助成、社會教化の實効を擧げんとして、管下全市町村を年二回以上巡回する計畫を樹立し目的の達成に努めてゐる。

社會事業

本縣に於ける社會事業は從來の無統制、不活潑な慈善事業の域を脱し、大正八九年の交愛知縣社會課及名古屋市社會部の設置を契機として煥然組織的活動に移り、漸次豊橋市、岡崎市等に普及すると共に各種施設相次いで起り、更に關係法規の制定に依つて一段の發達をみるに至つた。又宮内省、有栖川宮家、内務省及慶福會等より優良團體に對して毎年多額の御下賜金並助成金の下附せられるを始め本縣亦之に補助金を與へ、他の私的助成機關と相俟つて夫々の施

設に於て指導、助成に格別の努力を拂つてゐる。之等統制機關として愛知縣社會事業協會がある。同協會は本部を縣廳社會課内に置き三十三萬六千餘圓の經費を以て庶務、事業、融和、會計の四部を設け隣保館六、輕費診療所三、小兒保健所三、公益質屋一、不良住宅改良事業等を經營すると共に斯業の調査、研究、助成に努め遺憾なき機能の發揮を期してゐる。

兒童保護事業

妊産婦並乳幼兒保健事業は兒童保護事業の樞軸をなすので、

本縣が極力常設小兒保健所の設置を勸奨した。その結果現在其の數二十五に達するが、何れも一週一回以上の健康相談をなし又常時保健婦を家庭に訪問せしめて専ら其の指導に當らしめてゐる。其の他の施設としては日本赤十字社愛知支部産院、愛國婦人會愛知支部妊産婦相談所、同那古野妊産婦相談所等がある。保育事業には常設保育園と季節託兒所がある。常設保育園は其の數六十一を算へ、一ヶ所に五十名乃至二百名の兒童を收容して給食並乳幼兒保育等を実施してゐる。季節託兒所は農繁期に於ける臨時保育施設として昭和二年創始以來

普遍的發達を遂げ、各市町村方面事業助成會、佛教會等競つて之が經營に當り、現在其の數五百八十六に達してゐる。

少年教護事業は院内教護と院外教護とに分れてゐる。院^内教^護施^設には縣立愛知學園と私立の中央有隣學院がある。愛知學園は明治四十二年の創立で、昭和十一年四月より少年鑑別所を併設した。收容定員は百五十名で、其の規模の大と教護の内容に於ては全國教護院中屈指のものである。中央有隣學院は明治三十三年の創立で四十名の定員を有し、創立以來よく實績を擧げてゐる。院^外教^護は縣下に一千三百名の少年教護委員（内二百名常任委員）を設けて行つてゐるが、現在少年教護委員の觀察處分に附せられてゐるのは六十二名である。而して本事業は昭和九年少年審判所、矯正院の設置と相俟つて一層其の効果を増大するに至つた。

兒童虐待防止事業は昭和八年兒童虐待防止法施行に伴ひ各關係方面と協力して本法趣旨の徹底に努めてゐる。現在收容保護を加へつゝある兒童は十四名である。

貧兒扶助は從來區々たる法令に依つて實施されて來たが、昭和七年一月救護法施行と共に概ね之に統合された。施設としては公設救護に名古屋市東山寮があり、私設救護には愛知育兒院、名古屋養育院、名古屋聖心愛子會、大乘報恩會、名廣愛兒園等がある。

救貧事業 本事業は法令に依る公的救助と私的救助とに分れる。

公的救助としては一般法である救護法の外に行路病人及行旅死亡人取扱法、軍事救護法、罹災救助基金法の特別法に基き近時激増しつゝある要救護者に對して遺憾なきを期してゐる。

私的救助の施設には服部公益財團外七團體があつて從來慈善團體としての活動を續けて來たが、方面制度網の擴充に伴ひ助成會の組織せられて以來専ら之が中心となり實績を擧ぐるに努めてゐる。

方面事業

本縣の方面制度は大正十二年名古屋市に八方面を設け委員四

十名を囑託したのに始まり、漸次縣下各地に普及したが、其紊れざる統制は諸般の實際的活動と相俟つて益々完備し、社會事業の中樞機關として目覺しき活動を續けてゐる。今其の組織並活動の概況を示せば、設置行政區域は全縣下に及び其の方面數二百三十、專任職員三十四名、委員數一千二百九十七名で、昭和九年度に於ける取扱件數六十八萬四千件に上つてゐる。尙現在カード登録世帯數は八千五百二十戸、其の世帯員數は三萬三百人である。

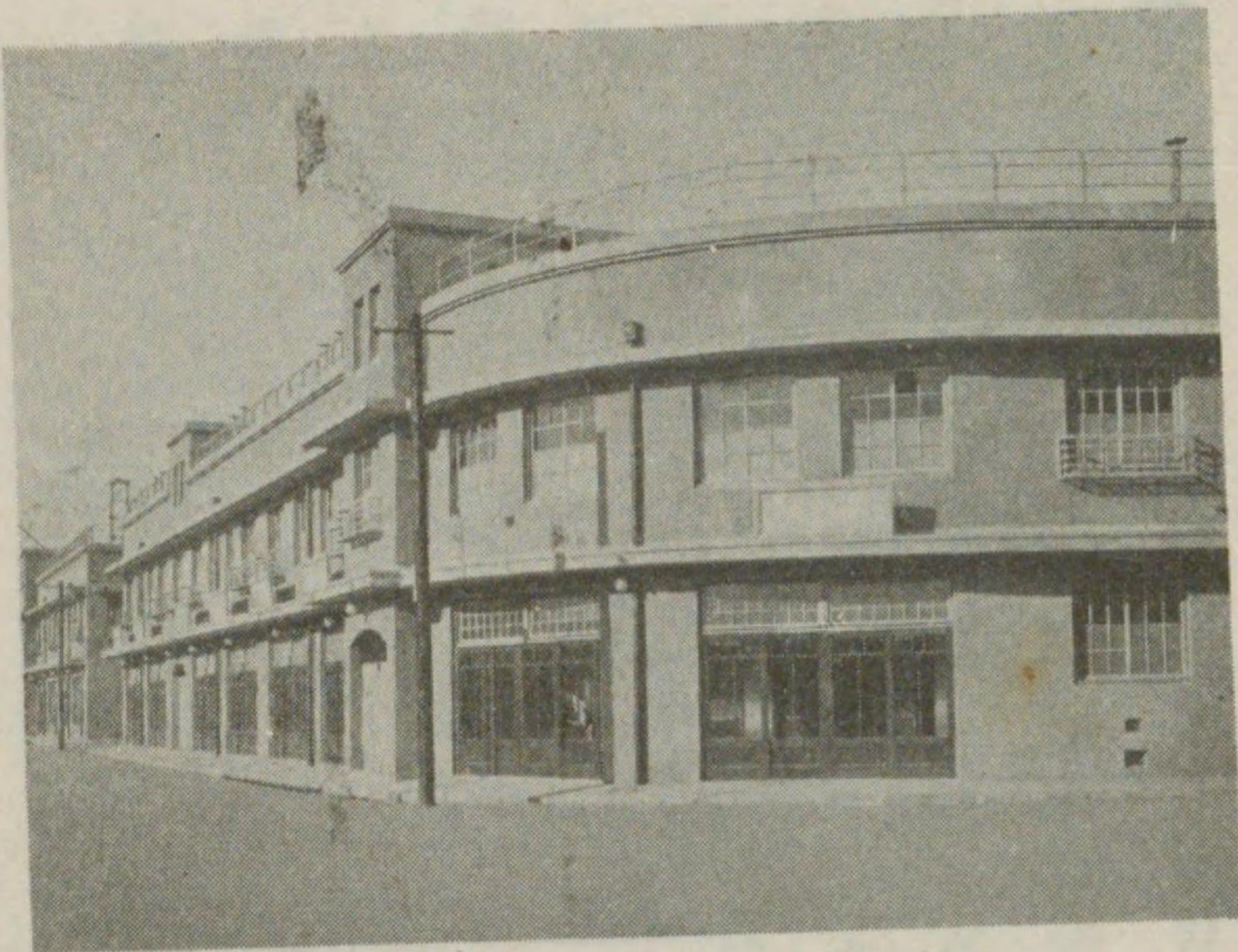
救療事業

本縣は醫療に不便な農山漁村七十七ヶ町村に對し巡回診療班六班を組織して之を派遣し、又小産者のため輕費診療制度を設け、或は恩賜濟生會委託診療、救急箱の設置をなす等銳意救療の徹底を期してゐる。この他一般施設としては委託醫療、診療所、施療病院、特殊救療等がある。

經濟的保護事業

簡易低廉なる衣食住の供給に依て生活不安を輕減せんと、本縣は名古屋市中區下奥田町に百八十八萬圓を投じて木造並鐵筋コンクリート建住宅、ブロック建獨身アパートを建設し不良住宅地區の改良を行ふと共に住

宅組合を組織する者には低利資金を貸與して簡易住宅の自主的建設を勸奨して



下奥田町改良住宅

ゐる。現在住宅組合數九十六、住宅數九百七十一戸を算へてゐる。又名古屋市其他の公營施設として、公設市場二十六、公設食堂十四、公設質屋十七、公益住宅四百四十三戸がある。

隣保事業

本事業は大正十三年に始まり其施設現在七ヶ所に及ぶが、内六ヶ所は愛知縣社會事業協會の經營で、主として幼児保育、保健、衛生、夜學、講演講習會、人事相談、貯金獎勵、授産、各種娛樂の供給等に努めてゐるがこの他各地區の事情に應じて特殊な事業をも營み對稱者の福利増進に或は融和促進に活潑なる活動を

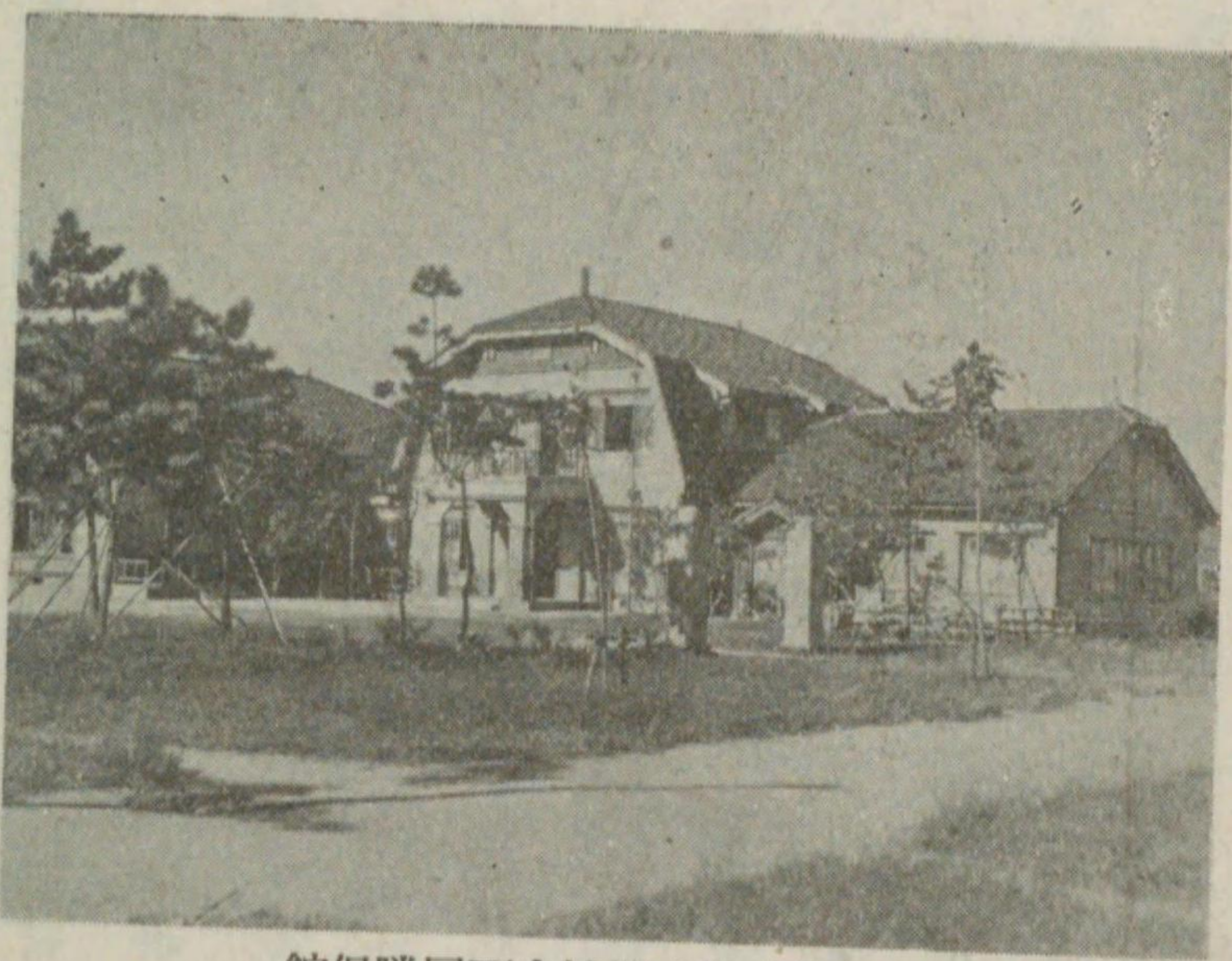
爲しつゝある。尙最近縣下農村地方に古來よりの五人組制度の精神を採り入れた農村隣保事業組合が結成され、今や其の數十三に及ぶ。

勞働保護事業

管内の失業者は昭和七年末を境として漸減の傾向を示して來たが、猶二萬の失業者を擁するので之が對策として職業紹介事業失業應急事業、投産事業、小資融通等多方面に亘る救済施設を講じてゐる。現在一般職業紹介所十、勞働紹介所六、給料生活者職業紹介所二、少年職業紹介所五がある。

地方改善事業

本事業は縣下の要改善特殊地區三十八ヶ所に對して毎年度縣費補助金を交付し、地區の實情に應じて隣



愛知縣社會事業協會西尾隣保館

保館の經營、地區整理、副業獎勵、農事改良施設、教化施設、住宅改良等を勸奨し從來の因襲的偏見と其の惡習の除去に努めてゐる。

内鮮融和事業

近年經濟的膨脹著しき爲管下各都市に憧憬して渡來する朝鮮人は累年増加し、現在其の數二萬に達してゐる。然るに就業する者はその半數にも達せざる現状にあるので、本縣はその保護と生活の安定を圖つて内鮮融和の實を擧げんと各關係團體に補助金を交付し、無料宿泊所、職業紹介所、勞働夜學校、無料診療所、人事相談、簡易住宅建設等の諸事業を行はしめ専らその救済保護の途を講じてゐる。

釋放者保護事業

釋放者及起訴猶豫、執行猶豫等の處分を受けた者に對し、愛知自啓會、中京保護會、財團明德會等が裁判所、刑務所等と連繫を保ち、直接或は間接に夫々庇護救済を加へてゐる。

産業

本縣は氣候溫和で地理上、交通上、本邦中樞の地を占めてゐる。北東部に起伏する山脈は尾張、三河の兩平野を抱き、平野はその間に點在する幾多の沼池と河川の貫流に潤されて豊穰である。南は海洋に瀕して各種の海産物に富み、商工業亦近年著しく活況を呈し、今や名實共に中部日本の富庫である。

昭和九年に於ける本縣生産物總價額は十億八千五百五十九萬三千七百四十五圓で、同年末現住戸口一戸當り一千八百九十六圓、同一人當り三百七十一圓である。之を二十年前の大正四年に比較すれば實に六倍弱の飛躍である。その生産額を産業別に示せば次の如くである。

産業別	生産價額	道府縣中順位
農産	七八、四一八、一四六	六
蠶絲	五六、六八七、五四七	二

畜産	林産	水産	鑛産	工産	總價額	一戸當り	一人當り
二一、三三四、三八九	三、五三九、八一八	一一、二八九、四四六	二、三六五、一六九	九〇六、九五九、二三〇	一、〇八一、五九三、七四五	一、八九八	三七九

農業 本縣の耕地面積は田九萬九千二百三十九町步、畑六萬二千二百

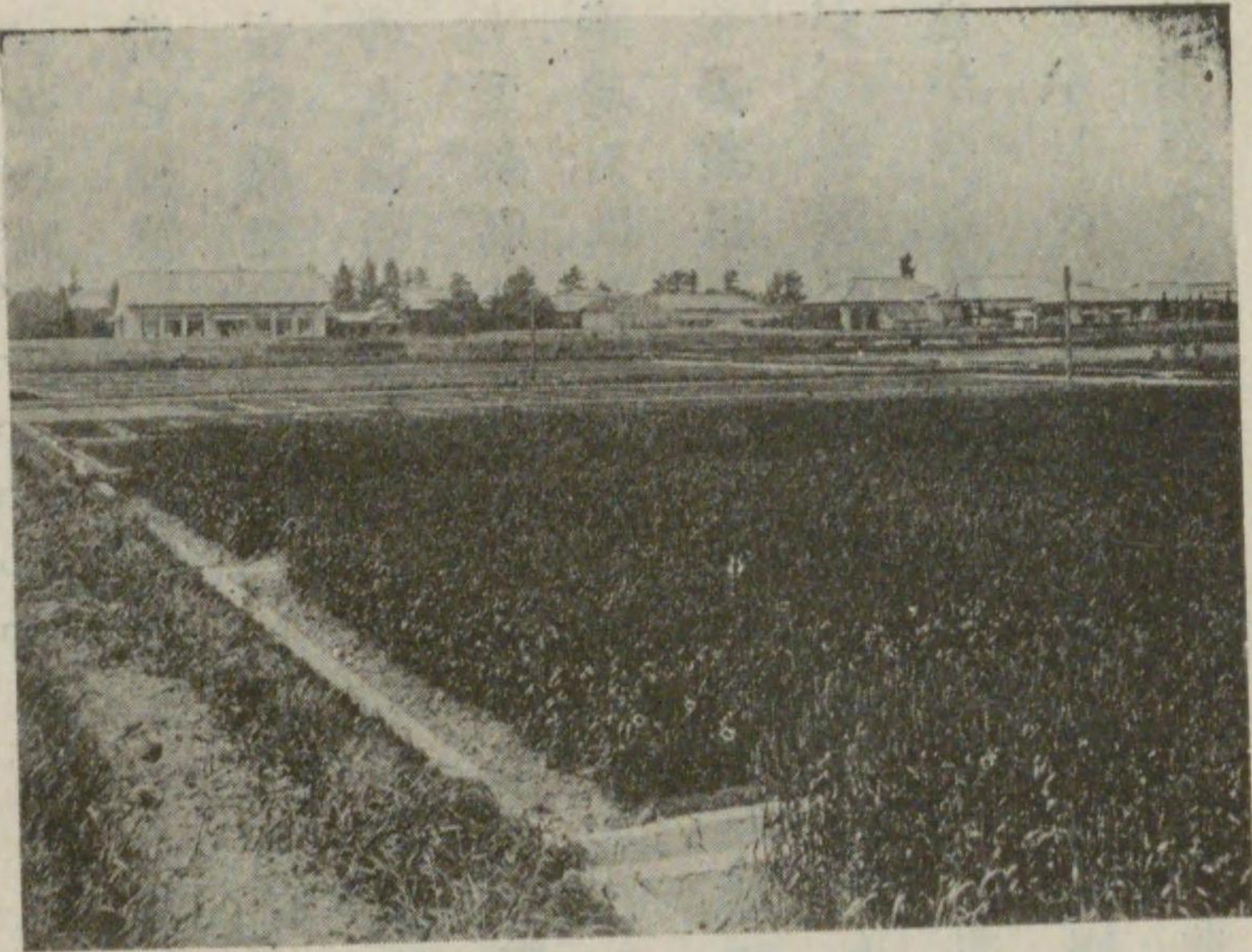
百四十七町一反、計十六萬四千四百八十六町一反で、本縣全面積の三割餘を占め、農家戸數十八萬八千四百九十八戸に對し一戸當り田五段三畝、畑三段三畝、計八段六畝となる。而して農家戸數中專業農家は十四萬三千四百四十五戸、兼業農家は四萬五千三百五十三戸であるが、内自作農五萬九千五百三戸、小作農三萬七千六百三十七戸、自作兼小作農九萬一千三百五十八戸である。

一 (註) 一戸當り、一人當りは昭和十年國勢調査結果速報に依り算出せり

本縣は農業の有機的發展に資する爲優良農具の利用と農業經營の改善を圖り、關係各課始め農事試驗場、種畜場、農産物検査所等をして實地指導、補助金交付、種苗の配付等を行はしむる他各級の農會、産業組合等と提携して専ら諸般の改良、増殖に努力を拂つてゐる。而して農事改良實行組合中成績優秀なるものを農村共同經營組合に指定し、資金を貸與して經營に必要な設備を行はしめ、經濟更生の理想邑の建設を期してゐる。又自力更生運動に呼應して昭和七年農山漁村經濟更生委員會を設置すると共に管下市町村に對し、市町村經濟更生委員會の設立を勸奨したる結果逐次之が設立を企圖するもの多く、現在に於ては大部の計畫樹立を完了するに至つた。

小作爭議の緩和解決策としては自作農創定事業を企圖し、全國に率先して大正十一年度より資金貸付を開始、昭和十年度迄に四千七百五十三人に對して三百五十二萬圓を貸付、其の創設維持したる面積は田七百九十四町二反、畑三百八十一町八反、宅地一萬六千四百坪に達し成績頗る良好である。而して近年集

團貸付の制を實施し現在其の數八十二部落に及んでゐる。



愛知縣農事試驗場

愛知縣農事試驗場は碧海郡安城町に在つて、農事各般の試験研究並調査を行ひ、米麥蔬菜等の優良種子の生産、配付等を行つてゐる。又山村農業開發試驗地、山村農作物原種圃を北設樂郡に、不良土開發部落を縣下七ヶ所に夫々設置し、尙農業技術員養成の爲農業練習生の養成をも爲してゐる。昭和十一年度豫算二十一萬圓、原種圃（中島郡奥町、碧海郡安城町、豊橋市植田町）、反別現在十七町四反。

愛知縣農事試驗場清洲分場は西春日井郡清洲町に在る、内海果樹試驗地（知多郡内海町）を附屬し、主として蔬菜、蔬菜

採種、果樹、温室及温床栽培、蔬菜加工等の試験研究を行つてゐる。
 愛知縣農産物検査所は本所を縣廳内に置き、二十三の出張所、八十六の派出所を統轄して農産物の検査、改良、貯藏、保管並販賣指導等に當つてゐる。現在の取扱種目は米、大麥、小麥、稗麥、菜種、藁工品、鶏卵、大根切干及苧麻の九品種で、昭和十一年度豫算は二十八萬圓である。
 愛知縣追進農場は岡崎市美合町に在る。昭和九年の設立で、農村中堅青年の養成を以て目的としてゐる。

農業組織は從來稻作が主で畑には雜穀の他甘藷、棉、葉藍等栽培されてゐたが、養蠶業の發達に伴ひ明治三十年頃より棉、葉藍の栽培地は殆んど桑園と置きかへられ、同四十年頃より蔬菜、果樹、苗木、農産加工等が漸次發達の傾向を示した。然るに歐洲大戰後經濟界の好況は勞賃の暴騰となつて農民生産の主要素たる農村勞力缺乏の結果勞賃の節約、勞苦の輕減が叫ばれ、所謂經營の機械化を現出したのである。其の後經營の複雑化と共に生産物の處理、販賣方法

等に於ても一段の進歩を遂げて、各地に合理的多角形農業が行はるゝに至つた。

農産物の主要なるものは米と麥であるが、米の産額は最近五ヶ年平均二百萬二千三十一石で、縣内消費額に對し百餘萬石の不足を生じてゐるので、本縣は之が優良品種の普及を圖り、農事試験場には原種圃を設けて獎勵品種を栽培し、其の生産種子を農事改良實行組合等の共同採種圃用として無償配付してゐる。麥も亦米と同様に縣内消費額に對し生産額僅かに七十餘萬石といふ状態なので、本縣は國策に順應して特に小麥の増殖獎勵計畫を樹立し昭和七年度より五ヶ年計畫を以て栽培面積一萬町歩、收量二十五萬石の増加を期し原種圃に獎勵品種を栽培して其の生産種子を無償配付してゐる。

園藝は總生産額一千八百萬圓を超え、農家經濟上重要な位置を占めてゐる。其の主なるものは萊菔、里芋、西瓜、甘藷、ナタネ等で年産額何れも百萬圓を超えるが、此の他にも特産として蓮根、促成栽培に依る土當歸及欸冬、切干大根、蔬菜種子、果樹苗、觀賞植物、果實等がある。

菜菔は年産百五十七萬圓で中島、知多、丹羽の三郡を、西瓜は百十二萬圓で碧海、中島の兩郡を、里芋は百五萬圓で中島、海部、丹羽の三郡を何れも主産地とする。蓮根は年産四十四萬圓にすぎぬが、特産として知られ内八割を海部郡に産する。土當歸は二十五萬圓、欸冬は七十一萬圓の年産で促成栽培によるもの多く、中島、海部の兩郡を主産地とする。切干大根は本縣特産として早くより著名で、年産額四十五萬圓に達し内四割を中島一郡に産する。種類は千切干、花丸干、蠶切干、割干、長割干で千切干が其の大部分を占めてゐる。甘藷は米麥に次ぐ農作物で年産額二百十四萬圓に及び知多、寶飯の二郡を主産地とする。馬鈴薯は六十五萬圓で知多郡にその半ばを産する。菜種は九萬六千餘石、價額にして百九十二萬圓の産額で幡豆、海部の兩郡に過半数を産する。果實は年額百五十萬圓に達するが内三割は蜜柑で知多、寶飯の兩郡を主産地とする。觀賞植物は六十萬圓で内庭園木及街路樹、盆栽、切花の三者併せて四十三萬圓に及び名古屋市及中島郡を主産地とする。蔬菜種子は年産五十萬圓で東春日井、

丹羽、碧海、中島の四郡に七割を産し、大根種子が過半数に及ぶ。果樹苗は産額十七萬圓にすぎぬが、その數量は三百三十萬本に及び觀賞植物と共に中島郡の特産として知られ、海外に迄輸出されてゐる。

肥料消費状況は最近五ヶ年平均年額二千三百十二萬圓で農家一戸當り百二十二圓となつてゐるが、金肥の消費は一千三百九萬圓で全國の首位に當り、自給肥料は一千三萬圓である。本縣は金肥の節減に依る農家經濟の維持、増進の見地より自給肥料中最も重要な堆厩肥、綠肥の増産を奨励、その十割増加を期し、各種施設を講じて目的達成に努めてゐる。尙縣に肥料改善審議會を設置し肥料改善の総合的奨励方針を確立し之に基いて關係各機關各職能に應じ連絡協調の下に之が改善を圖つてゐる。現在綠肥用作物は栽培面積一萬町歩、收穫高三千五百萬貫、價額にして四十四萬圓、内紫雲英が過半数を占めてゐる。

組合の主なるものに愛知縣園藝農產品出荷組合聯合會があるが、此の他にも愛知縣肥料協會、愛知縣穀物協會等があつて彼此連繫して圓滑なる發達を期し

てゐる。

副業

本縣に於ける各種の副業は適切なる研究に依つて逐年發達し、農村經濟上相當重要な地位を占むるに至つた。其の内原始生産品では觀賞植物（切花、盆栽、庭園木及街路樹）の四十餘萬圓、養兔の五萬五千圓、養蜂の四萬三千圓、養鶏の四百二十五萬六千圓を主なるものとし、農産加工品では漬物類の百八十二萬九千圓、トマト加工品の八十六萬七千圓、切干大根の四十三萬五千圓、茶の二十二萬一千圓、干柿の二萬圓等を主なるものとする。其の他のものとしては麻真田の九十六萬八千圓、座繰絲の七十三萬九千圓、藁製品の七十五萬八千圓、竹製品の五十七萬七千圓、椎茸の六萬三千圓等著しきものである。又賃仕事は頗る巨額に上るが、その種類は一閑張、鼻緒、紙袋、紙函、足袋、組紐及秀紐、メリヤス製靴下及手袋、刺繡、絞り等で、之を地方別に示すと平坦地方では藁製品、漬物、大根切干、トマト加工品、製茶、養蜂、觀賞植物、座繰絲、養兔、竹製品等を主とし、山間部に於ては椎茸、干柿等最も盛である。

かくの如く副業の經營が逐次發達して複雑を極むるに至り本縣は成るべく原料の豊富に得られ易き地方に集團的組合組織に依る副業の共同施設を奨勵すると共に副業品の検査、販賣處分、生産向上等に専ら努力を續けた結果從來の投機的副業は漸次衰退して彌々堅實なる發達に向ひ前途囑望し得べき趨勢にある。組合中主なるものに愛知縣副業組合聯合會があつて副業品の生産改良、取引の圓滑、販賣統制を圖り、相互の利益増進に努め大いなる役割を果してゐる。

蠶絲業

昭和十一年調桑園反別は二萬七千三百九十九町九反で耕地面積の三割に當り、養蠶戸數は八萬五千六百九十七戸で農家戸數の約半數を占む。主なるものの生産額は繭五百五十八萬二千貫、生絲百三十萬八千貫、製絲屑物三十六萬六千貫、蠶種一千六百十九萬二千瓦、原蠶種二百一萬五千蛾、桑苗二千八百二十四萬一千本で、昭和九年度の事實に就き全國府縣中順位をみれば桑園反別は第五位、蠶種は第三位、繭は第四位、生絲は第二位、桑苗は第一位である。

本縣は蠶絲業の改善發達に資するため蠶業取締所を縣廳内に置き、縣内十三ヶ所にその支所を設くる他、蠶業試験場一、同支場二、製絲試験場一、繭檢定所二を設置して各種の検査、蠶絲業者の取締、原蠶種病毒の絶滅、各種の試験研究、講習會の開設、原蠶種の配付、繭の檢定並取引の圓滑等に専ら努力してゐる。尙農林省蠶業試験場の一宮桑園は本年知多郡武豊町に移された。

桑苗の生産額は一時一億本を超え全國の過半数を占めた事がある。斯く盛大を致したことは本縣の風土に負ふは勿論であるが、接木法が本縣の人に依つて創始せられた事も要因の一である。然るに近時各府縣に於ける自給自産方針の影響を受けて生産額の減少をみるに至つたが、尙府縣中の首位を占め全國主要養蠶地を始め遠く朝鮮、滿洲に迄販路を有し依然桑苗界を風靡してゐる。

栽桑は全國稀にみる反當收繭量記録をあげてゐるが、縣下全桑園の平均反當收繭量は昭和十年に於て十九貫二百匁の低率である。本縣は荒廢桑園の整理及經營の改善等によつて更にその向上を圖り、昭和九年度より五ヶ年計畫を以

て平均反當收繭二十四貫を目標に桑園能率の増進に努めてゐる。

蠶種製造は昭和十年に於て普通蠶種一千六百十九萬二千瓦、原蠶種二百一萬五千蛾であるが、多糸量系黃繭種や現時夏秋蠶繭の大部を占める人工不越年種は實に本縣の創造にかゝるもので我國蠶種業界に寄與したことは頗る大なるものである。

養蠶は一ヶ年の産繭總數五百五十八萬貫で一戸當り六十五貫を生産し、農村經濟上重要な地位を占めてゐる。之を分布地域別の状態からみるも偏僻する事なく、數年來の蠶糸恐慌にも堅實な基緒を確保してゐる。尾張から三河山間部へかけて春蠶繭は頗る優秀であるが、殊に三河山間部に於ける夏秋蠶繭は夏秋蠶の本場繭と比較して遜色がない。而して之等産繭の處理は極めて圓滑に行はれ全國有力製糸家の購繭地盤として目覺しき進出をみせてゐる。昭和十年の取引方法割合を示せば生繭取引七割九分、乾繭取引二割一分で、その處理形態は組合製糸供繭九分、市場仲介四割五分、特約取引三割四分、其の他一割二

分となつてゐるが、近時此の取引方法を一層合理化するため産繭の規格統一と繭取引の合理化計畫を樹立し、縣下に七十餘ヶ所の集團的指導地帯を指定して各地帯内業者の指導奨勵に努めてゐる。

製糸業は明治二十七八年戦役後諸事業の勃興と共に俄然隆盛に赴き所謂器械製糸工場の經營をみるに至つた。越えて大正五年頃から更に一段の進歩を示し、尾張に於ては名古屋市以北に、西三河に於ては岡崎市以西に、東三河に於ては豊橋市を中心として南北に、夫々著しく發展し、本縣工業中重要な位置を占めてゐる。就中名聲を博する玉糸製糸は豊橋市を中心として東三河地方に最も盛で全國屈指のものである。製糸の生産總額は四千九百四十六萬圓を超え、内器械製糸は四千九十六萬圓、座繰製糸は百十九萬圓、玉糸製糸は七百三十一萬圓である。

組合は蠶糸業組合法に依る組合と重要物産同業組合法による組合とに分れ、前者には斯業の最高機關である愛知縣養蠶業組合聯合會を始め養蠶實行組合を

組織細胞とする郡市養蠶業組合、愛知縣製糸業組合、愛知縣産業組合製糸組合、愛知縣蠶種業組合等あつて機關誌の刊行、優良業者の表彰、生産品販賣の斡旋、品質改良等に最も力を注いでゐる。後者には愛知縣桑苗同業組合聯合會、桑苗同業組合、三遠玉糸製造同業組合、東三繭糸問屋同業組合、東三蠶種販賣同業組合等あつて生産品の改善、販路擴張、製品の検査等に格段の努力を拂つてゐる。又準則組合には桑市場組合及繭糸業者組合がある。

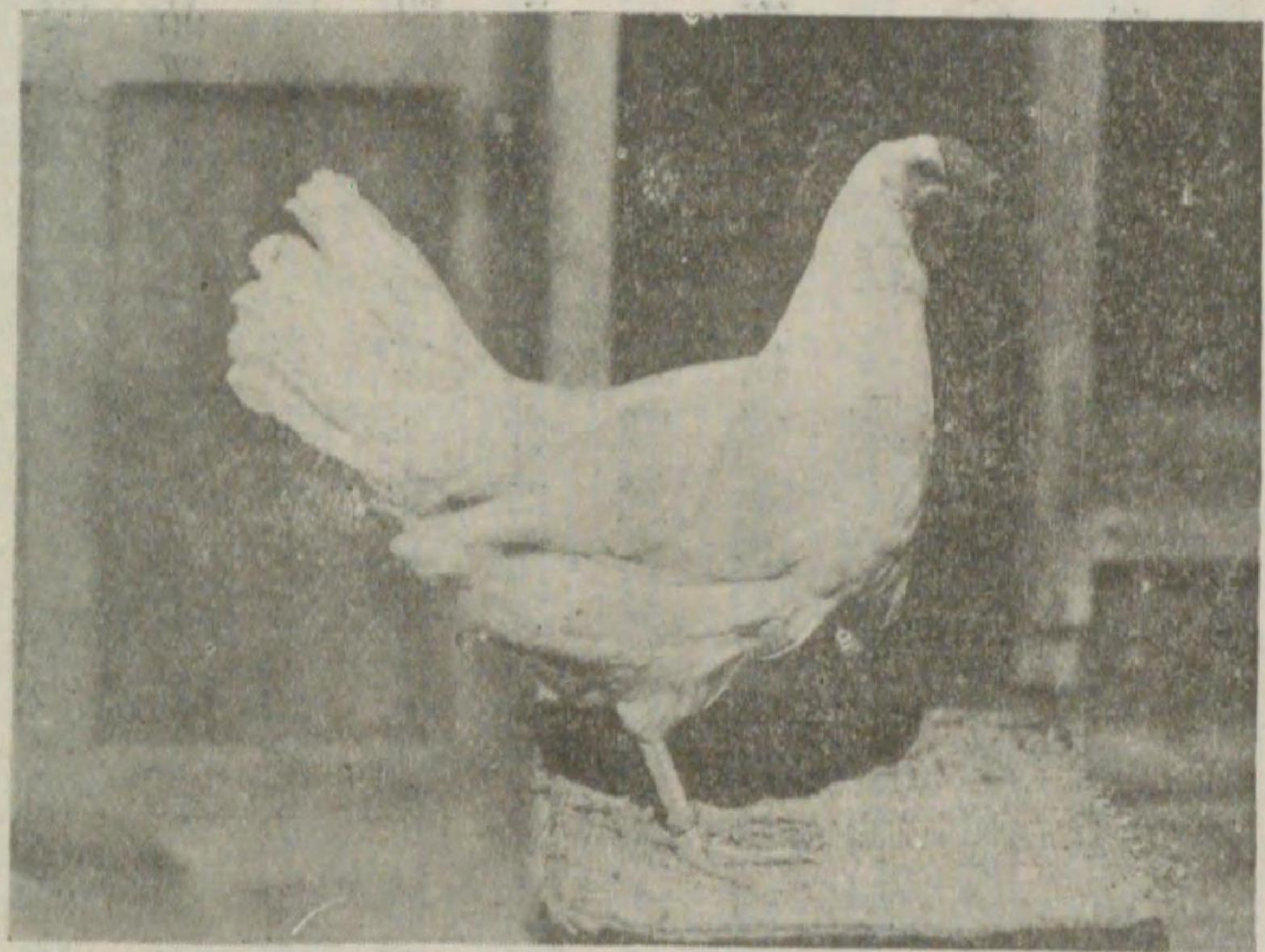
其の他愛知縣蠶糸業聯盟會、大日本蠶糸會愛知支會、愛知縣養蠶指導者協會等があつて斯業全般の連絡協調並調査研究に努めてゐる。

畜 産 業

本縣の風土は家畜、家禽の飼養に適してゐる。其の主なるものは牛馬豚鶏であるが、牛は二萬四千頭、馬は八千二百頭で何れも不振の域を脱せず、又綿羊も七百餘頭、山羊三千頭の現状で之亦畜産中重きをなしてゐない。然し乍ら養鶏は成鶏三百八十一萬一千羽、雛二百三萬三千羽、産卵個數五億五千十四萬八千、此の價額一千百四十八萬七千餘圓に達し全國の首位に當つ

てゐる。豚は五萬八千頭で全國中優位にあり増加率著しいものがある。

本縣は之等畜産業の指導獎勵施設として岡崎市に愛知縣種畜場を、西春日井郡清洲町に同分場を置いて斯業に關する智識と改良、増殖を圖り健全なる發達に努めてゐる。



(場分洲清場畜種縣知愛) 鶏持保録記卵産
(種ンホグレ色白鶴三十五百三録記)

營と規模は頗る壯大で、全國平均飼養戸數一戸當り十八羽なるに對し本縣はそ

養鶏は白色レグホンを主とし、尾張部に於ては名古屋交趾を改良せる名古屋種、三河部に於ては名古屋種と三河に於て改良された三河種とが夫々混用されてゐる(註本縣獎勵品種は前記三種で他府縣に迄移出されてゐる)。昭和十年調本縣養鶏戸數は十萬五千戸で府縣中第七位にすぎぬが、その經

の三倍餘即ち五十六羽に達して他の追隨を許さず、而も近年各都市の著しき膨

脹に伴ひ卵肉の需要は逐年増加し、養鶏王國としての聲價は益々昂められつゝある。

鶏の産卵能力檢定は大正十一年全國に率先して本縣が創始したものである。

組合は愛知縣畜産業組合聯合會、愛知縣養鶏組合聯合會、郡市畜産組合十九、郡市養鶏組合聯合會十五等で、技術員を配置し専らその勸奨に努めてゐる。

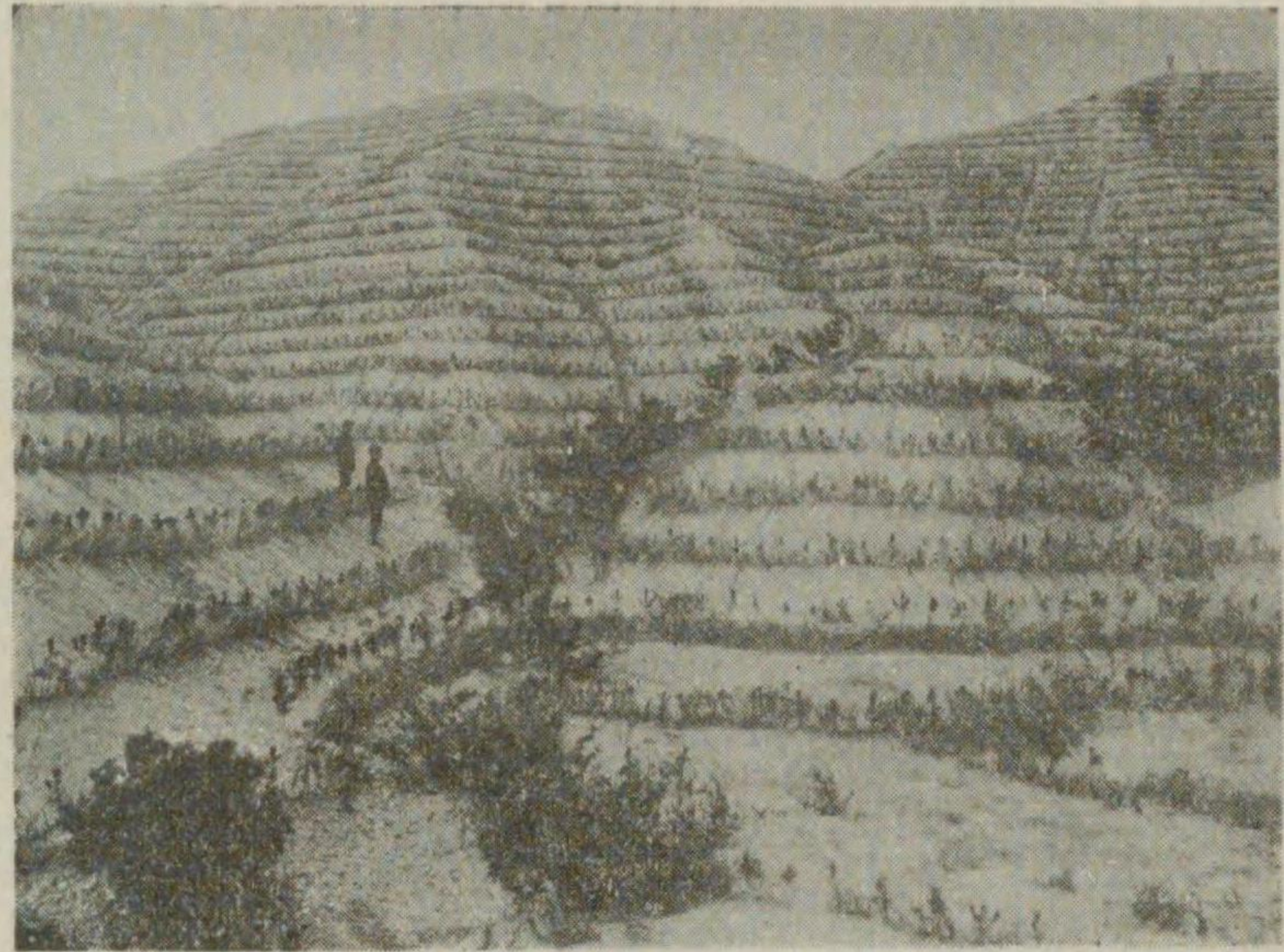
林業

林野は三河の大部と尾張の北部を合せ國有林一千三百町、御料林一萬七千三百町、公有林三萬八百町、社寺有

林三千六百町、私有林十一萬五千七百町、合計十六萬八千七百町で縣下全面積



(洞ノ山堂保伊字大村見保郡茂加西) 前行施事工防砂



(前) 同) 後直行施事工防砂

著しく顯はれ廣大な荒廢地も漸次綠化して水源を涵養し、林業思想の普及と共に

の半ばを占めてゐる。之等の林野は概ね諸川の水源をなし、往時は鬱茂の深林

であつたが、其の後林政の弛緩と共に濫伐

頻りに行はれて次第に荒廢に赴き、而も地

質が比較的脆弱なため土砂崩壊して旱魃、

氾濫等の被害多く、殊に庄内川、矢作川、

天白川、境川の上流地方に於て最も慘況を

呈した。茲に於て本縣は治水上、産業上寸

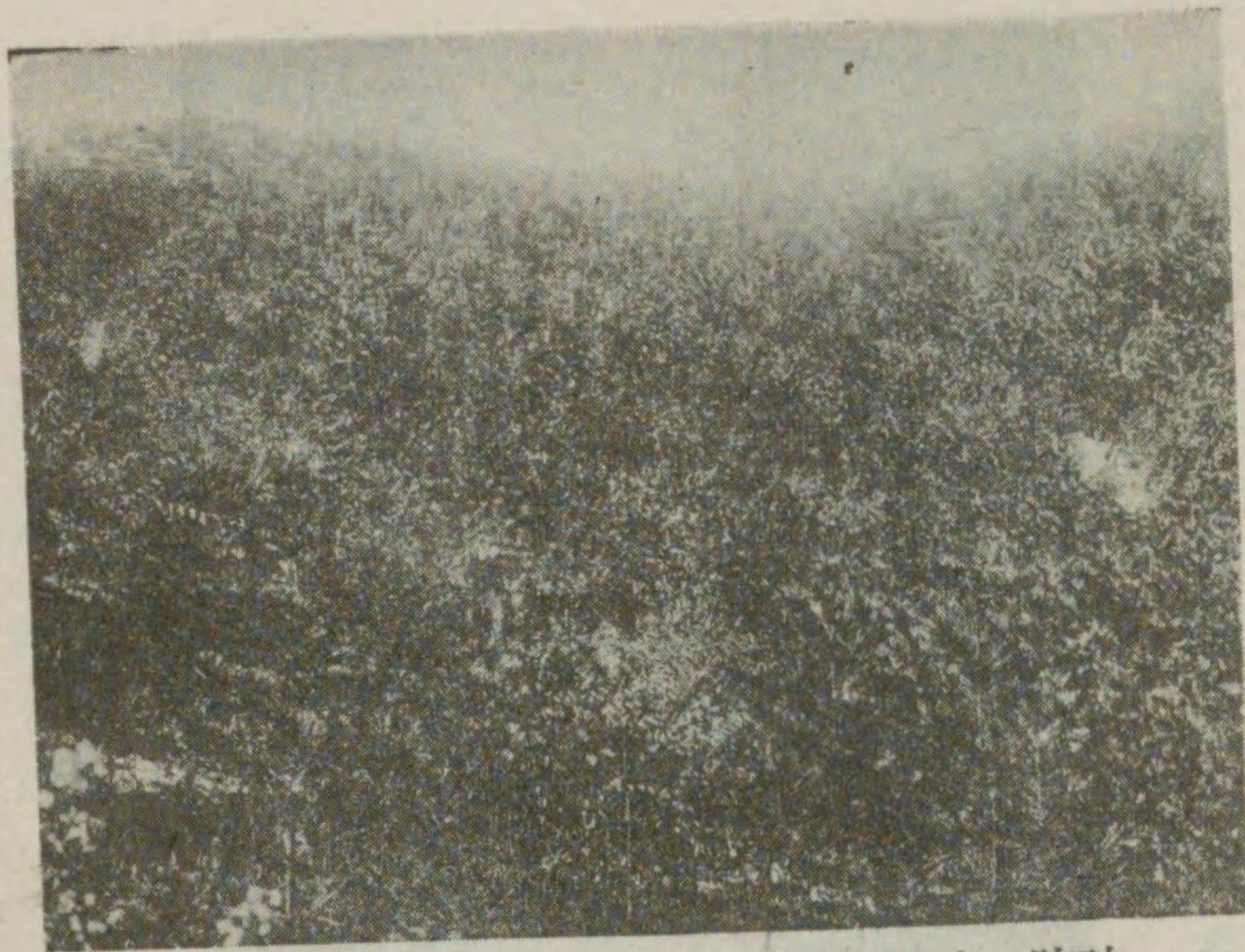
時も忽せにすべからざるを思ひ、明治三十

三年以來毎年十數萬圓を投じて砂防並荒廢

地復舊工事に着手し、同時に私有林に對す

る補助奨励の方法をも講じて専ら復舊工事

の實行を促した。その効果が近年になつて



(前) 同) 相林の後年八十行施事工防砂

に造林治水は殆んど完備するに至つた。昭和十一年度迄に投ぜられた砂防工事

費は三百六十萬圓に上つてゐる。又荒廢地

復舊工事の施行面積は二千六百ヘクタール、

此の經費百五十萬圓で、補助事業施行面積

亦四百ヘクタール、經費四十萬圓に及んで

ゐる。

尙渥美郡に於ける太平洋沿岸及知多郡内

海町附近は飛砂、潮風の爲保安上、産業上

に被害が頗る多いので、本縣は政府の計畫

に順應して昭和七年度より海岸砂防造林事

業を開始し、年々之を繼續して防備施設の

完成を期してゐる。

林業地は南設樂郡、北設樂郡、東加茂郡、西加茂郡、八名郡、額田郡を主と

し、生産總價額は三百六十一萬圓に達してゐる。其の内主なるものは用材の百三十五萬圓、薪炭材の四十二萬圓、木炭の百十三萬圓、竹材の六萬圓等である。



(村茂賀郡茂加東) 道林の林有縣茂賀

り生産者並一般消費者相互の利益増進に努めてゐる。検査數量を表示すれば

然るに本縣は大都市を包容する關係上木材の需要極めて多く、其の生産は僅かに縣下需要額の二割を充すにすぎないので、本縣は生産の發展に資すべく林産物。縣。營。檢。査。所。を。設。け、出張所六、検査員駐在所三十五を縣下に分置して生産物の規格統一、出荷統制、取引商品價値の向上を圖

縣直營	代行検査
木炭	一、二七、〇四五 _東
椎茸	一五、〇四八 _東
製木材	一、八四、二六 _東
東物	九四六、〇四六 _東
小角	四〇三、六六 _本
縣直營	代行検査
東物	七、一五 _本

更に林利の向上と山村民の匡救を圖つて林道の開設、林産物運搬路の整備等に力を効し、國庫より助成金を受けて昭和七年度より三ヶ年の計畫を以て百萬圓を投じ、總延長五百四十四軒の林道を開設した。此の他公有林並私有林に於て造林整理統一、防火線の改設、漆栽培組合の設立等をなすもの或は山林會、林業關係の同業組合等に對して本縣は夫々補助金を交付し督勵して實績を擧ぐるに努めてゐる。林業關係の團體としては愛知縣山林會がある。

鑛業 本縣の鑛業は設定試掘鑛區數二十五で其の面積は九百二十八萬坪、採掘鑛區數五十五で其の面積九百八十六萬坪であるが、内二十八鑛區は現在採掘を休止してゐる。之を鑛種別に示せば試掘に於て、亞炭鑛八、滿俺鑛

四、石炭鑛四、金鑛三、金銀銅鉛亞鉛鑛一、金銀滿俺鑛一、金銀鑛一、金銀銅鉛亞鉛化鐵鑛三で、採掘に於ては亞炭鑛五十一、滿俺鑛二、金銀銅鐵滿俺鑛一、金銀安質母尼鑛一である。

由來本縣の鑛業は地質的に恵まれざるため概して不振の状況であるが、獨り亞炭のみは頗る盛大で全國に於ける重要亞炭鑛山五の内三を占め其の産出額は全國に冠絶してゐる。

炭 礦 名	所 在 地	産 額	全 國 中 順 位
芝	東春日井郡高藏寺町	一三、四一 <small>噸</small>	一
長 久 手	愛知郡長久手村	一一、三〇八	二
高 針	同 猪高村	六、四九九	四

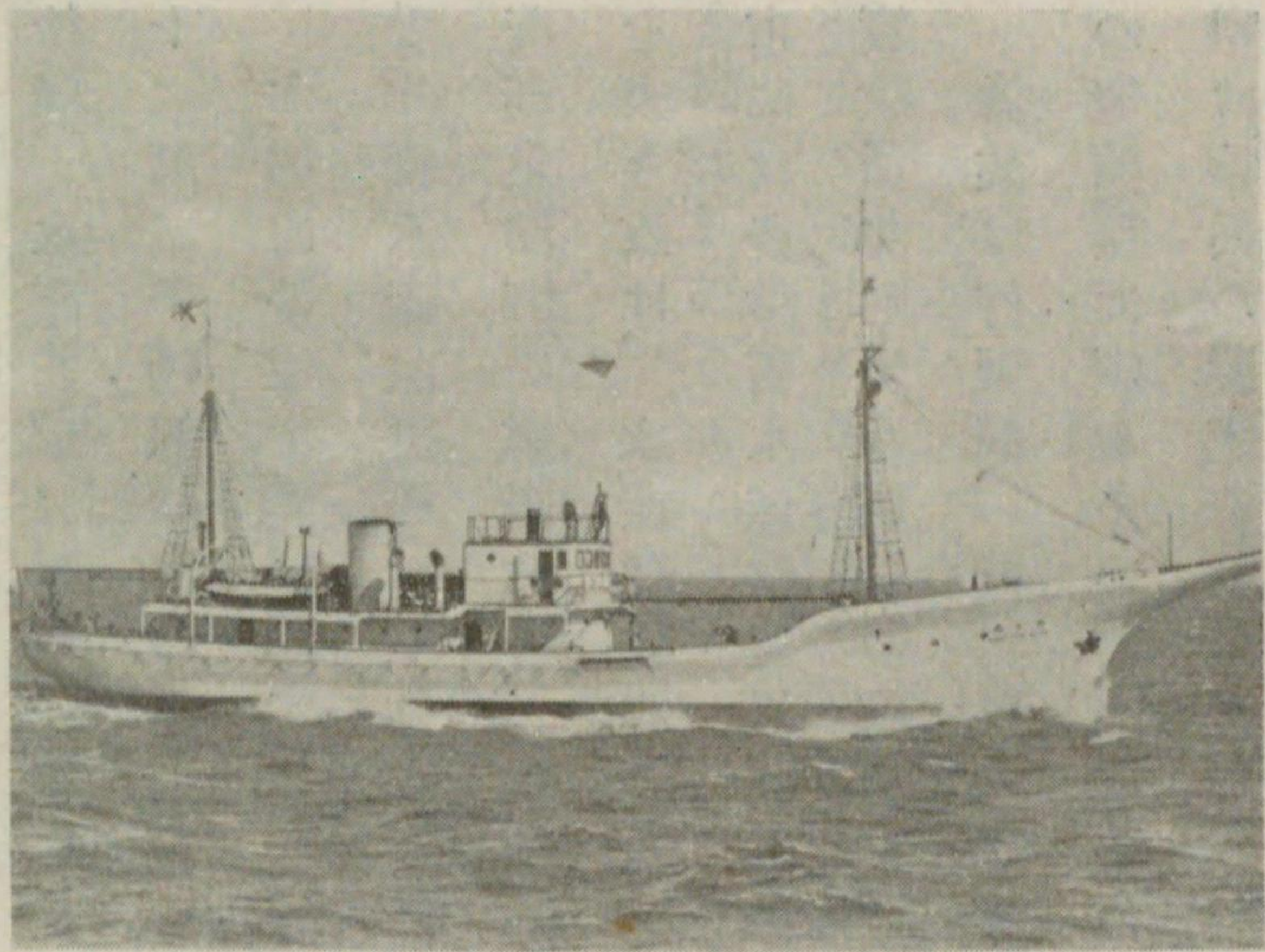
水産業 本縣に於ける水産業者四萬一千八百餘人中漁撈従事者は一萬九千二百餘人であるが、多くは半農半漁で專業者は九千二百餘人にすぎない。

水産業の主なるものは漁撈、養殖、水産製造で、沿岸漁獲物五百五十五萬七千餘圓、水産養殖二百八十萬六千餘圓、水産製造三百八十三萬餘圓、遠洋漁業三十六萬二千餘圓で其の他を合せ總額一千二百萬圓となつてゐる。

本縣は是等水産に關する各種の試験研究並指導の目的を以て寶飯郡三谷町に愛知縣水産試験場、愛知郡下之一色町に養殖出張所、南設樂郡鳳來寺村及東加茂郡足助町に鱒孵化場、知多郡豐濱町に鹹水養魚試験地、豐橋市に養殖作業場を夫々設け、水産試験場には遠洋漁業指導船白鳥丸が配屬されてゐる。又豐橋市には農林省水産試験場豊橋分場があり、尙知多郡新舞子に東京帝國大學水産實驗所並附屬水族館の設置がある。

漁業は打瀬網、機船底曳網、角建網、地引網、鱚刺目網、蝦流網、延繩等其の他種類は頗る多いが、就中打瀬網漁業は沿岸漁業の中樞をなすものでその船型は特異の發達を遂げ愛知打瀬型と稱してその名は全國に知られてゐる。之は凡そ百三十年前房總地方より傳へたと謂はれ當初は知多郡龜崎地方に多く、又

漁場は沿海に限られてゐた様であるが、明治五六年頃から伊勢灣、時には渥美の外灣に迄進出漁従し、現在は渥美郡の外濱を除く他縣下たる處にこの漁船をみる。而して近年螺旋推進器の普及と共に之を備へてくるもの續出し、現在縣下漁船總數七千六百餘隻中四割四分、三千四百隻は此の動力付漁船で著しき増加を示してゐる。



丸島白船導指産水縣知愛

河川漁業に於ける産額は約五十萬圓、主なるものは鮎と鰻であるが、近時水力電氣事業の勃興と共に各所に水力發電用堰堤が築設せられて魚族の溯上を妨ぐる爲本縣水産試驗場に於ては年々琵琶湖産小鮎數十萬尾を放流し、又各種の河鱒卵の人工孵化をも行つて各河川に放流しその成績は孰

れも概して良好である。

遠洋漁業に従事する漁船數は四十隻、一千三十七噸、人員二百七十餘名であるが、その漁獲高は年三十六萬圓である。

水産製造物の主なるものは蒲鉾、竹輪、乾海苔等で、蒲鉾及竹輪の年産額は二百萬圓に垂々とし乾海苔と共に本縣水産製造物中の双璧をなしてゐる。その主産地は名古屋市、豊橋市、寶飯郡三谷町で、販路は縣内に止らず關東、關西多く方面に移出されてゐる。乾海苔は百十六萬圓の年産額を示してゐるが、近年之に従事する者著しく増加するに鑑み、本縣はその生産増加と品質向上に留意し全國に先驅して製品の縣營検査を實施したので、愛知海苔の品位は著しく昂まり聲價は全國に喧傳せられつゝある。而して此の養殖の行はるゝ沿岸の干潟は三千萬坪に餘る全國稀にみるもので海苔の他牡蠣、灰貝、蜆、蛤等の養殖にも適してゐる。

淡水養殖は明治四十年頃より著しく發達したものであるが、養魚池に依る淡

水養殖は全國第二位を占め豊橋、渥美、碧海、幡豆、海部の一市四郡に最も盛である。其の主なるものは鰻、鱒、鯉等であるが、鰻の養殖場は其の數二百七十九の多きに達し、收穫高は百七萬餘圓に上る。初め之に使用せる種苗はピリと稱する二匁乃至六匁大のものであつたが、養殖技術の進歩によつて近年は體長二三寸のシラス鰻を捕獲して之を種苗とし良好なる成績を擧げてゐる。此の他特に擧ぐべきものは海部郡彌富町に於ける金魚の養殖である。

組合は河川、池沼を漁場とする組合二十一を加へ總計百三十五で、組合員總數二萬四千名に達し、經費年額五十萬圓を以て共同利益の増進、漁獲物の共同販賣、漁業用品の共同購入等の事業を行ひ専ら斯業の發達に努めてゐる。又此の他三河乾海苔、彌富金魚の二同業組合がある。三河乾海苔同業組合は豊橋市を中心として明治四十五年設立されたもので經費年額二萬餘圓、四千人の組合員を擁し水産界に盡す功績が尠くない。又彌富金魚同業組合は昭和三年の設立で、爾來金魚養殖の改善に不斷の努力を續け克く今日の盛大を招致した。現在

年産額一千百七十八萬尾、此の價額六萬餘圓である。

尙縣内各郡水産會を以て組織せる愛知縣水産會があるが、本會は専任技術員を配置し、水族の蕃殖、改良、講習講演會の開催、必需品の配給斡旋、會員の救恤、會報の發行等各種の施設を行つて専ら業界に盡す所尠くない。

工業 本縣の工業は之を大別すれば繊維工業、機械器具工業、化學工業、飲食物工業、雜工業の五大工業となり、昭和九年度工産物總價額は九億六百九十五萬九千餘圓の巨額に達し全國府縣中第四位に在る。

繊維工業 紡績業、織物業、染物業、莫大小製品製造業、その他
 機械器具工業 紡織機製造業、車輛製造業、時計製造業、金屬製品製造業、軍需品製造業、その他

化學工業 陶磁器製造業、土管瓦及煉瓦製造業、七寶製造業、セメント製造業、硝子製造業、人造肥料製造業、人造絹糸製造業、その他
 飲食物工業 釀造業、製粉業、漬物類、その他
 雜工業 其他

紡績業は工産中重要なるもので生産額は一億三千五百二十九萬圓（除和式紡績）に上る。之を種別に表示すれば

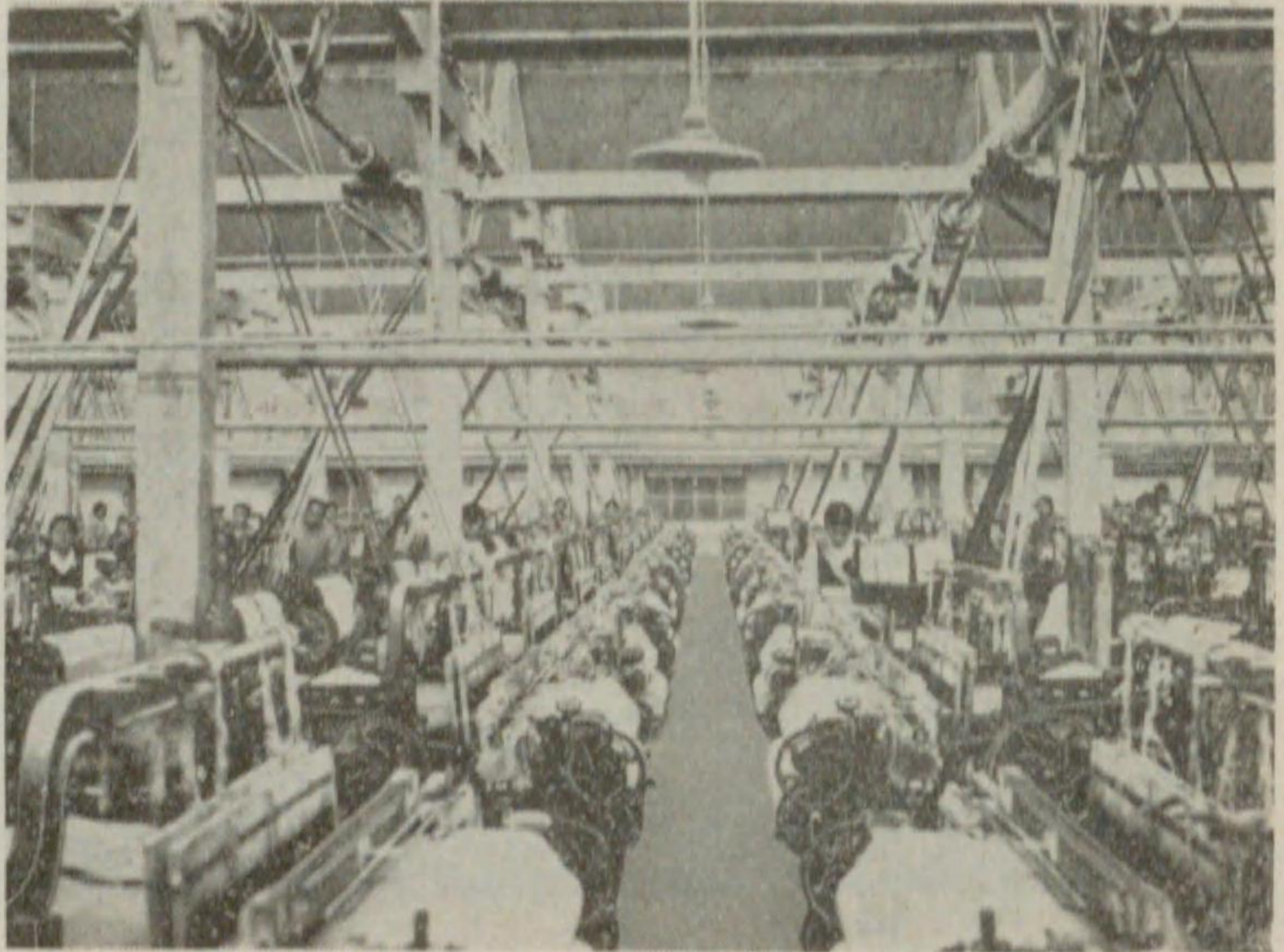
種 別	工 場 數	職 工 數	生 産 額
綿 絲 紡 績	二六	一九、六三四	一〇五、六〇七、九二三 ^四
毛 絲 紡 績	一三	四、九七一	二七、八一、二八三
絹 絲 紡 績	二	一、一六一	一、八六七、一八一
計	四一	二五、七六六	一三五、二八六、三八七
和 式 紡 績	六〇五	三、二一七	二、五九四、九九六

而して工場の過半数は名古屋市にあるが、他は岡崎、一宮の兩市及西春日井、碧海の二郡等に散在する。

織物業は繊維工業中最も重要なもので、機業場數三千九百餘、織機數九萬八千臺（内力織機九萬五千臺、手織機三千臺）に達するが、内毛織力織機は一萬四千餘臺に上る。而して之等織物等に從事する職工數亦六萬二千名を超え、其の生産額は實に四億二百六十七萬圓の巨額に達してゐる。種別に之を表示せば

種 別	工 場 數	職 工 數	生 産 額
綿 織 物	一、五〇四	七〇、六九九	三三、〇三、二五 ^四
毛織物及毛交織物	九四	一八、一六六	一五、〇三、一六三
絹織物及絹綿交織物	一、三六	六、五九九	二五、七三、六六
麻織物及麻交織物	三、三六

綿織作物業狀況 (町田岡郡多知)



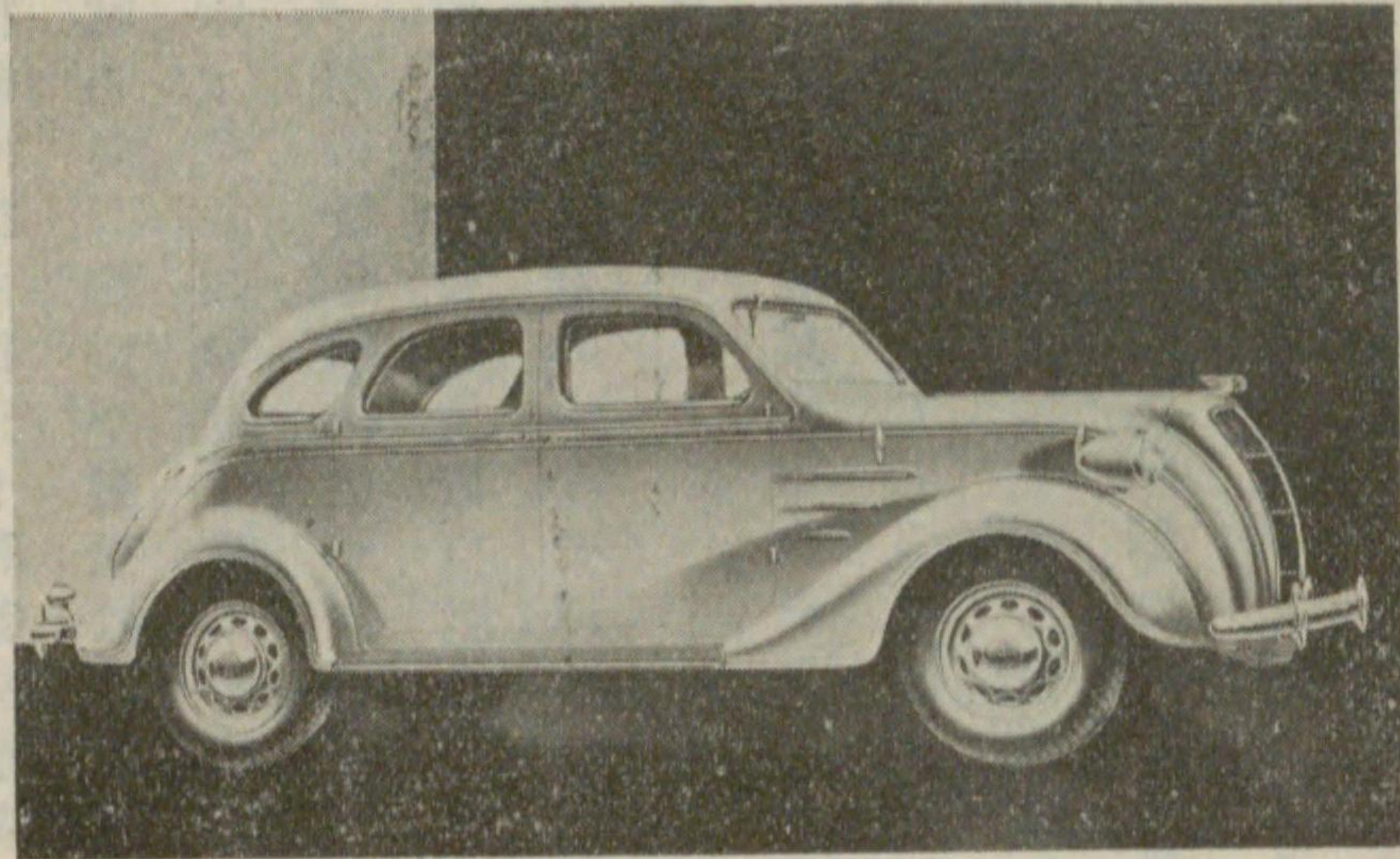
英國品と覇を競つてゐる。毛織物類は名古屋市及海部、中島の二郡に盛でその生産額は全國の六割を占め品質亦舶來品を凌駕するの域に達してゐる。絹織物

類と麻織物類は丹羽、葉栗の兩郡を主産地とするが、就中絹織物類はその産額八百萬圓を超えて全國第二位にある。

染物業は場數一千百餘、職工數五千餘名で、その染賃總額は一千七百萬圓を超えて全國第四位にあるが、内七割は布で無地物の綿、毛織物多く、染絲に於て亦綿、毛が多い。地域的にみれば名古屋市が主位で一宮市が之に亞いでゐる。染物中の絞染は本縣の特産として夙に名聲を博し、愛知郡鳴海町及知多郡有松町附近に最も盛である。

莫大小製品製造業は名古屋、一宮の兩市及西春日井郡に最も盛で、内産額の八割は名古屋市の占むる所である。現在場數五百六十、職工數三千七百名で、その生産額は八百三十萬圓を超えて全國第三位にある。

紡織機製造業中織機は名古屋市及碧海郡刈谷町を主とする二十九工場に於て一ヶ年三萬六千三百臺、價額にして六百餘萬圓を生産してゐる。又紡績機は西春日井郡新川町、碧海郡刈谷町、名古屋市及岡崎市の六工場に於て生産せられ、



ト ヨ タ 號

産額は六千五百臺、價額にして八百萬圓に達する。尙之等に織布整理機及紡績機部分品等三百五十三萬圓を加へる時は實に一千七百餘萬圓を超ゆるの盛況である。

車輛製造業中主なるものは鐵道用各種車輛、自轉車、自動車の中で、總生産額一千萬圓を超え、工場數三百八十餘、職工數四千名を算へる。鐵道用各種車輛は年産九百餘輛、價額にして八百二十萬圓、主として名古屋市に生産される。自轉車製造は東京大阪と並稱される大生産地で、名古屋市、葉栗郡一の完成車工場と百數十の部分品製造工場があつて一ヶ年に完成車三萬四千臺

價額にして百三十萬圓を市場に送り出し、部分品亦五百八十萬圓の産額をみせてゐる。自動車製造は最近勃興せるもので、昭和六年株式会社大隈鐵工所、岡本工業株式会社、日本車輛製造株式会社の三社が協同して純國産中級車「アツタ號」を製作したのに端を發し、昭和八年秋には織機製造を以つて聞ゆる刈谷町の株式会社豊田自動織機製作所が困難視せられた國産大衆車「トヨタ號」の製作に成功し、今や四社に於て夫々自動車工業の確立に多大の努力を拂つてゐる。

時計製造業は明治十七八年の頃、岡崎の人中條勇次郎と名古屋の人水谷駒次郎とが共同して二個の掛時計を製作した事に端を發し、今や本邦屈指の時計製造工業地として、名古屋時計の名は本邦のみならず遠く南洋方面に迄喧傳されてゐる。昭和九年調では工場數二十、職工數千三百餘名、産額七十萬個、價額にして三百十四萬圓に達してゐる。

金屬製品製造業中主なものは製鋼の四百二十二萬圓を第一に、金屬工用機械

の三百二十萬圓、電動機の二百八十萬圓、機械用器具の二百三十萬圓、伸銅の九十五萬圓、唧筒の九十萬圓、金屬製網の八十萬圓、鐵製鍋釜及鐵瓶類の七十萬圓、變壓器の四十五萬圓、電氣計器の三十六萬圓、電線、鋳力及亞鉛板製品の各三十萬圓等があり、本縣の重輕兩工業に於ける生産力の旺盛さを如實に示してゐる。

軍需品製造業は近年目覺ましき進展を遂げ、東京、大阪と相並んで三大軍需品工業地の一に算へらるゝに至つた。則ち數年前迄僅々數百萬圓に過ぎなかつた本工業は昭和九年には年額實に三千六百萬圓の巨額に達し、益々時潮に乗つて著しき飛躍を續けてゐる。

陶磁器製造業の盛大な事は本邦第一で、其の産額五千萬圓に達して全國の五十四%を占め、内地は素より遠く海外各地に供給してゐる。現在工場數二千餘、職工數二萬五千名を算し、主要生産地は名古屋市、瀬戸市であるが、此の他東春日井郡品野町、知多郡常滑町、丹羽郡犬山町亦盛である。

土管、瓦及煉瓦製造業の内土管は知多郡常滑町を主産地とし、煉瓦及瓦は碧海郡高濱町、大濱町、新川町を主産地として總生産額は六百三十五萬圓に達してゐる。尙土管産額の二百



七 寶 製 品

七十一萬圓は全國の六割四分、瓦の二百八十一萬圓は同じく一割二分を占むるの盛況である。

七寶製造業は産額僅か十六萬圓に過ぎぬが、本縣特産品として、又美術工藝品として全國に其の名を知ら

れ遠く海外に迄販路を有してゐる。

セメント製造業は近年土木建築事業の進展と共に其の需要逐年増加し、現在

年産額十三萬九千噸、價額にして二百九十五萬圓に達してゐる。

硝子製造業は獨り名古屋市に發達したもので、年産額は百六十一萬圓に及ぶ。明治初年硝子玩具製造に端を發した本工業は今や輸尙向壘類の製造に迄進出し著しき進展を示してゐる。



人造絹糸製造業は名古屋市の日本毛織株式會社名古屋人絹工場の操業開始に始まり、西春日井郡庄内町の庄内川レーヨン株式會社、岡崎市の日清レーヨン株式會社及日本レーヨン株式會社の新設と相俟つて著しき飛躍を遂げ、昭和九年中の産額七百九萬圓に達した。

人造肥料製造業に於ける製品の主なるものは鉛室硫酸、一五過燐酸、配合肥料及新製特許過燐酸等で、その生産額は四百四十三萬圓に達する。

其の他の化學工業は藥品、護謨製品、爆藥、石鹼、電極等枚舉に遑なく、之等製品總價額は數千萬圓に及んでゐる。

藥品中工業用藥品は主として名古屋市に生産せられ、その年産額は四百六萬

圓に達してゐる。その主なるものは苛性曹達百三十萬圓、鉛室硫酸五十一萬圓、晒粉五十萬圓、合成鹽酸四十二萬圓、其の他明礬、合成硝酸等である。醫療用藥品亦年産三百六十六萬圓に及び、賣藥部外品の三百八十萬圓と合せ總額七百四十七萬圓の巨額に達し共に名古屋市を主産地とする。煙火は産額僅に十一萬圓にすぎぬが、古來より三河煙火と稱して品質の優良と價格の低廉とを以て全國に知られ、西三河を以て主産地とする。以上の外石鹼の九十萬圓、護謨製品の百五十五萬圓、電極製品の六十二萬圓は何れも名古屋市を主産地とし、又骸炭の百九十萬圓、蠟燭の五十一萬圓、植物油（脂肪性）の百八十九萬圓、西洋紙の二百三十七萬圓等もあるが、植物油と西洋紙を除き之亦名古屋市を主産地とし、植物油は寶飯郡及知多郡に、西洋紙は名古屋市及西春日井郡に夫々多く生産されてゐる。

醸造業の主なるものは清酒、味淋、麥酒、酢、醬油及溜、味噌等で總生産額二千六百八十萬圓に及び、何れも本縣重要物産たるを失はない。

清酒は中國銘酒と呼稱せられて夙に名聲を博し、縣下各地に於て年額十三萬石、價額にして九百五十七萬圓を醸造し、味淋は年産一萬三千石、價額にして百三十萬圓、全國第四位にあつて品質の佳良は全國に冠絶し、植民地に迄搬出されてゐる。麥酒は大日本麥酒株式會社名古屋工場及半田工場に於て醸造され、其の生産額八萬七千石、價額にして六百四十四萬圓に達する。酢は知多郡に最も多く名古屋市之に亞ぎ、産額は四萬五千石、價額にして五十五萬圓となる。醬油及溜は縣下各地に於て醸造せられ全國第三位に當り、年産二十一萬二千石、價額にして五百九十六萬圓。又味噌は年産一千六百六十三萬貫、價額にして三百餘萬圓で知多郡を主産地とするが、岡崎には特産物八丁味噌がある。

製粉業は國民經濟の發達と生活程度の向上に伴ひ各種製菓、麵麩類の需用漸増と共に逐年盛大に赴き、その産額一億八千九百萬斤、價額にして一千八百萬圓に達し、名古屋市を主産地とする。

漬物類の主なるものは澤庵漬八十八萬圓、粕漬類六十三萬圓、福神漬四十三

萬圓等で、其の他を合すれば總生産額は二百二十三萬圓に達する。就中澤庵漬は古來特産として知られ、多く名古屋市に産出する。

其の他の飲食料品製造業中主なるものは和洋菓子、麵麩類、麵類、トマト製品、清涼飲料水、精製糖及再製糖水糖、罐詰等である。

和洋菓子は名古屋市を主に各地に盛んで、年額一千七百三十七萬圓に達し、内洋菓子が過半数の九百十三萬圓を占めてゐる。麵麩類も大半名古屋市で生産され、年額二百二十五萬圓に及ぶ。麵類は名古屋市及幡豆郡を主産地とするが、大半は乾餛飩で總額百三十萬圓を超えてゐる。トマト製品は大阪、東京に次ぐ全國第三位の生産地で年額百十八萬圓に達し、知多、碧海の二郡及名古屋市に盛んである。其の他清涼飲料水の百五萬圓、製氷の五十五萬圓、砂糖の九十二萬圓、罐詰類の四十三萬圓等であるが、清涼飲料水及製氷は名古屋市、砂糖は豊橋市、罐詰類は名古屋市及西春日井郡を夫々主産地とする。

雑工業中には木製品（箱類、指物）、鼻緒、製綿、漆器、玩具、ベニヤ板、下

駄類、糸製網、皮革製靴、麻真田、雪駄及草履、紙製品、文房具、煉炭、綱索等があつて、其の總生産額六千萬圓に及んでゐる。

木製品は總額一千五百七十萬圓の巨額に達するが、内九百六十六萬圓は木箱類で全國中首位を占め、内地は素より遠く海外に迄搬出されてゐる。之に次いで指物類の四百四十二萬圓、挽物の五十八萬圓、桶樽類の五十九萬圓、履物（素地）の三十萬圓、曲物、木箸等がある。ベニヤ板は現在名古屋市内の十九工場で生産され年産額二百八十四萬圓に及ぶ。紙製品は名古屋市を主産地とし二百八十二萬圓の生産額がある。絲製網は寶飯郡三谷町を主産地とし年産二百萬圓を超え、マニラ麻真田は豊橋市の特産で、年産額百八十三萬圓、全國の四割二分を占めてゐる。漆器は名古屋市を主産地とし一閑張を併せ年産四百萬圓に達し全國第二位にある。一閑張は古くから名古屋市の特産として名高く、漆器の三割餘、百二十七萬圓の年産額がある。其の他蒲團及蚊帳の百九十六萬圓、履物類の一千二百七萬圓（内鼻緒八百萬圓、下駄二百一十一萬圓、雪駄及草履百六

十五萬圓等)、文房具の二百四十四萬圓、玩具(除陶磁器製)の三百七十萬圓、煉炭の百五十萬圓、皮革製靴の三百八萬圓等あるが、何れも名古屋市を主産地とする。

本縣は是等工業の助長獎勵施設として工業試験場、染織試験場、毛織物検査所を設置してゐる。

工業試験場は名古屋市に在つて専ら工業に關する試験研究を行つてゐる。

染織試験場は中島郡大和村に尾張染織試験場を、寶飯郡三谷町に三河染織試験場を設け、染織工業の發達に資する爲原料製品の試験檢定及鑑定、圖案の調製、其の他の研究調査指導に努めてゐる。

毛織物検査所は縣廳内に本所を置き、支所を名古屋市、中島郡大和村、海部郡津島町の三ヶ所に、尙二十七検査所を設けて生産品の検査並品質の向上を圖つてゐる。

組合は工業組合四十七の他に聯合會三がある。何れも斯業の改善發達に努め

てゐるが、内名古屋紡績、名古屋莫大小、名古屋自轉車、名古屋輸出樂器、常滑陶器、瀬戸陶磁器の各工業組合の如きは大なる規模を有する特殊な共同工場を設置して事業の進展上に一新紀元を劃した。

商

業

本縣の商業は古くから發達し、縣下に散在する往時の城下町、宿驛を始め瀬戸、常滑に於ける窯業地、一宮、枇杷島の市場等既に徳川時代に商業制度の施設を有してゐたが、明治維新以後は漸次舊態を脱して益々發達を遂げ、殊に近時の交通、通信機關の整備は商取引を著しく敏活ならしめ工業の隆盛と相俟つて今日の盛況を見るに至つた。

商工會議所は名古屋、豊橋、岡崎、一宮の四市及知多(知多郡半田、龜崎、武豊、成岩ノ四町地區)の五

であつて、夫々地區内の商工業の改善發達に努めてゐる。
會社は名古屋市始め各都市に點在し、昭和九年末現在では總數五千七百五十三に達してゐる。之を組織別にみれば合資三千百四十二、合名一千五百十一、株式一千百三十六、株式合資四で、又業態別にみれば商業三千百五、工業二千

三百三十一、運輸二百六十二、農業七十三、鑛業十三、水産業九となつてゐる。之等諸會社の資本金總額は八億三千二百十九萬圓に上り、十年前の大正十三年に比べて、三割六分の増加となつてゐる。

保險業は本支店會社六十餘を數へるが、縣内に本店を有する會社は福壽生命、福壽火災の二社のみで、福壽生命保險株式會社は資金百萬圓、契約高五千萬圓、福壽火災保險株式會社は資本金二百萬圓、契約高四十萬圓である。

取引所は株式一、綿糸布一、米穀三で、綿糸布を除く他は何れも株式組織である。

名古屋株式取引所は資本金六百萬圓、拂込額四百二十五萬圓、上場銘柄長期七十一種、短期二十四種に及び、一般取引員二十六名、短期取引員四十名である。

名古屋米穀取引所は資本金百三十萬圓、全額拂込で取引員十八名。岡崎米穀取引所は資本金十萬圓、全額拂込で取引員十四名。

豊橋米穀取引所は資本金十萬圓、全額拂込で取引員十五名。名古屋綿糸布取引所は資本金二十六萬圓、現在會員三十四名。倉庫業は名古屋市始め豊橋、岡崎、一宮等の主要都市に於て商工業の進展と共に發達し、近時は全國優秀なる倉庫業者の支店、出張所等激増して面目を一新した。其の主なるものを表示すれば

名	稱	所	在	地	資	本	金
日本食料品工業株式會社	堀内町工場	名古屋	市	西區堀内町	一、〇九七	千	圓
東神倉庫株式會社	名古屋出張所	同	同	南區千年町	一、五〇〇		
東陽倉庫株式會社		同	同	中區天王崎町	六〇〇		
川西倉庫株式會社	名古屋出張所	同	同	水主町	三〇〇		
堀川土地株式會社	製氷部	同	同	南區熱田西町	一五〇		
東三運輸倉庫株式會社		同	同	豐橋市花田町	三五〇		
豊橋倉庫株式會社		同	同	同	一〇〇		
岡崎倉庫株式會社		同	同	岡崎市明大寺町	二〇〇		
半田倉庫株式會社		同	同	知多郡半田町	二〇〇		

市場は明治四十年に於て僅かに五十有餘を算ふるに過ぎなかつたが、其の後商業の發達に伴つて漸く繁衍し、昭和十年現在では食料品卸市場數百五十に達し、その取引は頗る活況を呈してゐる。其の主なるものを示せば

- 熱田魚市場（魚類） 名古屋市南區熱田木免町
- 枇杷島市場（果實、蔬菜） 西春日井郡西枇杷島町
- 一宮市場（綿絹糸、織物類、食料品等） 一宮市

貿易は昭和六年以來對外輸出荷爲替相場の好轉と滿洲國內軍事工作に依る軍需品の需用激増の影響をうけて俄然活況を呈し、昭和九年度に於ける輸移出總額は二億八千二百二十八萬圓に達した。其の内海外輸出額は二億六千六百五十一萬圓、殖民地移出額は千五百七十七萬圓で、輸移出品は綿織物、陶磁器、毛織物、生糸、人絹織物、鐵道車輛、紡織機、自轉車、時計、木箱、毛糸、菓子等をその主たるものとする。それ等の金額を表示すれば

品名	輸移出額	品名	輸移出額	品名	輸移出額
綿織物	一、六、九、九〇 <small>千圓</small>	人絹織物	六、四、七、七〇 <small>千圓</small>	時計	二、四、四、五〇 <small>千圓</small>
陶磁器	二、七、四、一〇	鐵道車輛	五、〇、〇、三〇	毛糸	一、一、〇、一〇
毛織物	二、四、六、七〇	紡織機	三、四、三、〇〇	木箱	二、一、〇、一〇
生絲	二〇、五、三〇	自轉車	二、三、七、七〇	菓子	一、六、三、〇〇

金融は本縣が東西兩京の商勢圏の中間に介在する關係上銀行業、信託業、無盡業、其の他各種信用組合の機能よく發達し、逐年金融界の股盛を招致してゐる。

銀行業は日本銀行名古屋支店始め本支店銀行三十九を算へるが、内縣内に本店を有するものは特殊銀行一、貯蓄銀行四、普通銀行十四で、此の資本金總額は七千八百四十六萬圓、預金高四億六千五百萬圓、貸出高二億一千萬圓に上る。手形交換所は名古屋、豊橋の兩市にあるが、昭和十年中の手形交換高は二百五十七萬四千餘枚、金額二十九億三千百三十六萬餘圓に上つてゐる。

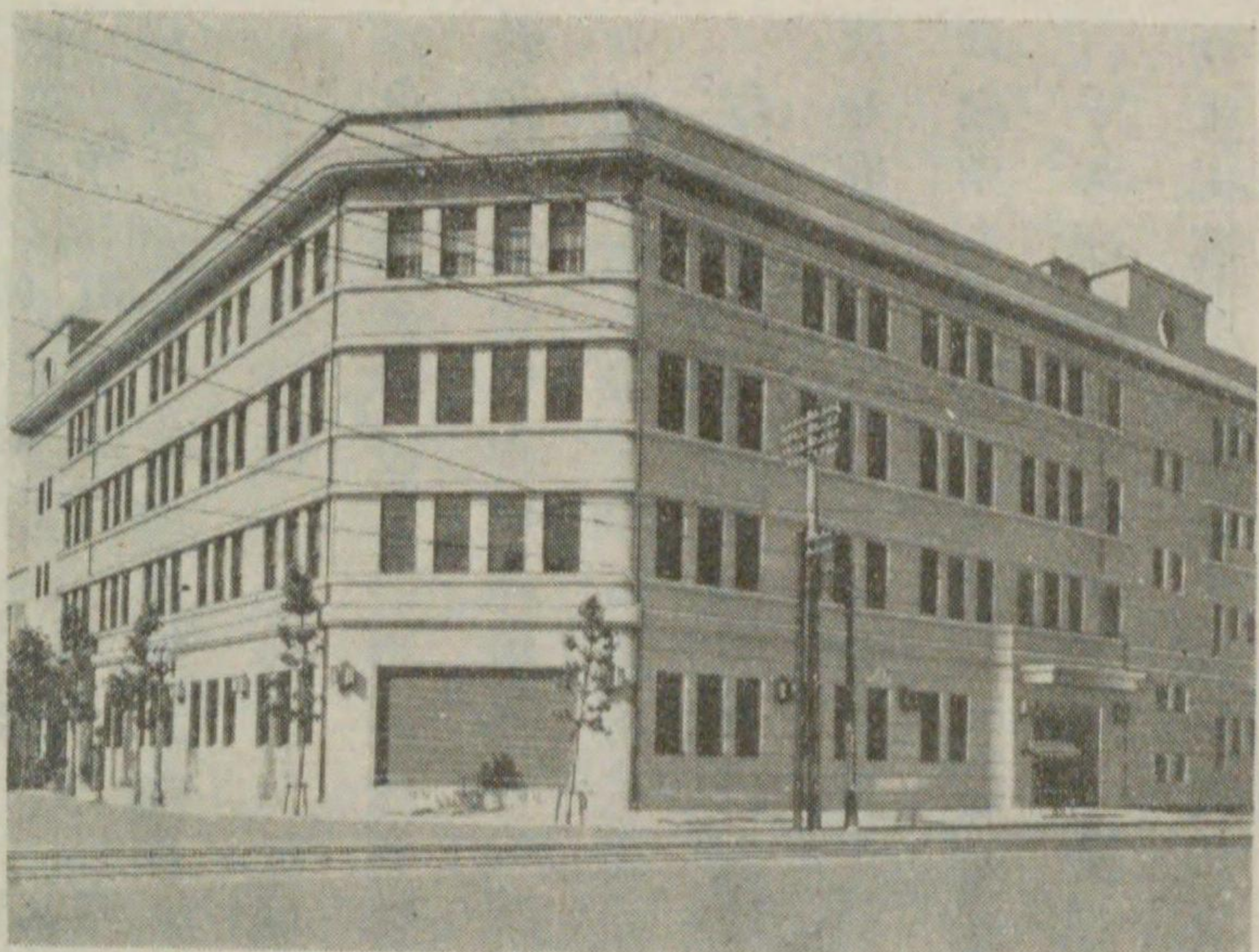
信託業は信託會社三の内縣内本店會社は中央信託株式會社一社のみで、その

資本金は五百萬圓、拂込額百二十五萬圓、金錢信託九百二十六萬圓である。

無盡業は縣内に無盡會社九を有し、其の資本金總額は百五十五萬圓、拂込額百十九萬圓、總口數四萬六千六百四十三、給付契約高二千六百十五萬圓、給付濟金及貸付金九百十七萬圓である。

本縣は是等商業の助長獎勵施設として愛知縣商工館及愛知縣哈爾賓貿易館を設置してゐる。

愛知縣商工館は從來の愛知縣商品陳列所を廢し、新に九十四萬圓を以て名古屋市西區南外堀町に近世式地上四階建鐵筋コンク



愛知縣商工館

リート造の新舎屋を建設し、昭和十一年開館したもので、その事業は商品見本、

參考品の陳列展示を爲すと共に商工業に關する研究、指導、獎勵並取引の紹介、貿易實務の幫助等である。

愛知縣哈爾賓貿易館は日滿提携以來對滿貿易の躍進を圖り、昭和八年彼の地に建設されたもので、商取引の紹介、仲介、斡旋を行ひ縣下生産品の販路の擴張等に努めてゐる。

組合は商業組合五十の他工業組合四十七、此の聯合會三、輸出組合四、此の聯合會一、重要物産同業組合四十八、準則組合中商工業に關するもの八十一、その聯合會一を算へ、商品の共同仕入、共同資金の供給、販路擴張等相互の福利増進に専ら努力を拂つてゐる。

又此の他に愛知縣輸出協會、愛知出品協會、愛知縣織物協會、愛知縣能率研究會、愛知國産振興會、愛知縣免稅礦油協會、愛知縣度量衡協會、愛知縣無盡協會、愛知縣商業組合協會等があつて、斯業の改善發達、向上、開拓等に努めてゐる。

産業組合 本縣の産業組合は明治三十四年知多郡常滑陶業購買組合の設立を以て嚆矢とする。爾來各地に漸及して都鄙共に異數の發達を遂げ、現在其の數六百三十一を算へ全國府縣中首位にある。是等組合は信用販賣購買利用を兼營するもの最も多く、信用販賣購買兼營之に亞ぐ。單營組合に於ては信用組合特に發達し、碧海郡に最もよく普及してゐる。又別に縣區域の聯合會として愛知縣信用組合聯合會、愛知縣販賣購買組合聯合會及愛知縣販賣利用組合聯合會があり、異色あるものとして生絲販賣組合がある。

生絲販賣組合は其の數十に上り出資總額八十八萬圓、固定資産八十萬圓、組合員數五千名、而してその繰絲釜數一千三百餘、職工數一千四百名を擁し、生絲製造高七萬八千貫、價額にして二百五十萬圓を示してゐる。殊に組合製絲設立以來全額供繭を勵行してゐる事は他府縣に類例のない本縣の特色である。

尙以上組合の成績を概舉すれば組合員數二十萬人、拂込濟出資總額一千七十一萬圓、運轉資金七千七百萬圓、貸付金二千七百萬圓、販賣高一千六百萬圓、

購買高九百八十萬圓、利用料六十萬圓、餘裕金三千九百萬圓である。

かくの如く産業組合が漸次進展する反面には往々經營の不健全なものがあるので、本縣は之等の指導監督を目的として昭和四年一月産業組合課を新設し、産業組合の改善、經濟の助長に努むると共に又職員を郡市に駐在せしめて實績を擧ぐるに努めてゐる。

尙産業組合關係の團體として主なるものに産業組合中央會愛知支會、産業組合郡市部會、産業組合製絲組合、電氣利用組合協會等がある。

農業倉庫は大正六年七月農業倉庫業法の公布と共に國策に對應して大正七年四月農業倉庫獎勵規程を制定し、倉庫新設するものに對しては縣費補助金を交付する等その獎勵に努めた結果、大正七年知多郡河和信用購買販賣組合に於て設立されたのを最初に逐年増加し、昭和十一年四月調では經營主體百四十二棟數百九十五、米七十四萬六千石、繭二十二萬貫、木炭三萬俵の收容力を有するに至つた。關係團體に愛知縣農業倉庫協會がある。

土木交通

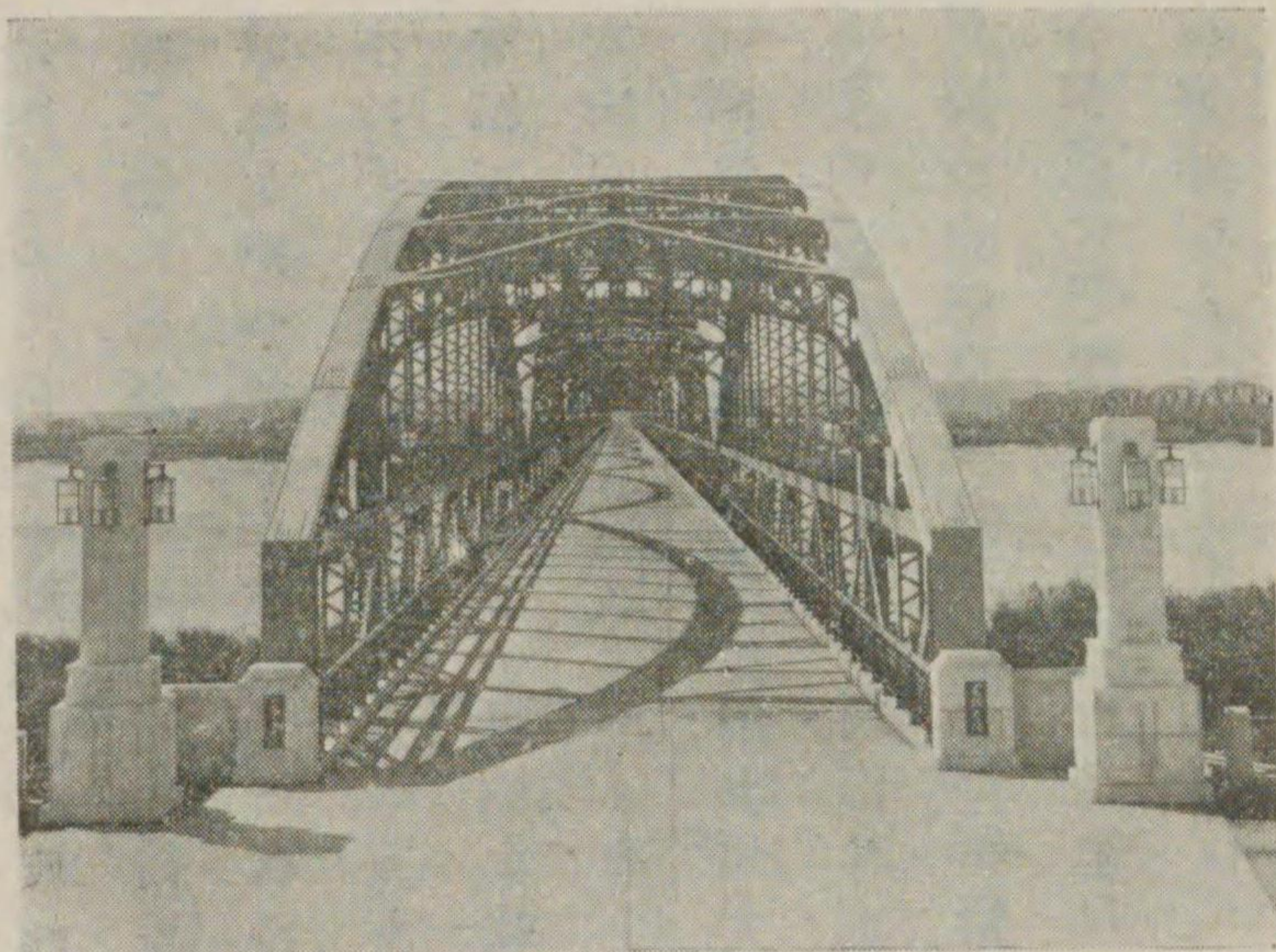


東海道路松並木(東海郡作町)

道路

縣下に於ける幹線道路は國道七線、其の延長百七十軒、府縣道四百六十二線、その延長三千九百四十軒で、之に市町村道を合する時は其の延長實に四萬六千四百二十九軒となる。然るに近年産業の發達に伴ふ交通量は逐年其の率を増大し、殊に乗合自動車幹線の如きは延長二千百餘軒に達して國道の七割、府縣道の五割を占め、鐵道軌道に併行し交叉して之と連絡し益々複雑する趨勢にあるので、本縣は交通の緩和、産業進展上の福利増進を圖り、之

等所管の國縣道に對し、道路橋梁の改善、擴築、鋪裝等の工事を施行するもの



尾張大橋(海部郡彌富町)

の日子と百六十萬圓の巨費を投じて昭和八年竣成したものである。

國道十二號線は東京市と金澤市を連絡する道路で、名古屋市南區熱田傳馬町地内に於て國道一號線より岐れ、西枇杷島町、一宮市、木曾川町の諸邑を経て岐阜縣に延びてゐる。此の路線は沿線に枇杷島青物市場或は一宮市場の如き賑繁地を控へ交通も杜絶する程の雜踏を極めるのみならず、近時名古屋市と裏日本の要港敦賀を繋ぐ線として亦重要視せらるゝに至つたので、愛知、岐阜兩縣を結ぶ木曾川橋に七十萬圓を投ずる等本縣はその擴張、改良を計畫し既に工事完成の近きにある。

國道三十號線は東京市と元十五師團司令部の所在せる豊橋市高師町を連絡するもので、起點から豊橋市札木町迄は國道一號線を重用してゐる。此の道路は豊橋市の中央から市の南部軍營地に走る重要街路をなすと共に、又渥美半島の各都邑に通ずる幹道の一部をなす。此の他軍事國道とも稱すべき四路線があり地方幹線として亦重要な地位に置かれてある。

指定府縣道は縣内主要地から岐阜縣多治見町、長野縣飯田町、静岡縣濱松市

に通ずる三路線の他縣内の各樞要地、港灣及停車場を連絡するもの等總計二十四路線に達してゐる。

鐵道及軌道

本縣の鐵道は現在公私線合せて延長八百二十六料に達する。

國有鐵道は明治十九年三月開通の武豊線を最初に、東海道線、關西線、中央線、臨港線等相次いで敷設された。就中東海道線は本縣交通の大幹線をなすもので静岡縣より管内二川町に入り豊橋、岡崎、刈谷等の主要地を走り、大府に於て武豊線を分岐し熱田を経て名古屋に至り中央線、關西線の基點となつて、更に稻澤、一宮をすぎで岐阜縣に走つてゐる。而して之等の鐵道によつて輸送される一ケ年の人員は二千九百萬人、貨物は四百六十三萬噸を超えてゐる。

私設鐵道は名古屋鐵道、知多鐵道、新三河鐵道、瀬戸電氣鐵道、下之一色電車軌道、築地電氣軌道、豊橋電氣軌道、名古屋市營、碧海電氣鐵道、豊川鐵道、渥美電鐵、鳳來寺鐵道、田口鐵道及三信鐵道等で一ケ年の乗客數は一千三百五十餘萬人に達し、各驛發送貨物は二百四十萬噸に及ぶ。

河

本縣の河川は維持管理上河川法を施行するもの二十一、其の延長三百三十八軒、河川法を準用するもの百六十四、其の延長一千二百三十軒、之に河川法を施行せざるものを加へるとその數は夥しいものとなる。

是等の河川は概して上流に景勝の美を誇り、或は發電の供用多く、中流は幾多の水利を開いて汎く平野を潤し、下流は運輸の便に富む。かくの如く河川が多の恩恵を齎らす半面に於ては往々氾濫して生活上、産業上に脅威を與へるので、本縣は全川に亘つてその水源を涵養し、下流に於ては堤防を改修する等治水の完璧を期してゐる。

港

灣

本縣は南に風波靜穩なる知多、渥美、伊勢の三灣を擁し、名古屋、武豊の二開港を始め横須賀（知多郡）、常滑、豊濱、師崎、龜崎、半田、新川、大濱、平坂、一色、吉田、西浦（寶飯郡）、蒲郡、三谷、豊橋、田原、福江等の指定港がある。

都市計畫

大正九年一月本縣に都市計畫法が施行され、名古屋市に之が適用を見たのであるが、同市に於ては此の以前より東京市區改正條例の準用によつて都市計畫的施設に着手しつゝあつた。次いで同十二年豊橋市に、同十四年四月岡崎及一宮の兩市に、越えて昭和五年九月瀬戸市に於て夫々之が適用をみ、それと同時に市街地建築物法の施行に依る建築物に對する統制ある取締をも爲した。而して昭和八年都市計畫法の改正に依り町村にも之が適用をなし得る事となつたので、翌九年五月丹羽郡古知野町、海部郡蟹江町、碧海郡安城町、同刈谷町、幡豆郡西尾町に、同十年七月東春日井郡小牧町、同守山町、丹羽郡犬山町、海部郡津島町、知多郡半田町、西加茂郡舉母町に夫々都市計畫法が適用、施行せらるるに至つた。

都市計畫區域

都市計畫區域は各都市の人口増加、産業、交通、地形等を考

慮し、適用市町隣接町村をも包含せしめて左の如く決定されてゐる。

区域	決定	面積	区域	決定	面積	区域	決定	面積
名古屋	大正 一・七	三、七〇〇	蟹江	昭和 九・五	三、一八〇	龜崎	昭和 一〇・七	三、九〇三
豊橋	一四・一	三、九八〇	安城	〃	一三、三五七	成岩	〃	五、一六四
岡崎	一五・三	一八、六〇〇	刈谷	〃	四、三五五	學母	〃	一、八三一
一宮	〃	三、一九〇	西尾	〃	五、二六八	半田	〃	三、九〇一
瀬戸	昭和 九・一〇	二、一三〇	小牧	一〇・七	五、三三三	蒲郡	一一・六	八、〇三一
古知野	九・五	三、七二五	守山	〃	六、〇〇五	(天山、津島兩町ハ調査中)		

道路網は都市計畫中根幹をなすもので上下水道、河川、運河、公園、市場等と連絡統制を圖り、交通、保安及衛生上の觀點から左の如く決定された。

市名	路線數	延長	市名	路線數	延長	市名	路線數	延長	事業費
名古屋	六	一三、六三	一宮	三	四、三八	瀬戸	五	一五、五五	一、三〇八
豊橋	五	五、八五	岡崎	三	三、七四	豊橋	五	五、八五	七、八四三
岡崎	三	三、七四	一宮	三	四、三八	名古屋	六	一三、六三	二、四〇〇

地域及防火地區地域は都市構成上の基本的秩序を與ふる様決定されたのであ

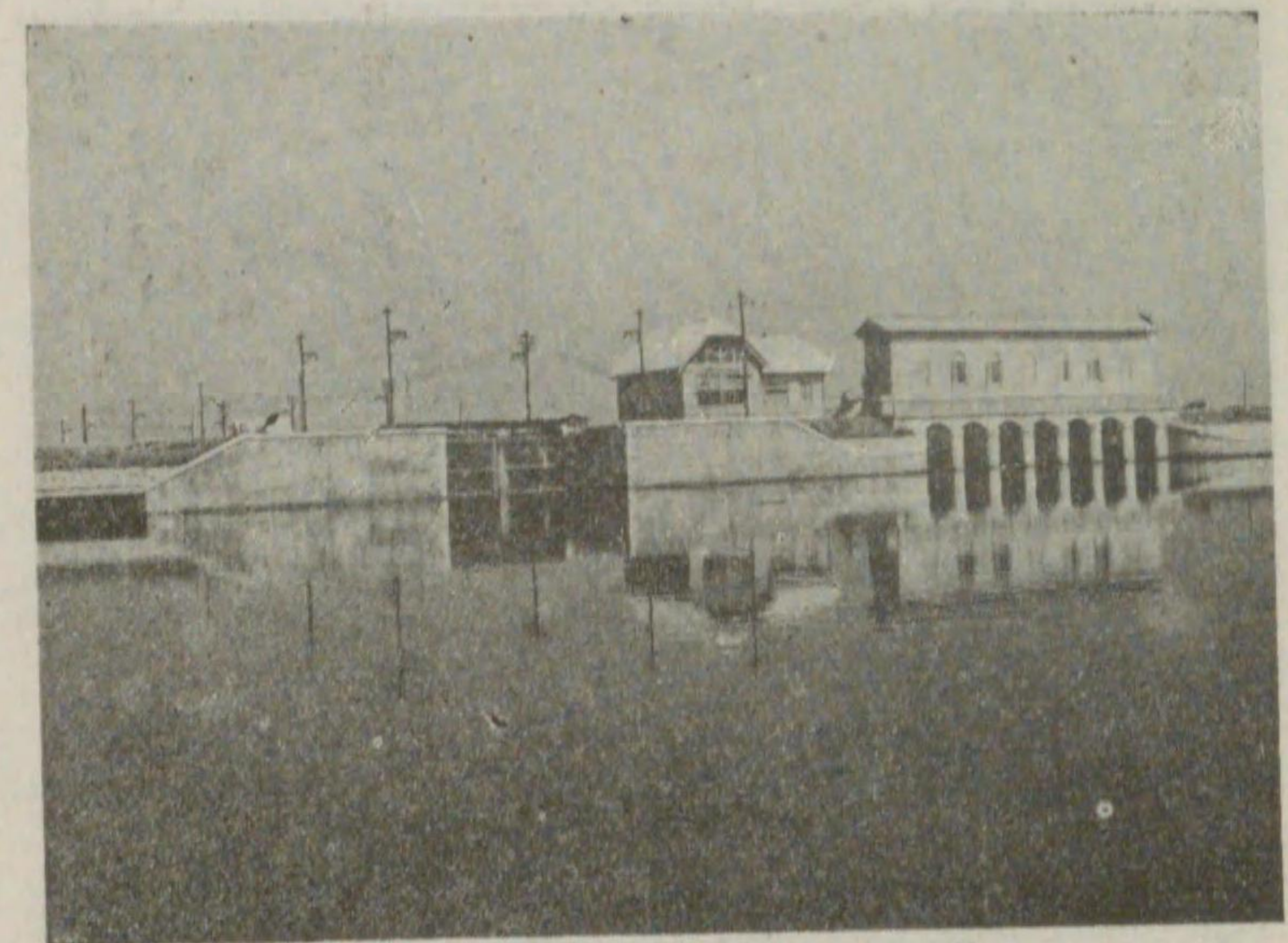
る。即ち地域面積中各地域の占むる割合を表示せば

市名	商業地域	工業地域	住居地域	未指定地	計
名古屋市	一三・四%	三六・〇%	四八・二%	二・四%	一〇〇・〇
豊橋市	一三・〇	二〇・〇	六三・〇	五・〇	一〇〇・〇
岡崎市	一三・二	三七・五	四二・一	八・二	一〇〇・〇
一宮市	八・〇	二五・〇	五三・〇	一五・〇	一〇〇・〇

防火地區は風致地區及風紀地區と異り美觀地區と同様市街地建築物法に準據して指定されるもので、名古屋市では大正十二年七月、同十三年二月の兩度に、甲種四線、種五線が指定された。

運河網、公園、風致地區名古屋區域に在

つては運河網と公園網、豊橋區域に於ては公園並風致地區が決定されてゐる。



中川運河中川河口開門

名古屋に於ける運河網は大正十五年六月街路網と共に決定されたもので總延長



名古屋驛完成後の驛前景觀

九千九百二十間、事業費二千七百萬圓、中川、荒子、山崎、大江の四川を利用する大規模なものである。公園網は同年一月の決定で、面積八十一萬坪の大森林公園始め其の數二十四、總面積百六十八萬坪、事業費一千七百餘萬圓である。又豊橋に於ける公園並風致地區は昭和十一年六月の決定で公園十一、總面積三十九萬坪、事業費百三十七萬餘圓、風致地區は十二個所、四十六萬六千坪で、何れも都民日常生活の慰安と健康に資せんとするものである。

都市計畫事業

本事業は計畫中急施を要する部分より順次施工されてゐる。

街路事業は先に決定をみた五市の内、目下施工中のものは名古屋、豊橋、岡崎、一宮の四市であるその概況を示せば

市名	路線數	事業費 千円	經過年度
名古屋	八四	八六、五四四	自大正八年度至昭和十七年度
豊橋	一六	二、五四七	自昭和七年度至昭和十五年度
岡崎	一二	二、四一〇	自昭和九年度至昭和十六年度
一宮	九	二、二八五	自昭和七年度至昭和十三年度

中川運河 (名古屋市中川運河の項参照)

下水道事業 (衛生の部下水道の項参照)

土地區劃整理は大正十二年、同十五年名古屋に都市計畫道路網の決定をみて以來急速に進展した。昭和十一年四月現在都市計畫區域内に於ける施行認可済のものを表示すれば

區域	地區數	面積	區域	地區數	面積
名古屋	六二	一〇、三二九 <small>千坪</small>	瀬戸	一	三、五 <small>千坪</small>
豊橋	六	九六一	古知野	一	八一
岡崎	三	三三〇			

耕地整理

耕地整理法發布以來斯業の發達は順調で、明治三十三年西春日井郡六ツ師村（現在師勝村）に之が認可を得たのを以て嚆矢とする。當初は縣農會に於て事務を處理したが、爾來事業の勃興するに伴れて漸く事務繁忙となつたので、同三十九年之を縣營に移し、國庫補助を受けて設計調査、基本調査、工事監督の三部を設け、専ら斯業の普及と發達に努めた。尋いで同四十三年耕地整理、土地改良獎勵規程、耕地整理基本調査規程、耕地整理工費補助規則等制定せられて事業は一段の進展を示し、大正元年名古屋市に江西耕地整理組合の設立を見るに至つた。又同八年開墾助成法の發布されるや、渥美郡田原町大久保耕地整理組合が先駆して出願認可を受け、爾來出願するもの漸次多きを加へた。而して同法施行以來本縣は銳意その獎勵につとめたので、縣下全般に洽く認知せられて企圖する者續出し、其の施行地區數九十七に達した。施行豫定面積は開田一千七百町二反、開畑一千六百八十九町七反で、内工事完了地區數七十一、其の面積開田五百五十二町九反、開畑七百六十六町八反に及ぶ。

本縣は是等事業の獎勵施設として大正十年開墾地移住獎勵規程を設け、補助金を交付してゐるが、昭和十年度末迄に交付したる地區數は四十四箇所に及び、其の移住家屋三百九十七戸、共同建造物七棟に達した。又開墾地に於ける勞力節減並事業遂行を容易ならしむる爲牽曳機二、拔根機三、中耕機一、犁一、耙一を備へてその利用を獎勵してゐるが、その成績は概して良好で大正十一年組織された愛知縣耕地協會が専ら完了事務の助成に努めてゐる。

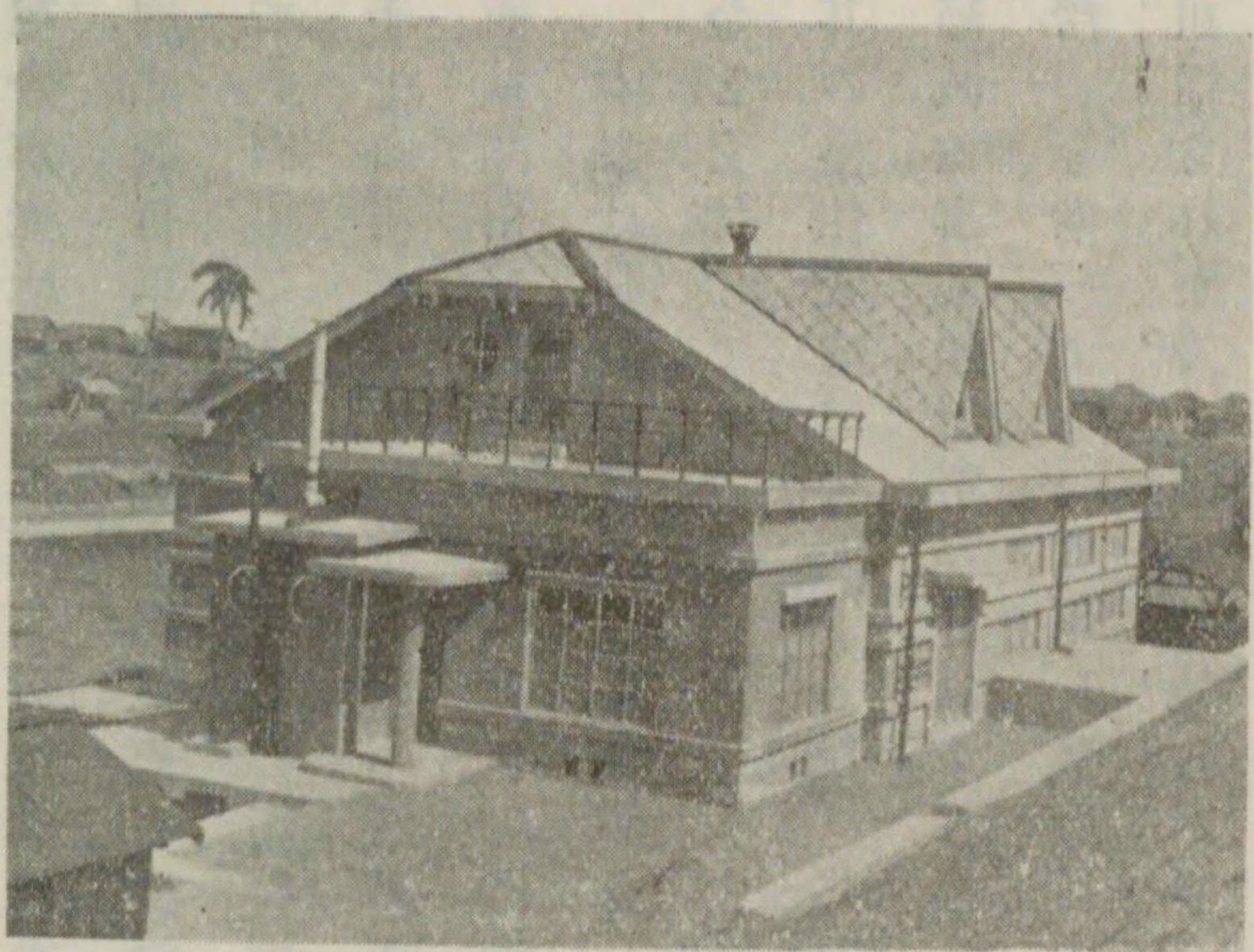
本協會は縣下耕地關係事業者を以て組織し、事業は耕地の擴張改良に關する

普及發達、助成並會員共同の利益増進を以て目的とする。豫算額年一萬八千圓

を計上し、機關誌として「整理」を刊行、

現在會員數百九十名に年六回宛配付しつゝある。

本縣に於ける用排水改良事業は大正十二年農商務省通牒用排水改良事業國庫補助要項に基き施行準備に着手したもので、昭和二年竣功せる横須賀悪水地域排水改良事業を以て最初とする。其の後産業振興並時局匡救用排水改良事業起り昭和十年度迄に汐川始め十五地域に事業が完成された。之等に投じた事業費は既に三百十八萬圓を超えてゐるが、之に昭和十一年度中竣功見込のもの二を加へる時は總計三百八十二



(業事良改水排岸沿溪大江蟹) 室機水排

萬圓の巨額に達する。此の他現在工事中或は工事準備中のものは安永川他十ヶ所を算へるが是等事業の總經費は一千四十五萬圓を超え、農村發展に裨益する所實に顯著なるものがある。

用排水改良事業一覽

名	稱	事務所在地	竣功後ノ利益年額	面積	事業費	備考
横須賀地域排水改良事業		幡豆郡横須賀村	七千	一、〇八〇町	二七〇千円	昭和元年度
汐川沿岸排水改良事業		渥美郡田原町	二	五五	一五	三年度
戸田川沿岸排水改良事業		海部郡南陽村	六	八九〇	一三	四年度
廣田川沿岸排水改良事業		碧海郡六ツ美村	一〇〇	六三	六五	七年度
奥村用水改良事業		中島郡起町	七	二、〇三二	四九	八年度
日光川西沿岸排水改良事業		海部郡蟹江町	七	：	二九	九年度
油ヶ淵沿岸排水改良事業		碧海郡高濱町	五	一、〇一九	五七	十年度
北濱排水改良事業		幡豆郡西尾町	四	：	三七	〃

耕地整理

一〇四

五ヶ村川沿岸排水改良事業	知多郡大府町	七	:	二〇	昭和十年度
松原用水第一期改良事業	寶飯郡豊川町	八	八、八六	七	〃
明治用水改良事業	西加茂郡舉母町	六	八、二〇八	五	〃
日光川沿岸排水改良事業	中島郡萩原町	七	一、九〇三	四	〃
松原用水第二期改良事業	寶飯郡豊川町	五	七、五〇	五	〃
目比川上流沿岸排水改良事業	中島郡千代田村	三	七、〇六	五	〃
古川吉良用水改良事業	幡豆郡福地村	三	七、七三	三	〃
勅使池用水改良事業	愛知郡豊明村	九	五、〇一	四	〃
蟹江大濇沿岸排水改良事業	海部郡蟹江町	四	:	二〇	〃 十一年度

未成ノ分

福田川沿岸排水改良事業	海部郡蟹江町	一〇〇	二、九〇七	四七	昭和十一年度
安永川沿岸排水改良事業	西加茂郡舉母町	七	:	三三	竣工 豫定
幸田用水改良事業	額田郡幸田村	六	五、一	四〇	竣工 豫定
占部用水改良事業	岡崎市柱町	三	六、六	三〇〇	〃
孫寶排水改良事業	海部郡蟹江町	一〇〇	一、三六四	二五	〃

目比川沿岸排水改良事業	〃	二〇	五、二	九〇	〃
家下川排水改良事業	未定	四	六、五	一六〇	〃
宮田川排水改良事業	葉栗郡宮田町	一〇四	一、五、四〇	一、五二	竣工 豫定
鹿乗川沿岸排水改良事業	碧海郡明治村	二八	一、三三	一、〇〇〇	〃
高橋用水改良事業	未定	七	八、〇	一八〇	〃
明治用水改良事業	碧海郡上郷村	三〇〇	一〇	一、五〇〇	竣工 豫定
宮田用水(大江川新般若)改良事業	葉栗郡宮田町	一五〇	一、三、五〇〇	一、〇〇〇	竣工 豫定

警備

警察 近時社會の情勢は益々複雑多岐を極めるに至つたので、警察

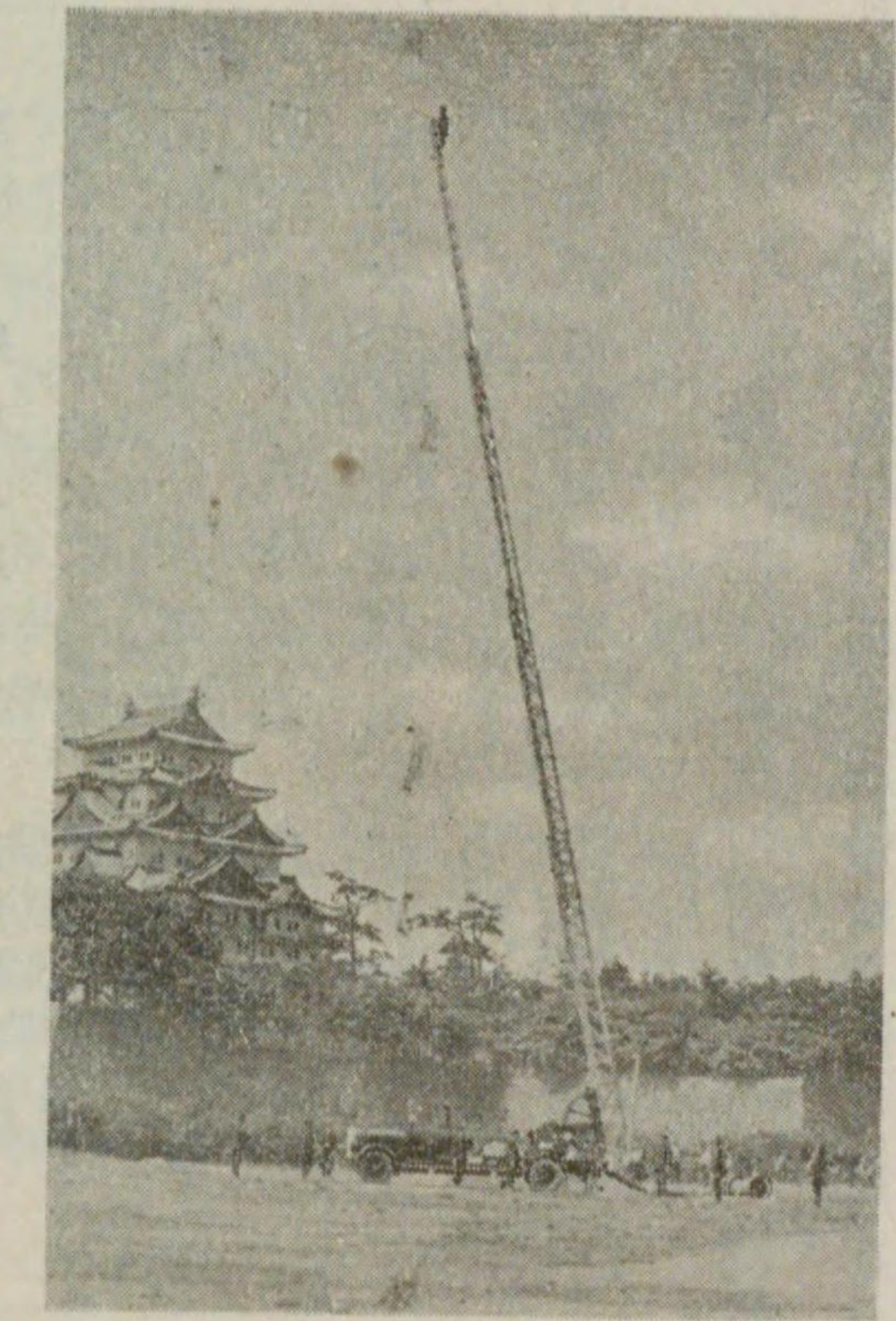
官吏の定員は逐年増加の趨勢にある。現在其の數警察部長以下二千九百八十三名で、之を警察部並三十三警察署（名古屋市九、郡部二十四）に配屬し、諸般の事務を管掌せしめて治安の完璧を期してゐる。而して警察官の素質向上に就ては特に留意し、警察練習所の設置、機關誌の刊行、講習生の派遣、警察官合

宿所の經營、表彰等の施設をなし、専ら時代に順應する理想的警察官の養成に努めてゐる。

消 防

本縣の火災度数は近年都市の發達と共に逐年増加してゐるが、

之に反して其の損害額は漸減の傾向を辿つてゐる。之は消防機關の整備と進歩を物語るものである。

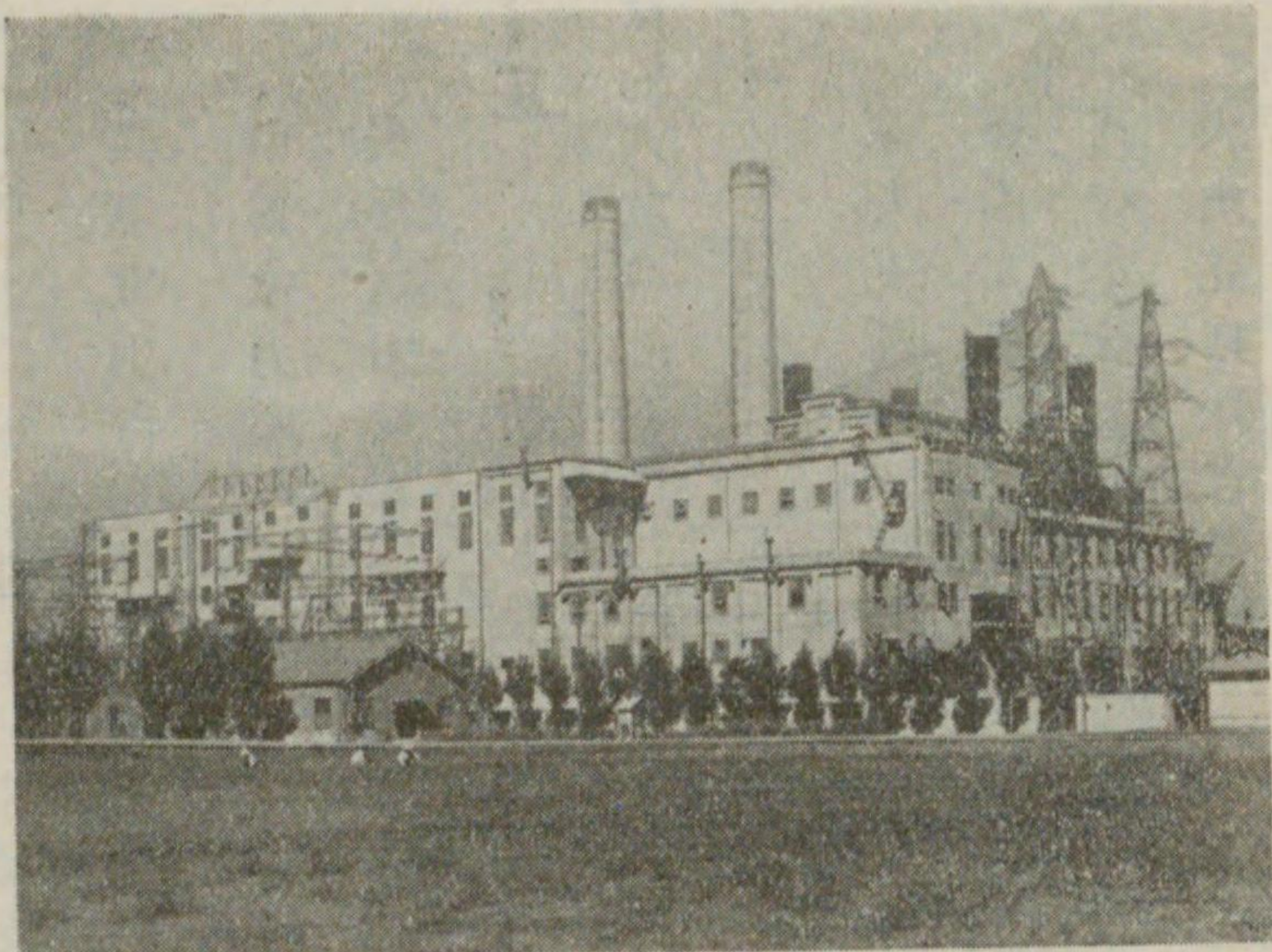


梯子自動車脚筒

自動車三臺、水管オートバイ五臺を備へ、五千四百十八個の公私設消火栓を有してゐる。殊に中消防署所屬の梯子自動車脚筒の如きは百尺の梯子上より放水し

特設消防の設備ある名古屋
市に於ては中、南の消防本署
二、出張所八、人員二百十六
名、自動車脚筒十五臺、梯子

得る機關を有する他に類例をみないものである。其の他名古屋市内に於ける豫



東邦電力熱田火力發電所

備消防組並名古屋市以外に於ける公設消防組は併せて二百三十四、組員總數六萬人に達し、消防機械は自動車脚筒四十一臺、瓦斯脚筒三百四十六臺、オートバイ脚筒二臺、腕用脚筒一千二十一臺、其の他救命具一千四百九十器（内梯子一千四百九、救助袋十七、救助幕七、其の他五十七）を有してゐる。其の他私設消防團體には少年消防隊、婦人火防團、青年消防隊等がある。

電氣及瓦斯事業

電 氣

縣下に於ける電燈會社は十數社を算へるが、其の主なるもの

警備、電氣及瓦斯事業

は次の如くである。

名	稱	電燈數	馬力數	電熱(力)	供給區域
東邦電力株式會社		三、四〇〇 <small>千燈</small>	三〇〇 <small>千馬力</small>	三、〇〇〇 <small>千kW</small>	〔名古屋、一宮、瀬戸の三市他百五十ヶ町村〕
中部電力株式會社		四八〇	五	五	〔岡崎、豊橋の二市他六十八ヶ町村〕
矢作水力株式會社		—	—	二九	電力供給

瓦斯 縣下の瓦斯事業は營業會社數四、製造所六で、その供給戸數

は約八萬戸に達し、販賣量は一ヶ年三千三百萬立方メートルを超えてゐる。

名	稱	供給戸數	販賣量年額	供給區域
東邦瓦斯株式會社		八〇、〇〇〇 <small>戸</small>	三、〇〇〇 <small>千立方メートル</small>	名古屋、一宮市、知多郡半田町及其の隣接地
豊橋瓦斯株式會社		三、三〇〇	一、〇〇〇	豊橋市及其の隣接地
岡崎瓦斯株式會社		八〇〇	二五〇	岡崎
犬山瓦斯株式會社		三〇〇	六〇	丹羽郡 犬山町

衛生

本縣の衛生に關する社會施設は衛生思想の普及と施設の改善に依つて漸次良好の域に進みつゝある。

病院 縣内に於ける病院數は百

四十一で、主なるものに名古屋醫科大學附屬病院（定員六百二十八名）、市立名古屋市民病院（定員二百四名）、縣立岡崎病院（定員八十一名）、縣立精神病院（定員百名）等がある。又名古屋、豊橋、岡崎の三市には縣立健康相談所がある。



名古屋上市水道配水塔

上水道 本縣に於ける上水道は木曾川を水源とする名古屋市の上水道

を始め豊橋、岡崎、一宮、瀬戸の五市、犬山、半田の二町及知多郡旭村に其の施設がある。

市町	当初計畫ノ竣工年月	現在迄ノ總工費	計畫人口	給水栓數	給水總量
名古屋市	大正 三・三	三、三九三 <small>千円</small>	一、五〇〇 <small>千人</small>	二六、五九九	四三、二二六 <small>千立方米</small>
豊橋市	昭和 五・三	二、四三三	一三〇	九、三五〇	一、七五九
岡崎市	昭和 一・三	一、六〇〇	二〇	六、〇二九	二、六七〇
一宮市	未 完 成	一、五〇〇	六	：	：
瀬戸市	昭和 二・六	六九〇	三	一、八二〇	一、八二二
犬山町	昭和 七・二	三六	八	五八	三九
半田町	昭和 五・三	一五	二〇	一、二七八	二、六一
旭村 <small>(名古屋鐵道株式會社)</small>	昭和 一〇・四	一一〇	一	二四	一

下水道 縣内に於ける下水道は名古屋市始め豊橋、岡崎、一宮の四市に設けられてゐる。

市町	当初計畫ノ竣工年月	現在迄ノ總工費	排水面積	排水區域内總戸數
名古屋市	大正 三・三	一五、四二三 <small>千円</small>	八、六七三 <small>ヘクタール</small>	三六四、九〇二 <small>戸</small>
豊橋市	昭和 二・三	三、〇四五	六九	一八、一〇〇
岡崎市	昭和 一〇・三	：	三六八	一〇、四二四
一宮市	昭和 二・三	一、五〇〇	二七一	八、五六九

下水處理 名古屋市は堀留、熱田の兩處理場の他露橋及傳馬町簡易處理場、天白に汚泥處理場を設けて夫々下水處理を行つてゐるが、最近豊橋、一宮の兩市にも處理場が設けられた。尚岡崎市に於ても目下工事中で近く完成の豫定である。

屎尿處分 縣内に於ける屎尿處分の施設は獨り名古屋市に之を見るのであるが、それは下水に放流する關係上下水處理場で淨化放流してゐる。
塵芥處理 塵介の處理は從來肥料、埋立等に利用されてゐたが、近時焼却場を設けて處理せらるゝ事となつた。主なる焼却場は次の如くである。

衛生、選舉

名	稱	位	置	燒却火爐數	一日ノ燒却能率
名古屋市下飯田塵芥燒却場		名古屋市東區下飯田町		一五	一六、六三
〃	高畑塵芥燒却場	〃	南區高畑町	二〇	一六、二五
〃	鴨浦塵芥燒却場	〃	鴨浦	三	三、七五〇
〃	八事塵芥燒却場	愛知郡	天白村	八	九〇、〇〇〇
〃	庄内塵芥燒却場	西春日井郡	庄内町	六	六七、五〇〇
〃	一宮市下沼塵芥燒却場	一宮市	下沼町	二	一八、七五〇
瀬戸市營塵芥燒却場		愛知郡	幡山村	：	：

屠場 縣下の屠場は市營五、町村營七、私營一、簡易屠場四で、一

ケ年の屠畜總數は六萬五千餘頭であるが、右の内名古屋市屠場は化製場並特別検査所を併置すると共に一般獸畜の治療をもなしてゐる。

選舉

貴族院議員は多額納稅者議員二名を選出する。互選權者は二百人、之が最高

納稅額は一萬三千八百三十九圓、最低が一千二百九十一圓で最近に於ける選舉成績は棄權者二割三分七厘である。

衆議院議員の定員は十七名で内名古屋市五名、郡部十二名に分れ、選舉有權者總數は五十八萬五千六百四十三人、内市部二十七萬一千九十四人、郡部三十一萬四千五百四十九人で人口千中選舉有權者二百人に當り、最近の選舉成績は棄權率一割九分二厘である。

縣會議員に定員五十八名、内名古屋市二十一名、郡部三十七名で、選舉有權者數は五十六萬二千六百九十九名、最近の選舉成績は棄權率三割一分五厘である。

市會議員の定員は百九十六名で、内名古屋市六十四名、豊橋市三十六名、岡崎市三十六名、一宮市三十名、瀬戸市三十名である。

町村會議員の定員は三千七百六十五名で、中島郡起町、海部郡津島町、碧海郡安城町に於ける各三十名を最高とし、愛知縣東郷村始め九十五ヶ町村の各八

選挙、歴代の知事

名を最低とする。

歴代の知事

任官年月日	氏名
明治四年十二月十二日	井關盛良
同 六年五月三十日	鷲尾隆聚
同 八年十二月三十日	安場保和
同 十三年三月八日	國貞廉平
同 十八年一月廿二日	勝間田 稔
同 廿二年十二月廿六日	白根專一
同 廿三年五月廿一日	岩村高俊
同 廿五年一月十五日	千田貞曉
同 七月二十日	安場保和
同 八月二十日	時任爲基
同 三十年十一月十三日	江木千之

任官年月日	氏名
大正元年十二月廿八日	石原健三
同 二年三月三日	松井 茂
同 八年四月十八日	宮尾舜治
同 十年五月廿七日	川口彦治
同 十二年六月十六日	太田政弘
同 十三年六月十三日	山脇春樹
同 十五年九月廿八日	柴田善三郎
昭和二年五月十七日	小幡豊治
同 四年七月五日	岡 正雄
同 六年一月二十日	香坂昌康
同 十二月廿一日	尾崎勇次郎

明治卅一年十二月廿八日	沖 守 固
同 卅五年五月十二日	野村政明
同 十月四日	深野一三

主要官公署一覽

名 稱	所在地
帝室林野局名古屋支局	名古屋市東區武平町
内務省土木出張所	同 上豎杉ノ町
名古屋土木出張所	同 葵 町
名古屋北稅務署	同 主稅町
名古屋控訴院	同
名古屋地方裁判所	同
名古屋區裁判所	同
名古屋供託局	同 萱場町
名古屋少年審判所	同 萱場町
名古屋刑務所	同 千種町

歴代の知事、主要官公署一覽

同 七年六月廿八日	遠藤柳作
同 八年七月廿一日	三邊長治
同 九年八月十日	篠原英太郎

名 稱	所在地
名古屋貯金支局	名古屋市東區横代官町
遞信省電氣試驗所	同 東大會根町
名古屋出張所	同 長堀町
名古屋遞信局	同
名古屋陸軍兵器支廠	同 東區
名古屋憲兵隊	同 西區
名古屋憲兵分隊	同
第三師團司令部	同
步兵第五旅團司令部	同
名古屋聯隊區司令部	同

一一五

主要官公署一覽

名古屋運輸出所	名古屋西區上名古屋町
絹織物検査所	西柳町
名古屋鐵道局	同
名古屋保險事務所	同
大藏省預金部	中區古澤町
名古屋支店	同
名古屋地方專賣局	同
名古屋稅務監督局	同
名古屋南稅務署	同
名古屋醫科大學	鶴舞町
名古屋高等工業學校	御器所町
同附設工業教員養成所	同
名古屋郵便局	榮町
名古屋郵便局	同
名古屋運轉事務所	同
名古屋中央電話局	同
名古屋工廠	南區 廣小路通
海軍監督官事務所	同 熱田東町

一一六

小牧稅務署	東春日井郡小牧町
東京帝大農學部	同
愛知縣演習林	同
津島稅務署	海部郡津島町
半田稅務署	知多郡半田町
東京帝大農學部	同
水產實驗所	同 旭村
大阪稅關武豐稅關支署	同 武豐町
大濱稅務署	碧海郡大濱町
田口稅務署	北設樂郡田口町
新城區裁判所	南設樂郡新城町
東京帝大農學部	同
水產實驗所	同 渥美郡泉村
愛知縣測候所	名古屋東區田代町
愛知縣學園	同
愛知縣昭和塾堂	同
工業試驗場	同 花田町
毛織物検査所	同 西區御幸本町通
商工館	同

大阪稅關支署	名古屋南區港本町
名古屋高等商業學校	同 瑞穗町
第八高等學校	同
都府市計畫會	縣應 橋內
愛知地方委員會	同
豐橋憲兵分隊	豐橋市
豐橋陸軍教導學校	同
豐橋聯隊區司令部	同
豐橋稅務署	同 東八町
豐橋區裁判所	同
豐橋郵便局	同 札木町
岡崎稅務署	岡崎市 康生町
岡崎區裁判所	同
農林省岡崎種鷄場	同 伊賀町
一宮稅務署	同 一宮市大字一宮
一宮區裁判所	同 本町通
瀨戶少年院	瀨戶市大字今

一一七

名古屋市役所	同 南外堀町
名古屋港務所	同 南區港本町
名古屋臨時海港檢疫所	同 築地
愛知縣農產物検査所	同 縣廳內
蠶業取締所	同
林產物検査所	同
同	同
同	同 豐橋市花田町
同	同
同	同 前田南町
豐橋市役所	同 西八町
愛知縣種畜場	同 岡崎市美合町
同	同
岡崎市役所	同 籠田町
一宮市役所	同 一宮市人形町
瀨戶市役所	瀨戶市大字瀨戶
愛知縣粘土採掘事務所	同 東春日井郡水野村
蠶業試驗場	同 丹羽郡布袋町

愛知縣案内

後編

主要官公署一覽

愛知縣蠶業試驗場
豐川支場
同 岩津支場
同 尾張染織試驗場

寶飯郡 豐川町
額田郡 岩津町
中島郡 大和村

愛知縣農事試驗場
同 三河染織試驗場

碧海郡 安城町
寶飯郡 三谷町

愛知縣案内 後編

名古屋市

東海道線 名古屋驛・熱田驛
關西線 名古屋驛・八田驛
中央線 千種驛・大曾根驛・名古屋驛
名古屋線 神宮前驛
柳橋驛・上飯田驛

慶長十五年名古屋城が築かれ、尾張の府が此の地に移されて以來親藩徳川氏の城下街として急速に繁榮した。殊に明治維新以後は交通、通信機關の整備につれて産業は駁々と發達し、また數次の接續町村合併が行はれて區域も擴大し、今や面積百五十方軒、人口百八萬を超ゆる商工都市として本邦産業上の一大中心地をなすと共に、近年歐洲航路も開け國際貿易都市として目覺しき躍進を遂げ、その貿易額の如きは二億四百萬圓を超へてゐる。而して産業中最も盛なるは工業で、その總生産額は五億一千五百七十萬圓に達して本邦第三位に在るが、

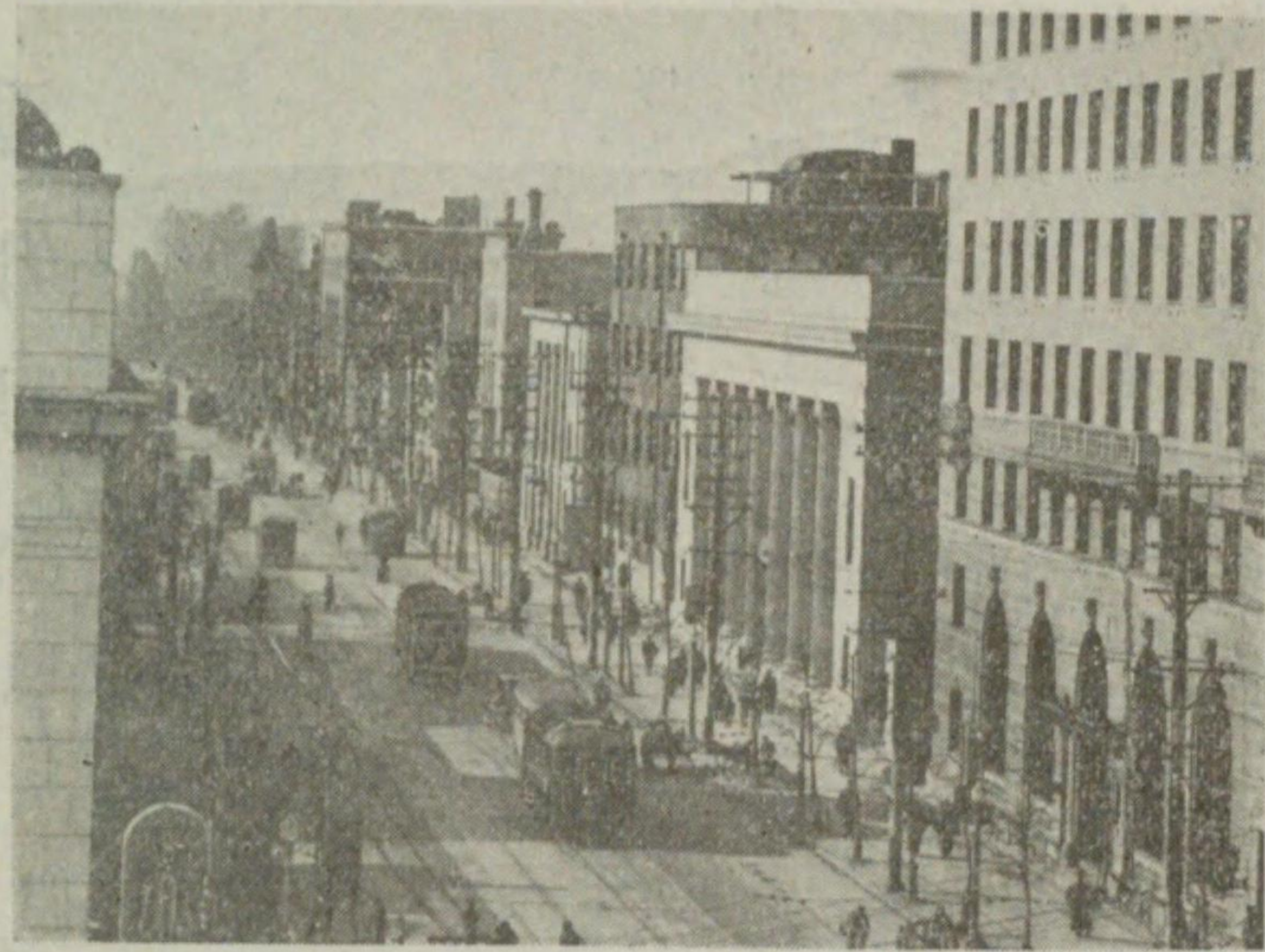
名古屋市

め、内紡績工業は年額二億二千六百五十萬圓に上り、斷然他を壓してその首位

を占之に亞ぐ機械器具工業の如きも七千九百九十萬圓を下らない。殊に本市が航空機製造の中心地であることは航空界の將來に鑑みて大いに誇りとなすところである。また窯業も極めて盛で、その生産額は本場瀬戸を凌ぎ年産額三千二百五十萬圓に達してゐる。特産としては一閑張、漬物、七寶焼等がある。

官幣大社 熱田 神宮

(南區熱田新宮坂町)



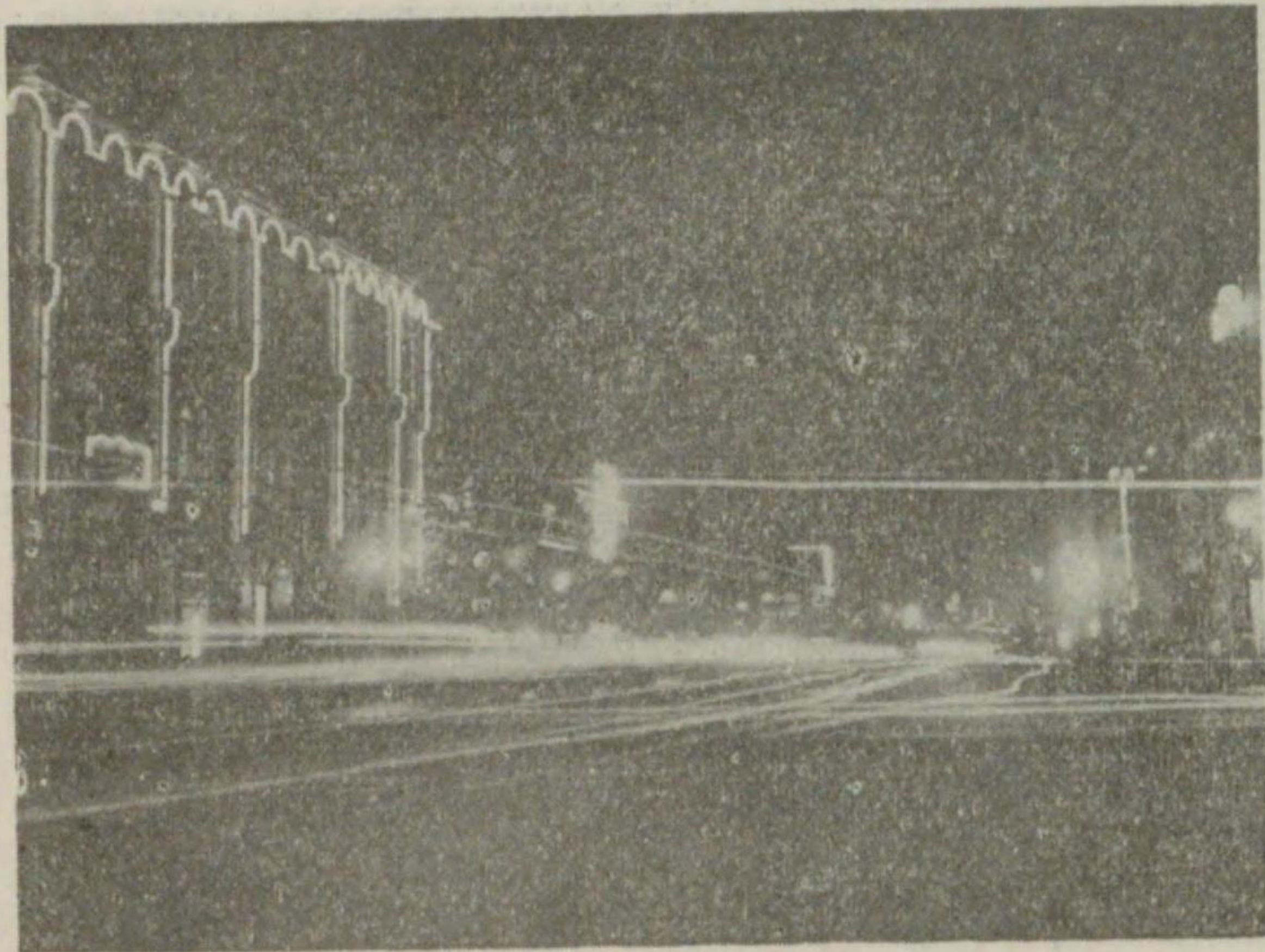
廣小路

伊勢の兩神宮に亞ぐ由緒の尊い大社で、長くも天璽草薙神劍を奉齋せられ、

相殿には天照大神、素盞鳴尊、日本武尊、宮簀媛命、建稻種命の五柱が祀られてある。古くは熱田宮、熱田皇太神、熱田

大神宮と稱せられ、明治四年官幣大社熱田神宮と稱し奉つた。例祭は六月二十一日であるが、其の他一月十一日の踏歌神事、同十四日の御的神事など特種の祭典が嚴かに行はれる。

本宮の社殿は明治二十六年古制によつて改造されて以來既に四十年の星霜を閲したので、國費を以て修理の工を進められ、昭和十年十一月一日嚴かに本殿遷座祭の大儀が執り行はせられた。境内にある元龜二年



廣小路夜景

織田信長の改築と傳ふる海上門と慶長四年加藤清正の造營せる鎮皇門とは昔の

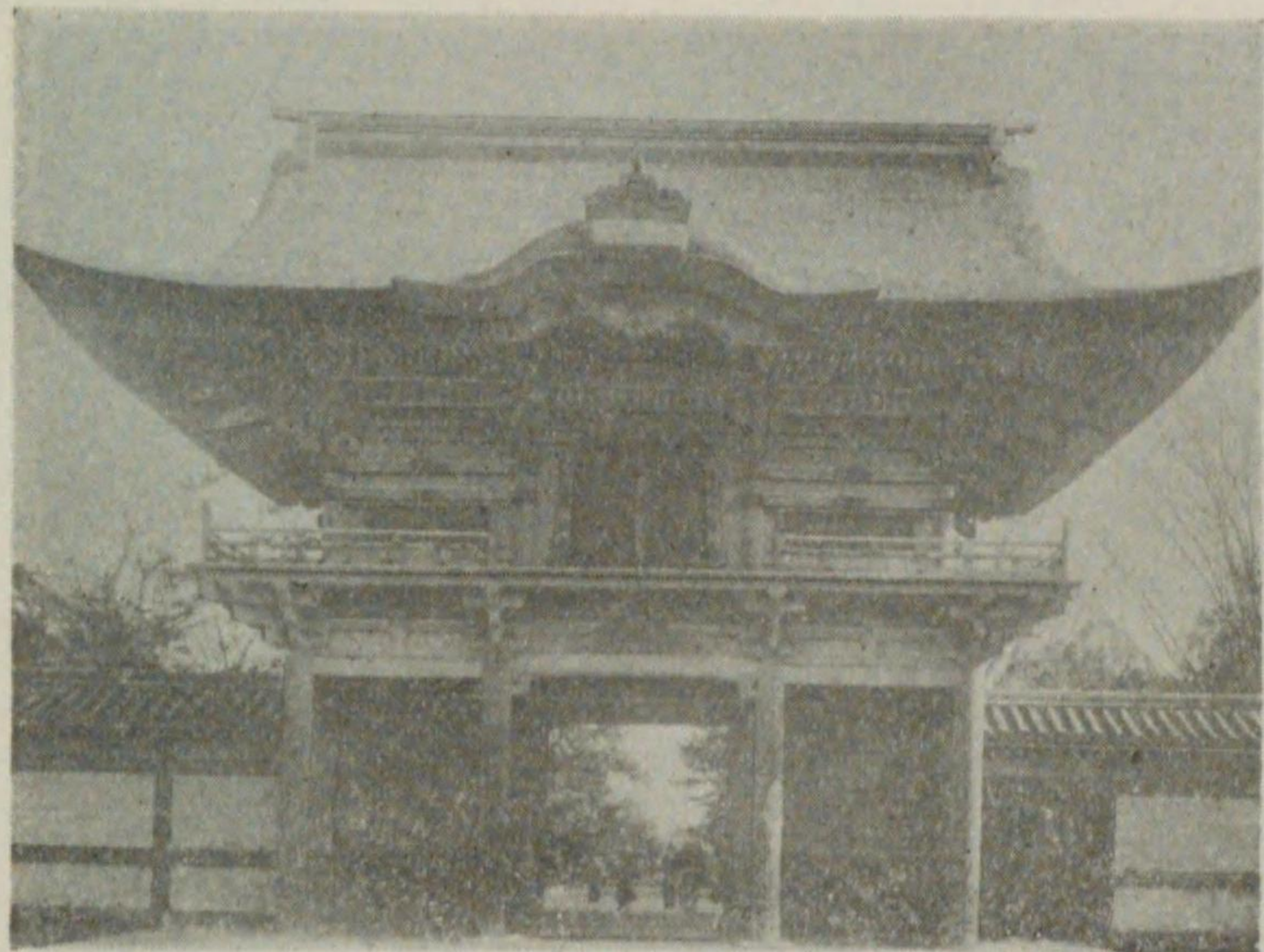
儘で、今國寶に指定されてゐる。その他桶狭間戦捷奉賽の爲めに築かれたとい

ふ所謂信長塀も残つてゐる。

神寶には舞樂面、刀劍、古文書等多く、内國寶に指定されたもの二十種以上に及んでゐるが、國寶以外のものにも由緒ある優れたものが尠くない。

四萬四千七百坪に餘る神域には樹木鬱蒼と茂り、古來七本楠と稱する樟の巨木もあつて極めて美しい社叢をなしてゐるが、近年更に神域擴張、諸施設整備の計畫が進められてゐる。

別宮に八劍宮がある。延喜式神明帳にある八劍神社であるが、明治十三年宮號に改められた。



國寶鎮皇門

攝社としては式内名神大社の日割御子、孫若御子、高座結御子の三社及び式

内社の氷上姉子、上知我麻、下知我麻、青衾、御田の五社がある。其の外境内その他に多くの末社がある。

笛のねに神のこころやたよるらん

森の木風も吹きまざるなり

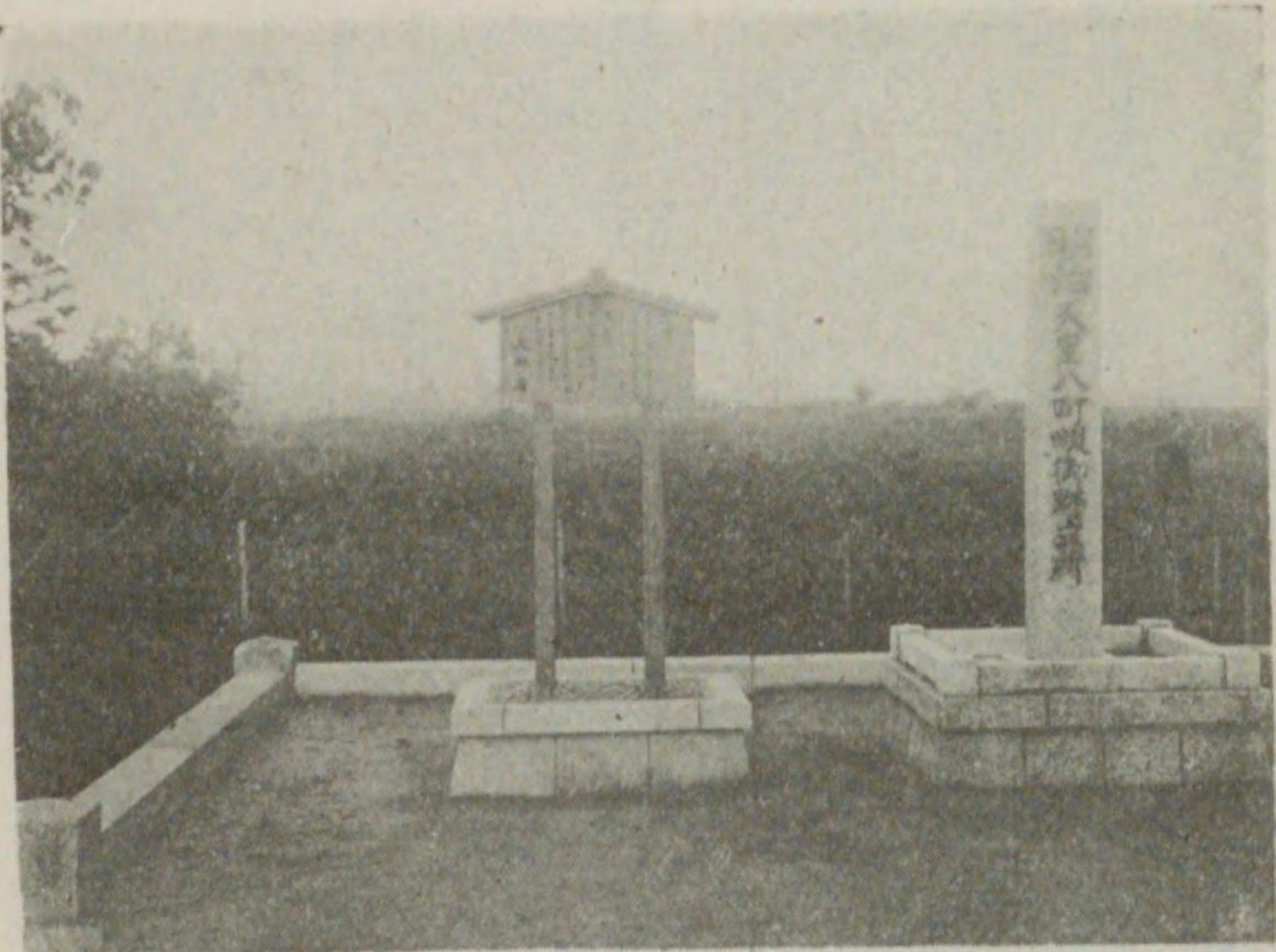
赤染衛門

明治天皇覽獲地

(南區熱田東町濱新田)

此の地は俗に八町畷と稱せられ、明治元年九月二十七日、天皇御東幸の際、農民の

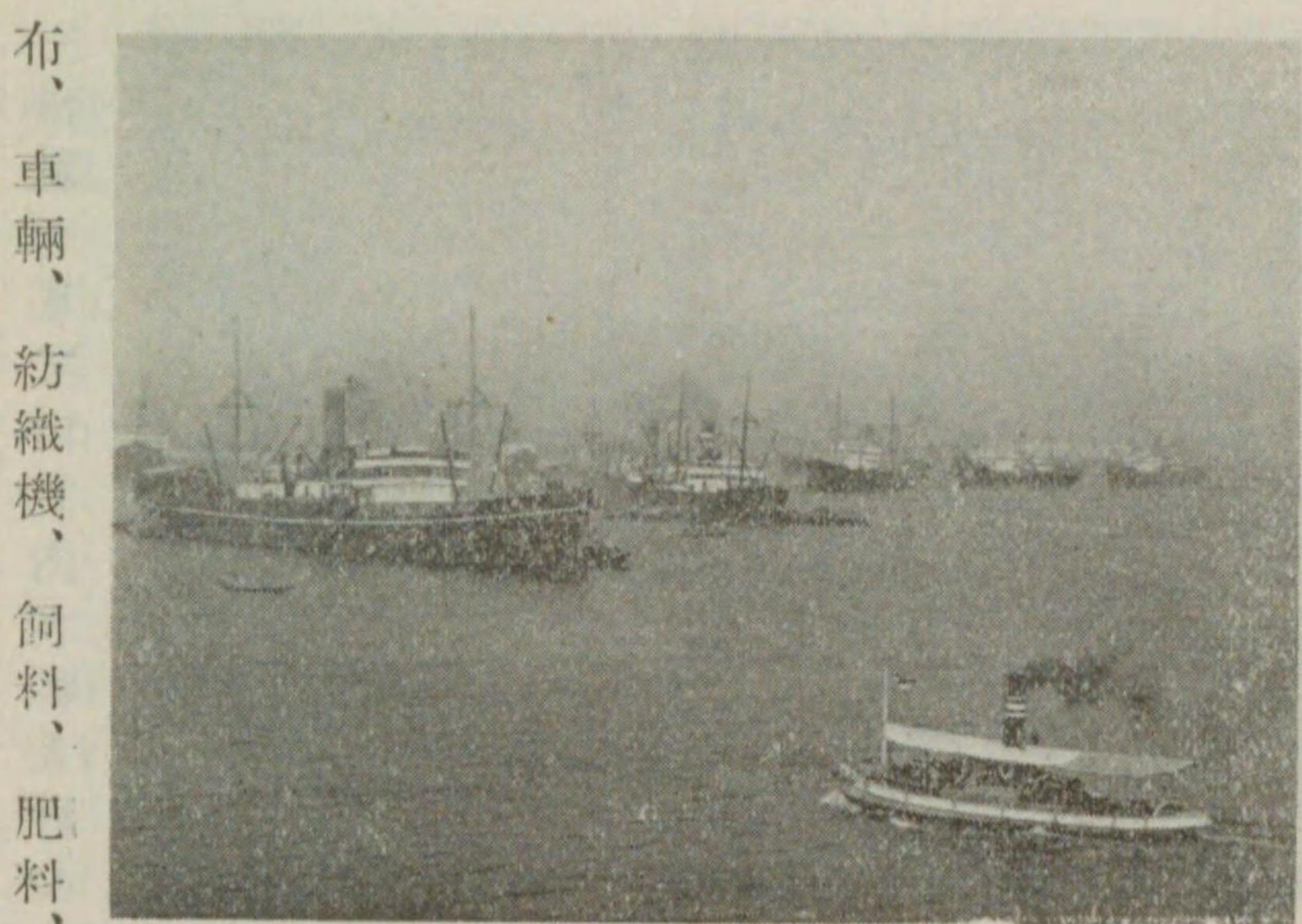
收穫實況を天覽あらせられた他に類例のない聖蹟で、今史蹟に指定されてゐる。



明治天皇覽獲地

大正二年徳川義親侯は其の土地を購入し「明治天皇覽穫之所」と題する碑を建て、永く御聖徳を拜頌し奉ることとした。隣接の水田は今熱田神宮に寄附せられ神宮の御供田となつてゐる。

名古屋港



名古屋港

市の西南、伊勢灣の極北に位する開港場で、貨物集散上重要な地點を占め、昭和九年の入港船舶十萬九百餘隻、約一千六百萬噸、内外貿易は數量に於て凡六百六十萬噸、價額にして四億三千餘萬圓を算してゐる。其の主なるものは石炭、木材、陶磁器、綿

布、車輛、紡織機、飼料、肥料、羊毛等である。

本港はもと水淺く且は港灣としての設備もなかつたので、本縣は明治二十九年以來三期に亘り一千五百四十八萬餘圓を投じて築港工事を行つた結果、一萬噸級船舶の出入が自由となり、船溜は同時に三十八隻を碇舶せしめ、上屋、鐵道、起重機等の陸上設備も整ひ、船車連絡の便稍備はるに至つたが、其の後貿易は倍々發展の趨勢にあるので、更に總工費二千十二萬圓を以て十二ヶ年繼續の第四期擴張工事の計畫を樹て、昭和二年以來工事を進めてゐる。之が完成の曉は船溜面積及同時碇舶汽船數は現在の約二倍となり、又繫船岸壁の延長一千八百間、之に上屋十棟七千餘坪の新設を見るので、市の隆盛と相俟て益々其の使命を完うすべき一大港灣となるであらう。

中川運河

本運河は市の西部地區を南北に縦斷して名古屋港と名古屋驛との海陸連絡を完全に、且其の沿線を一大工場地帯になさんと、工費一千九百萬圓を以て大正

十五年十月工を起し、昭和五年十月竣工したもので運河形式は閘門式を採り、
總延長八千二百米、支川一千八百十八米、其の幅員を九十米、六十四米、三十
六米の三種に分ち、河床は名古屋港水準基零點以下約二米に掘鑿し、閘門に依
つて平均三米の深さを保たしめてゐる。

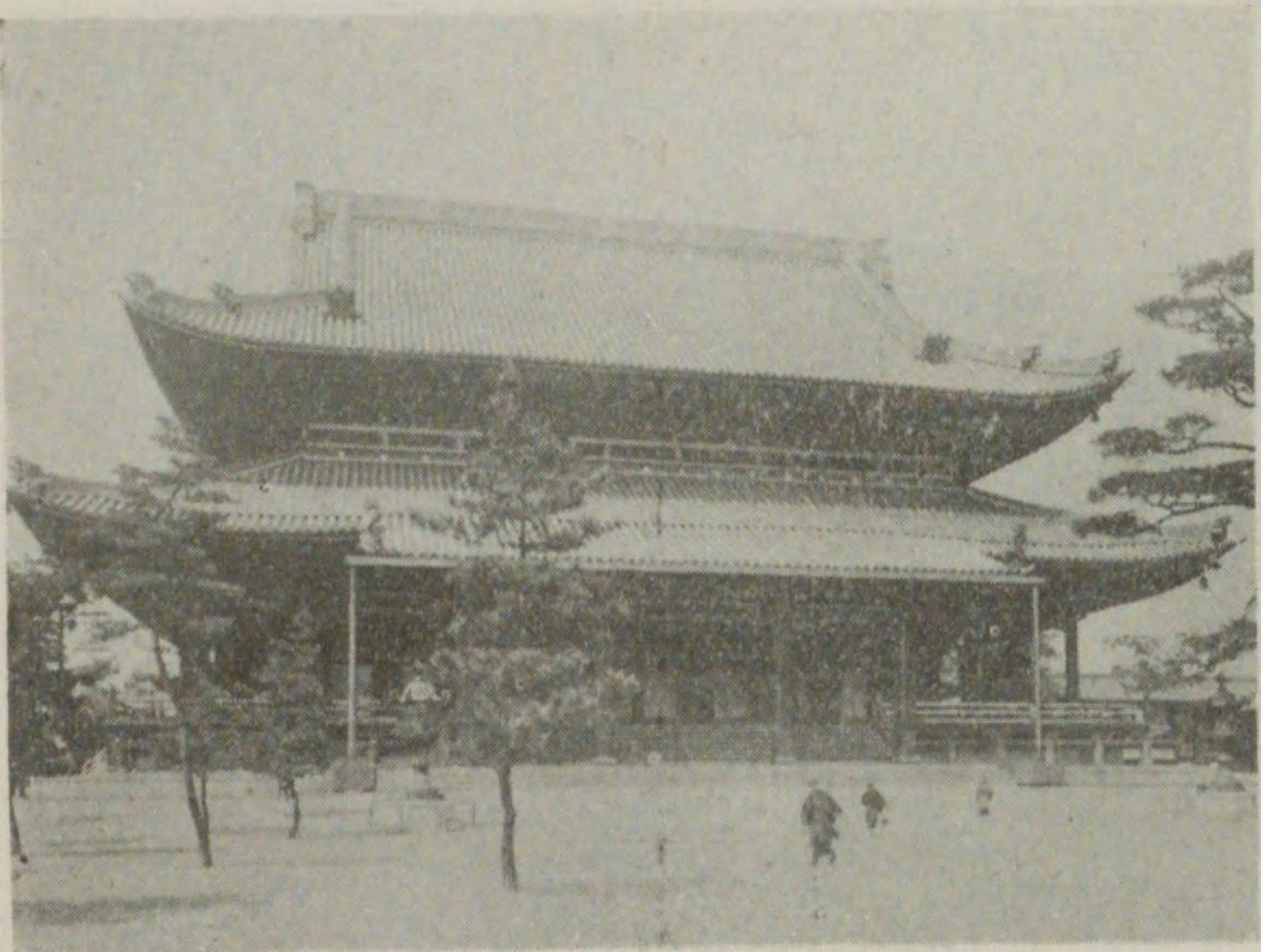
閘門は中川口と堀川口の二ヶ所に、また舟溜を堀止、中川口、松重の三ヶ所
に設け、運河の兩岸には八十七ヶ所の専用物揚場と百一ヶ所の公共物揚場があ
る。

眞宗大谷派本願寺名古屋別院

(中區下茶屋町)

大谷派本願寺の一如上人が名古屋の地に掛所を建立せんとて袋町にあつた龍
泉寺を之に充てたが、偶々元祿三年藩主光友より古渡城址である現地を寄附せ
られたので掛所を此處に移し、一如上人を以て開山とした。現在の本堂は文化
二年工を起し、十八年の日子を費して文政五年落成したもので、其の規模の壯

大なること市内第一と稱せられる。



眞宗大谷派本願寺名古屋別院本堂

境内の新御殿は明治十一年以來屢々行在
所となり、同二十三年三月陸海軍聯合大演
習の際には大本營に充てさせられ、後庭の
亭附近は明治二十四年二月二十一日煙火天
覽の場所となつた所で、孰れも今史蹟に指
定されてゐる。

寶生院 Ⅱ 大須觀音

(中區門前町)

眞言宗の寺院で北野山眞福寺と號し、も
と中島郡大須庄にあつたのを徳川家康が慶
長十七年現地に移したもので、俗に大須觀音とも稱せられ、古來大衆信仰の中

心になつてゐる。



寶生院本堂

當寺には世に眞福寺本と稱する多くの珍籍を襲藏し、内國寶に指定されたもの二十八種に及んでゐる。

盛り場

(中區門前町附近)

大須は東京に於ける淺草の存在である。淺草觀音にも比すべき大須觀音の伽藍をとり圍んで様々な露店が蝟集し、門前通から仁王門に至る間は仲見世にも似て雑踏を極めてゐる。

此の一帶は市内隨一の盛り場で寄席、劇場、映畫館等凡ゆる娛樂機關が整ひ、

殊に宵の灯が點けば俄然活氣を呈し、カフェー、喫茶店、料理屋などのネオン

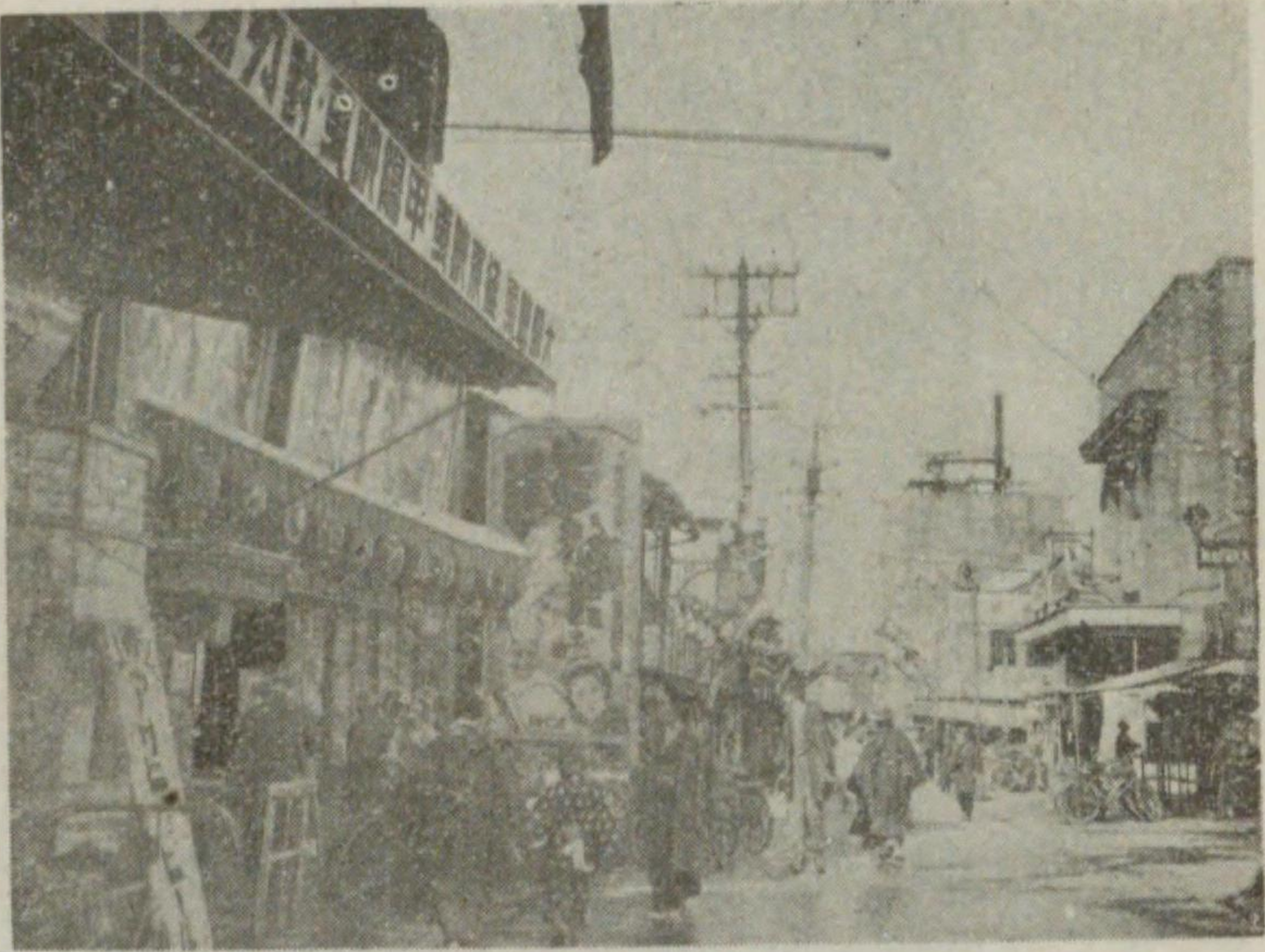
サインは鮮やかに空を五彩に色どり忽ち不夜城を現出する。

大須に續いて万松寺通りがある。大須に亞ぐ盛り場で劇場、映畫館の幟が路を掩ふて、民衆娛樂街としての濃厚な雰圍氣が漂ふてゐる。歩道は宛然人の洪水を思はせ、夜が織り出す光と色と音の交響樂は更夜を忘れて軒に挟まれた數條の天にこだまする。

万松寺通

七ツ寺

(中區門前町)



眞言宗に屬する寺で、天文八年僧行基の開創と傳へられる。もと中島郡七寺

村にあつたものを天正十九年清洲に移し、慶長遷府の際更に現地に移されたものである。



本尊阿彌陀坐像

桃山時代の建築といはれる本堂を始め本尊の阿彌陀如来、脇侍の観音、勢至兩菩薩の坐像及持國、多門二天王の立像は辛櫃入一切經と共に今國寶に指定されてゐる。

縣社 若宮八幡社

(中區末廣町)

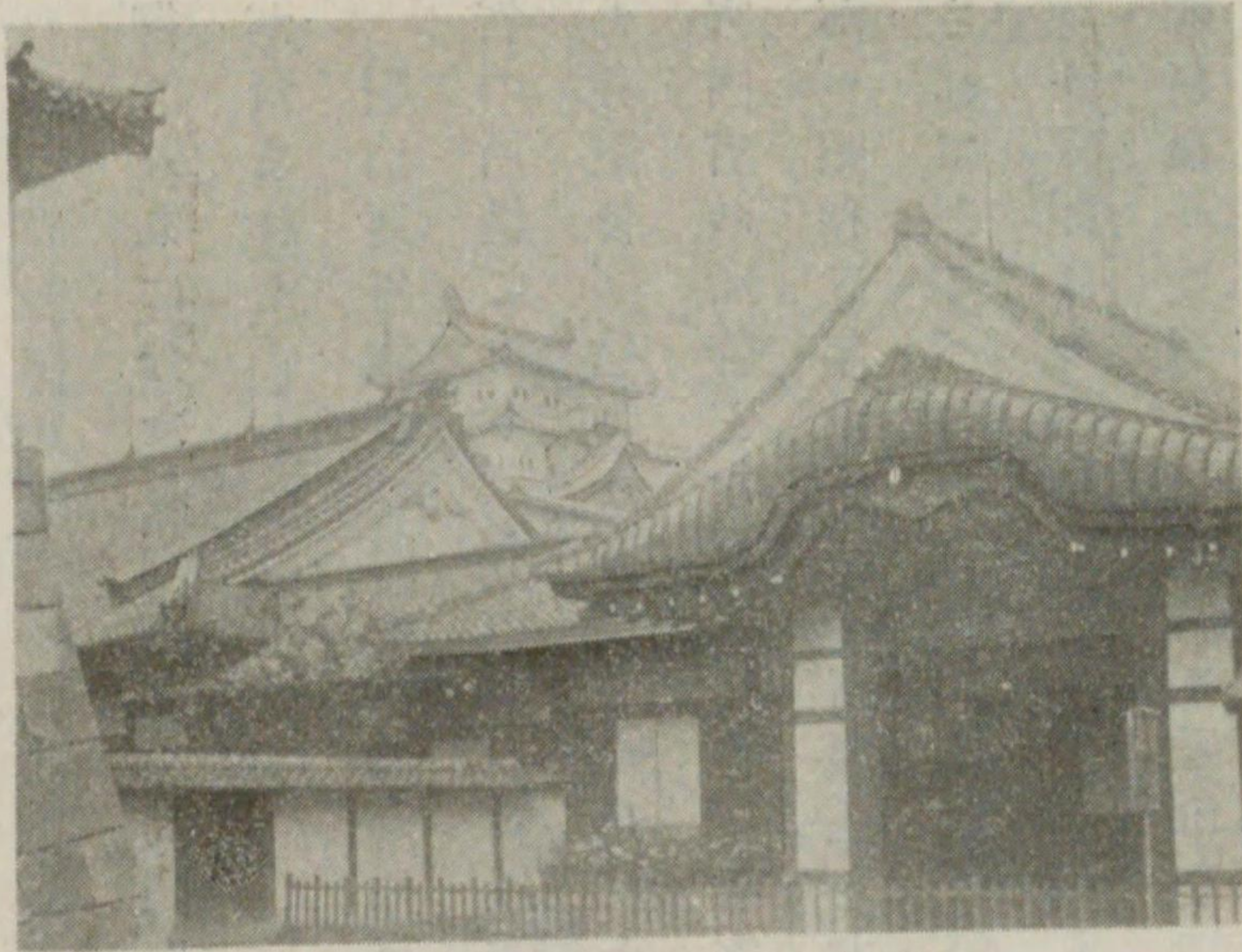
もと名古屋城内三之丸に在つたが、慶長築城のとき現地に移された。城下の

總鎮守で文武天皇の御宇の勸請と傳へられる。天文元年兵火にかゝり同八年再

建し、豊臣秀吉より社領二百石の寄進があつたが、徳川時代には百石が附せられて居た。

名古屋城

(西區南外堀町)



名古屋城御殿玄關車寄名

慶長十五年徳川家康が西國二十二藩に命じて築城せしめたもので、義直が此處に封ぜられて以來、二百六十年の間六十餘萬石の雄藩尾張徳川氏の居城として維持せられたのである。

城は臺地を利用して築いたもので、西と北の二面は高い石垣を築いて其の周

園に水濠を圍らし、南と東は深い空濠を設け、内側には土壘を築いて周圍の入口に柵形を作り樓門が營まれた。内部の構へは本丸、二之丸、三之丸、西丸、御深井丸に分たれ、本丸の周圍は更に深い空濠を圍らし、其處に天守閣と居館が營まれた。

明治四年廢藩の際、時の藩知事徳川慶勝は之を官に獻じた。同七年九月陸軍省の所轄に移り、尋いで名古屋鎮臺の兵營設置さるゝに及んで二之丸、三之丸の各殿舎、建物は概ね取除かれた。越えて二十六年本丸、西之丸、御深井丸は宮内省の所管となり、名古屋離宮と定められた。爾來幾度か聖駕を迎へ奉つたが、昭和五年十二月離宮廢止と共に名古屋市に御下賜になり、今は一般に公開されてゐる。

天守閣は加藤清正の造營にかゝる高さ四十二米の五層樓閣で、頂上の金鯢は維新後一度取り下されて歐洲まで送られたこともあつたが、後ち再び閣上に上げられ燦然と昔のまゝの姿で輝いてゐる。

御殿は玄關より大廊下を経て表書院、對面所、上洛殿、湯殿書院、黒木書院等があり、各室の壁畫や襖繪は、築城當時の名家に依つて描かれたもののみである。

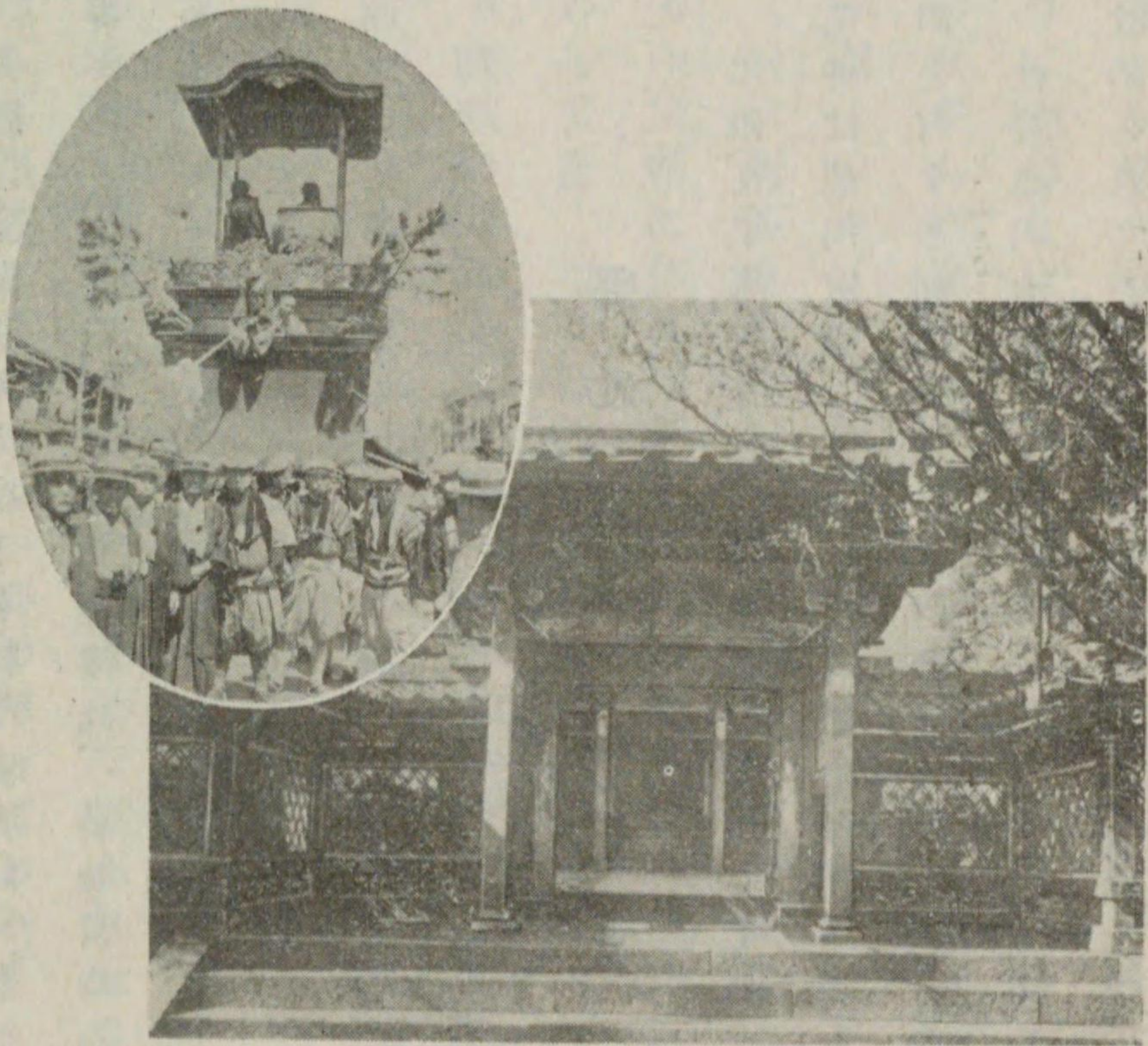
城の主なる建物は國寶に、建物及び重要な地域は史蹟に指定せられて居り、又西之丸にある築城以前から著名な榎の老樹は天然紀念物に指定せられて居る。尙今の歩兵第六聯隊の構内に在る二之丸庭園は名園として知られてゐる。

縣社 東照宮

(西區長島町)

元和五年藩祖義直が天海僧正を請じて名古屋城三之丸に創建せしめたもので、祭神は徳川家康である。舊時には社領千石を有し、天台宗に屬して五百石の寺領を有する別當神宮寺も附隨してゐたが、寺は明治三年廢絶した。

社殿は明治八年現地に移され、其の規模は多少縮少せられたとは云へ舊觀は改められてゐない、所謂權現造の善美を盡せる本殿及び拜殿は、唐門、透塀、



東照宮の祭例と山車

樓門等と共に、今國寶に指定せられてゐる。

神寶の銘正恒、銘宗近の二口の太刀は國寶に指定されてゐる。

四月十六、十七の兩日に催される例祭は古來名古屋祭と稱して全市を沸き立たせる大掛りなものである。殊に十七日に行はれる神輿の渡御は最も豪華を誇るもので、先づ先驅として白衣の仕丁が東照宮の正門を出れば、順次各町内

から九輛の山車が曳出され、之に續く警護の大母衣着けた甲冑武者を眞先きに、大江山入りの頼光があるかと思へば蜀漢の關羽が青龍刀を引提げて睥睨する、さては殿しい馬上の武士、徒歩の行列、更に續く騎馬の神主を先頭に三基の神輿が劉曉たる樂の音に送られて嚴肅に若宮八幡へ渡御するので、その行粧の美は他に比類なき壯觀である。

縣社 那古野神社 (同前)

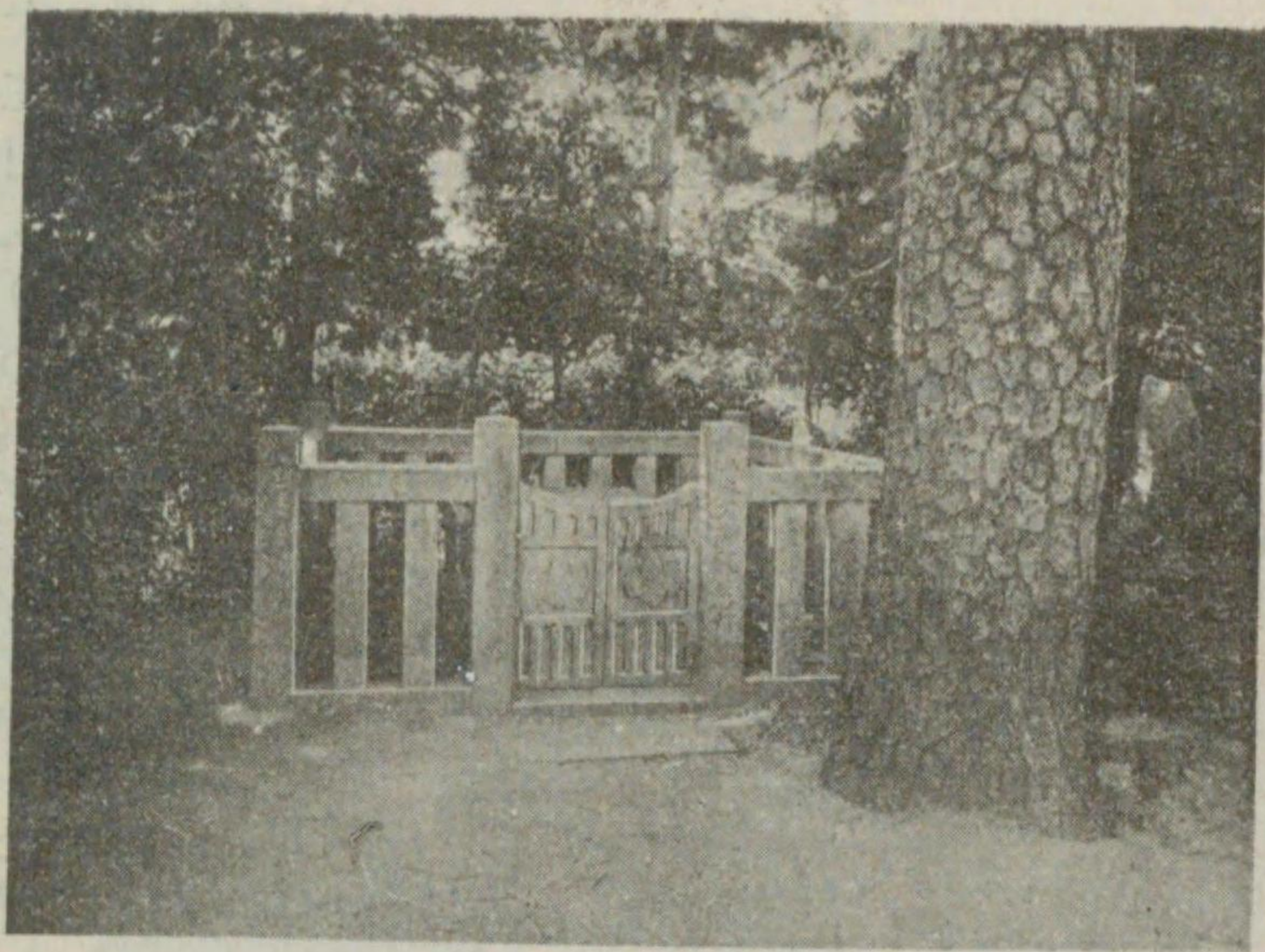
東照宮の東隣に在る。俗に龜尾天王社と稱し、祭神は素盞鳴尊である。もと神領三百石を有して三之丸に東照宮と並んで鎮座したが、其の後現地に遷された。縁起に従へば醍醐天皇の延喜十一年勅に依つて創建せられたもので、慶長の築城に際しては廓内となるので遷座の議が起つたが、家康神前に於て御圍をとらしめ、それによつて遂に舊地に留め、城の鎮守となし更に府内の氏神としたといはれてゐる。

七月十五、六の兩日行はれる例祭は天王祭と稱して有名である。尙別當天王坊は眞言宗に屬し著名な古刹であつたが、明治三年神佛分離の際

名古屋市
廢寺となつた。

中村公園

(西區中村町)



湯井と傳へるものがあり、傍には近年建設された銅像もある。

秀吉 不世出の英雄豊臣秀吉の出生地を記念して、明治三十四年公園になしたもので、園内には池泉松林があつて風致は頗る閑雅である。

湯井の 豊國神社の側に「豊公誕生之地」と刻む石標が建てられてある。此處は古來狐藪といはれた所で、今も竹藪となつてゐる。東隅に小出政秀、木下長嘯子の宅趾と稱するものもある。また隣接地太閤山常泉寺の境内には秀吉手植と稱する枸骨樹つばきの老木や産

尙本園に隣接する妙行寺は、加藤清正の誕生地として知られ、境内には清正の像を祀れる清正堂及び文化七年の建設にかゝる加藤肥後侯舊里碑がある。

建中寺

(東區筒井町)

浄土宗に屬する舊藩主徳川家代々の菩提所で、慶安四年二代藩主光友が先考義直の爲めに建立したもので、開山は下總結城弘經寺の廓呑である。

元祿十一年光友は生母靈仙院の爲めに靈屋を建て、爾來四字の靈屋が建てられ、天明五年の火災にも山門などと共によく難を免れたが、明治五年に至つて三字が廢せられ、一字を残して之に合祀した。其の後万松寺に在つた義直夫人高原院の靈屋が移されて今は二字となつてゐる。境内頗る廣く、宏莊な殿宇が並び建ち市内屈指の巨刹である。

徳川園

(東區徳川町)

昭和六年尾張徳川家から名古屋市に寄附せられた舊徳川邸である。之は元祿
名古屋市

九年二代藩主光友の別邸として造營されたものであるが、現在の宏莊な建物は

明治三十三年御料局拂下の良材を以て建築せられ、幽邃な庭園は名古屋城二之丸に在つた庭石を以て造園された。

今は各種の集會に、また園内の一部には兒童遊戯の設備をも施して孰れも有料にて一般の使用に供されてゐる。

徳川美術館

徳川美術館

本館は尾張徳川家の什寶を永遠に保存し、且つ世の美術家、工藝家の研究參考資料に供せんとして舊徳川邸の一部に建設されたものである。その様式構造は城砦を模倣せる簡素な鐵骨鐵筋混凝土造りで、本



館所藏の什器七千餘點の出陳を始め、社寺或は私人の什寶にして有益なる參考品をも受託陳列し、有料を以て一般の觀覽に供してゐる。

長母寺

(東區矢田町)

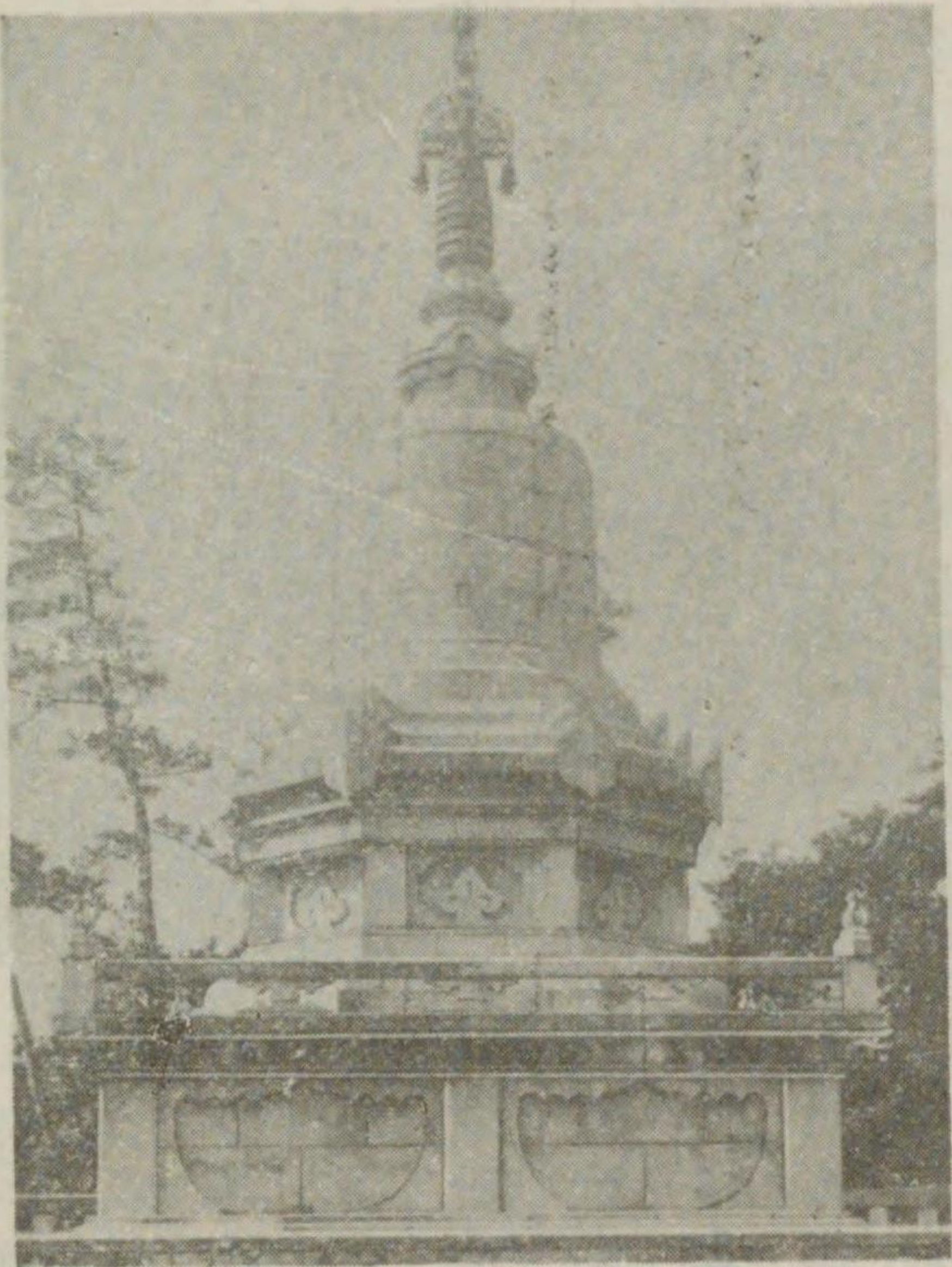
治承三年山田重忠が其の母長母院の爲めに創建したもので當時天台宗であつたが、弘長三年第三世靜觀坊が無住國師を開山とし、臨濟宗に改めた。弘安四年勅願所となり、康永二年には足利尊氏の祈願所となつたといふが、其の後兵火の爲堂宇灰燼に歸して、文祿以後は大いに廢頽した。慶安三年澤彦和尚之を再興し、更に天和年間藩主光友に依つて伽藍が再建されて今日に及んで居る。寺寶に國寶無住國師等身の坐像を始め無住の筆蹟や古文書等がある。

日暹寺

(東區田代町)

覺王山と號し、釋尊の遺骨を奉安せる靈場である。此の遺骨は明治三十三年

暹羅國皇帝より我國佛教徒に贈られたもので、之より二年前一英人が英領印度
ピツプラ！ワ地方の一小丘で發掘したものを、翌年印度カルカッタ政府から暹
羅國皇帝に贈與したものゝ一部
である。



日暹寺舍利奉安塔

此の寺は佛教三十宗派聯合主
催で創建せられ、住職は各宗交
代して之に補することになつて
ゐる。
境内は市の東郊丘陵の起伏す
る廣い地域を占め、春の櫻、秋
の紅葉の眺めもよい。

東山公園

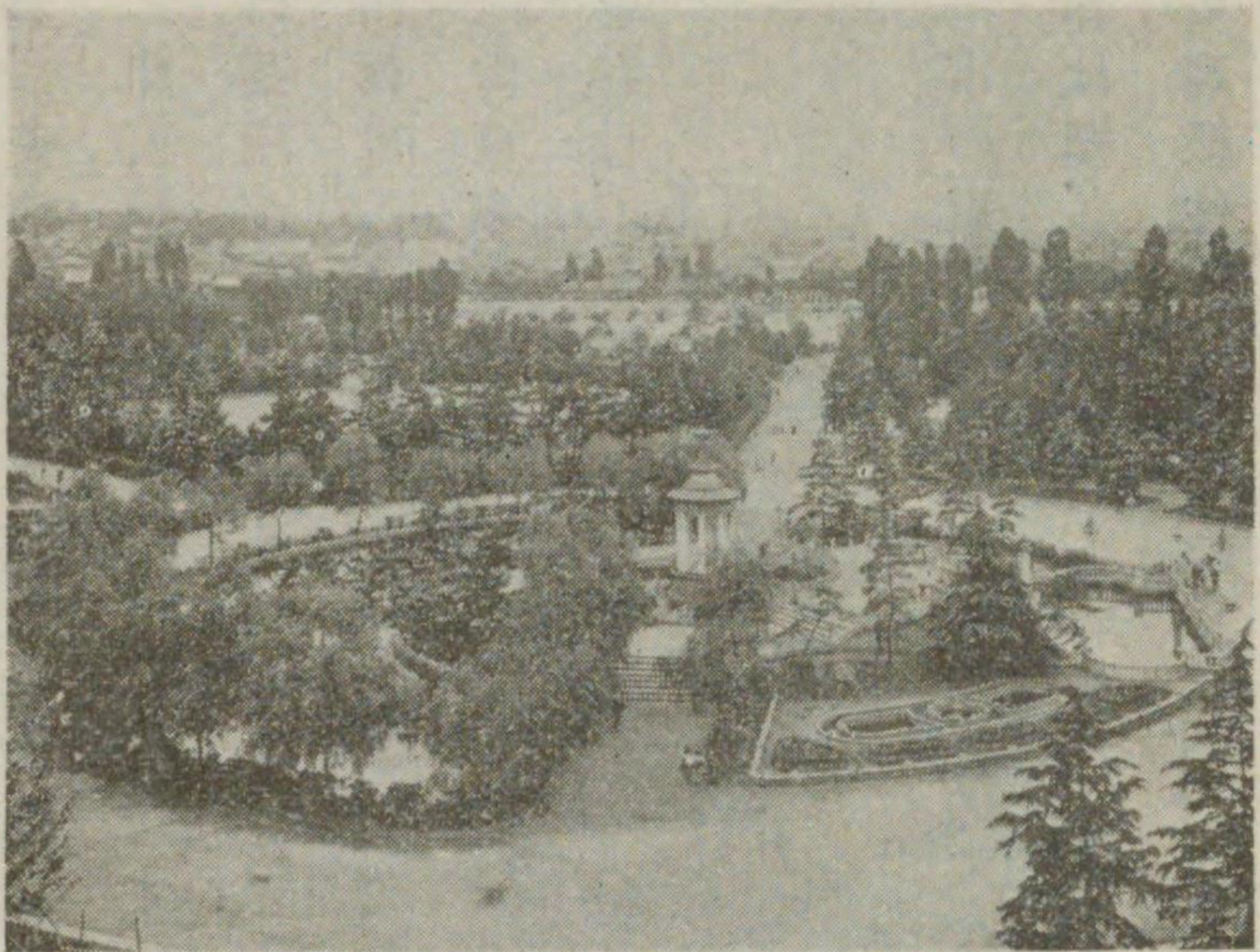
(東區田代町)

本園は自然の景勝地を利用し、昭和十年四月開園せる一大公園である。園内

は丘陵多く、樹木繁茂するなかに池などあ
つて風色佳絶なる上、四季の變化にも富み、
市民の行樂に最も適してゐる。市は之が施
設として植物園及び動物園の計畫を樹て目
下工事に着手してゐる。

鶴舞公園

(中區鶴舞町)



鶴舞公園

明治四十三年名古屋市に開催された關西
府縣聯合共進會々場の跡に公園の設備を施
したもので、正面のルネサンス式の噴水塔
と音楽堂を中心に花壇が縦横に放射し、山林池水の眺も取り入れられた有數の

歐風公園である。美しく刈りこまれた樹林を透して公會堂、醫科大學、高等工業、美術館、聞天閣、圖書館などが散見される。

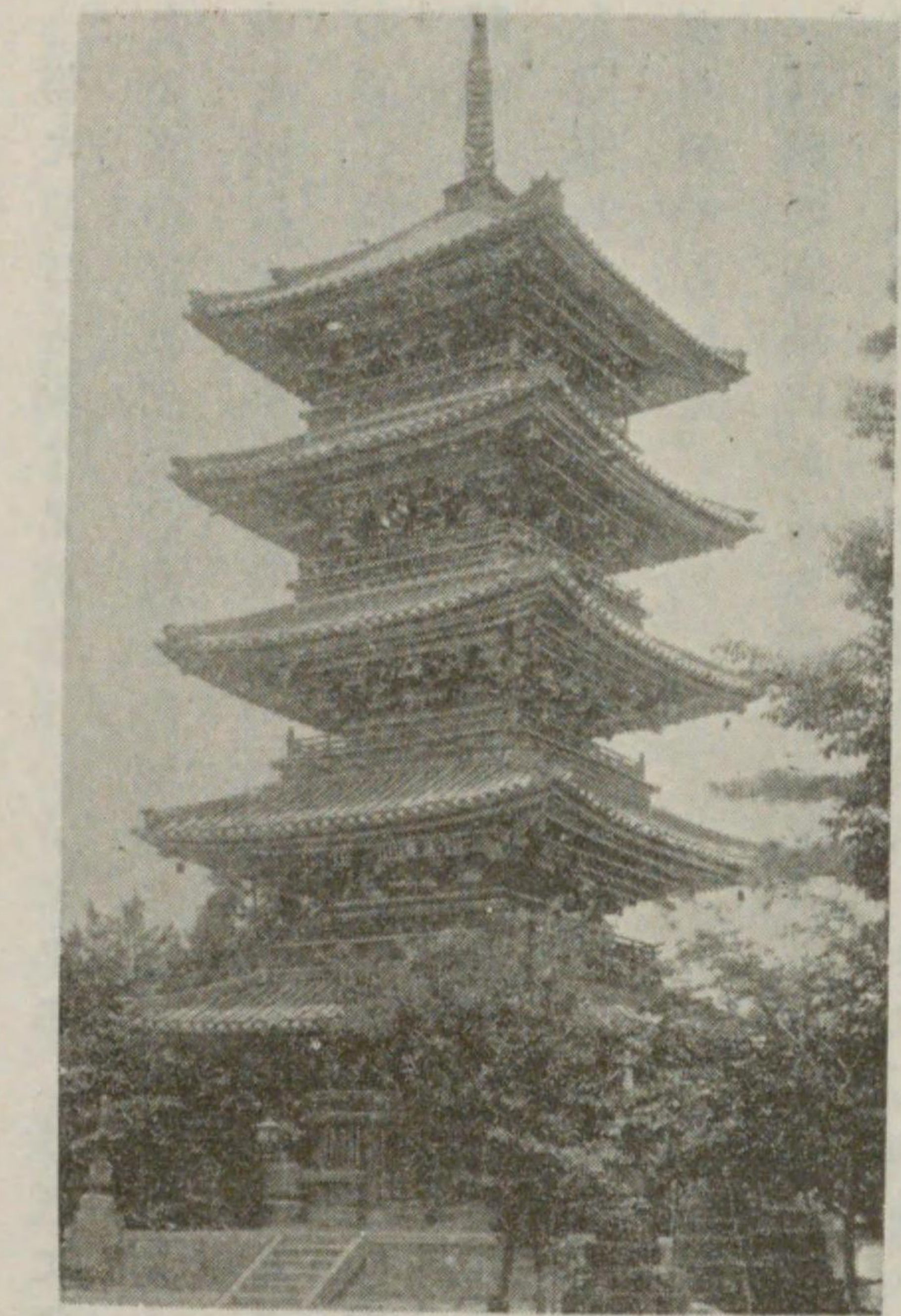
聞天閣は當時の記念物として残された室町風の宮殿造りで之と相並んで猿面の茶屋がある。この茶屋はもと御城御數寄屋と稱し、古田織部の好みに依り織田信雄（一説織田有樂）の造營したもので、爾來轉々して最近此處に移された。尙東方に八幡山古墳がある。直徑八十二米、高さ十米の一大圓墳で周湟の跡を存し、埴輪も發見せられ、今史蹟に指定されてゐる。

八 事 山

市の東郊に在る。丘陵起伏するなかに池や森があつて自然の一大公園をなし、春は櫻、秋は紅葉と春秋行樂地となつてゐる。最近はこの美しい環境を利用して高級住宅地が實現されつゝある。

附近に眞言宗の名刹興正寺がある。高野山金剛峰寺の末寺で東西の二山に分

れ、東山を遍照院、西山を普門院と稱する。貞享三年僧天端が高野山から來つて此の地に草庵を結んで住した。時の藩主光友は之に歸依し大伽藍を建立して



八事山興正寺の五重塔

今の寺號を與へた。同年寺後の山頂に一丈二尺の銅造大日如來を安置し、後ち西山に普門院を建立したので、之より東西兩立することになつた。東山は持戒堅固の神聖地として維新前は婦女子の入山を禁じ高野山の奥の院

に擬して路の兩側に石造の寶篋印塔を竝立したので尾張高野の稱がある。境内は頗る廣大で五重塔始め數多の堂宇が建ち並んでゐる。

笠 覆 寺

(南區笠寺町)

俗に笠寺と稱する眞言宗の寺である。縁起に従へば聖武天皇の天平八年善光なる者が呼續濱に漂着した靈木を以て自ら彫刻せる十一面觀音を安置して小松寺と稱した。その後堂宇が廢頽し、荒野の中にこの尊像が雨曝しになつてゐたので、鳴海の長者の娘が自らの笠を脱いで此の佛に着せ參らせた、後ち彼女は時の太政大臣藤原基經の子兼平の寵を得たので、延長年間堂宇を再建し、田畑を寄附して笠覆寺と稱したといふ。その後曆仁の頃阿願なるものに依つて堂塔が再興せられた。

阿願の寄進にかゝる建長三年在銘の梵鐘が今に存し、また寺寶の色紙墨書妙法蓮華經第五の一卷は國寶に指定されてゐる。

主なる工場會社

株式會社大隈鐵工所 東區布池町にある。工作機械の製造に於て首位に在る工場で、軍需品工業界に貢献する所實に大なるものがある。殊に最近日本車輛製造、岡本工業の二會社と協力して、純國產自動車「アツタ號」の製作に成功したことは特筆すべきで、市内に二、市外に一、縣外に一の工場を設置してゐる。

東海電極製造株式會社名古屋工場 中區堀江町にある。化學工業に於ける代表的のもので、専らカーボランダム、電極、電刷子、黒鉛等の製造に従事する特殊の工場である。

日本陶器株式會社 西區則武町にある。本邦に於ける純白硬質陶器製造工場の始祖であり、海外輸出陶器工場中最大なるもので、其の設備の完備と規模の壯大とは日本陶業界の代表的のものである。

日本車輛製造株式會社 南區熱田東町にある。這種工場中本邦屈指のものとして普く其の名を知られ、主としては蒸氣、電氣機關車、鐵道用客貨車、電車、

ガソリン自動車等を製作してゐる。

三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所 南區大江町にある。愛知時計と相並んで本邦民間航空機製作所中屈指のもので、内燃機、一般兵器の製作亦その俊秀を全國に誇稱されてゐる。

殊に本社の獨創にかゝる三菱大馬力の發動機は我國最初の國産強力發動機として斯界に多大の稱讚を博し、本邦發動機工業界に貢献するところが多い。

株式會社大同電氣製鋼所 南區東築地にある。本邦屈指の特殊合金製造工場で、合金、製鋼、製鐵等その規模の壯大、技術の精巧は共に世界的のものである。現在各省の指定工場となり、製作される電氣爐の如き其の需用の範圍は極めて廣い。

愛知時計電機株式會社 南區千年町にある。初め時計製造工場として生れたが、其の後之を分離して瑞穂工場に移し、本工場では専ら海軍兵器及航空機等の製作に當り、其技術の精密は獨り中京の誇りたるに止らず、本邦工業界屈指

の工場として斯界に名聲を馳せてゐる。

日本碍子株式會社 南區堀田通にある。點火栓、化學磁器、絶縁物及耐酸陶磁器の製作に於て世界の首位を争ふ盛名と設備を有し、輸入を防遏して今や海外輸出を行ふの状態にある。

岡本工業株式會社 中區東郊通にある。自轉車、自動自轉車、自動車、兵器、飛行機附屬品等を製造してゐるが、自轉車の年産能力は八萬臺に達し、海外に輸出する所多く、軍需工場として亦有數のものである。

主なる官公署、學校、銀行、工場、會社一覽

(官 公 署)

愛知縣廳	東區武平町	名古屋市中區役所	中區新榮町
名古屋市役所	西區南外堀町	同 南區役所	南區熱田東町
名古屋市東區役所	東區布池町	帝室林野管理局 名古屋支局	東區武平町
同 西區役所	西區南外堀町	内務省土木出張所	同 上豎杉ノ町

名古屋市

名古屋市

名古屋地方專賣局 中區古澤町
 名古屋稅務監督局 同
 名古屋工 廠 南區熱田東町
 名古屋憲兵隊本部 西區御幸本町通
 第三師團司令部 同 南外堀町
 步兵第五旅團司令部 同
 名古屋海軍監督官事務所 南區熱田東町
 名古屋控 訴院 東區主稅町
 名古屋地方裁判所 同
 名古屋輸出絹織物檢査所 西區上古屋町
 名古屋 遞 信局 東區長堀町
 名古屋貯金支局 同 橫代官町
 名古屋中央電話局 西區桶屋町
 名古屋鐵道局 同 西區西柳町
 名古屋水上警察署 南區海岸通
 新榮警察署 中區新榮町

御器所警察署 中區永金町
 熱田警察署 南區熱田傳馬町
 築地警察署 同 海岸通
 中 消 防 署 東區武平町
 南 消 防 署 中區梅川町
 愛知縣測候所 東區田代町
 愛知縣學 園 同
 名古屋港務所 南區港本町
 愛知縣農產物檢査所 縣 廳 內
 愛知縣工業試驗場 東區花田町
 同 毛織物檢査所 西區御幸本町
 同 名古屋支所 同 天神山町
 同 商 工 館 同 御幸本町通
 同 蠶業取締所 縣 廳 內
 名古屋臨時海港檢疫所 南區築地
 名古屋土木工區事務所 中區御器所町

鍋屋警察署 東區筒井町
 江川警察署 西區天神山町
 笹島警察署 中區牧野町
 門前警察署 同 裏門前町

(學 校)

名古屋醫科大學 中區鶴舞町
 名古屋高等商業學校 南區瑞穂町
 第八高等學校 同
 名古屋高等工業學校 中區御器所町

(銀 行)

株式會社 伊藤銀行 西區御幸本町通
 同 日本貯蓄銀行 中區小林町
 同 名古屋銀行 同 榮町
 同 村瀨銀行 同
 同 愛知銀行 西區御幸本町通
 同 愛知縣農工銀行 中區新榮町
 名古屋市

愛知縣昭和塾堂 東區田代町
 日本放送協會東海支部 西區南外堀町
 名古屋商工會議所 中區大池町
 眞宗專門學校 中區下茶屋町
 金城女子專門學校 東區白壁町
 相山女子專門學校 同 田代町

株式會社 明治銀行 西區傳馬町
 日本銀行名古屋支店 中區榮町
 株式會社日本興業銀行 同 南長島町
 同 名古屋支店 同
 同 大垣共立銀行 東區東大會根町
 同 大會根支店 同
 同 川崎第百銀行 西區島田町
 同 名古屋支店 同

名古屋市

株式會社川崎貯蓄銀行 名古屋支店 中區 榮町
 橫濱正金銀行 名古屋支店 同 新柳町
 株式會社第一銀行 名古屋支店 西區 下園町
 同 內國貯金銀行 名古屋支店 同 御幸本町通
 同 野村銀行 名古屋支店 中區 榮町
 同 安田銀行 名古屋支店 同 南大津町
 同 安田貯蓄銀行 名古屋支店 西區 伊倉町

(工場・會社)

日本陶器株式會社 西區 則武町
 日本碍子株式會社 南區 堀田通
 日本建築土木株式會社 中區 廣路町
 日本車輛製造株式會社 南區 熱田東町

一五〇

株式會社不動貯金銀行 名古屋支店 西區 伊倉町
 同 三和銀行 名古屋支店 中區 南桑名町
 同 三井銀行 名古屋支店 同 新柳町
 同 三菱銀行 名古屋支店 同 南長島町
 同 百五銀行 名古屋支店 西區 御幸本町通
 同 住友銀行 名古屋支店 中區 新柳町

株式會社大同電氣製鋼所 南區 東築地
 名古屋紡績株式會社 同 八熊町
 株式會社 名古屋米穀取引所 中區 米濱町
 同 名古屋株式取引所 同 南伊勢町

名古屋市

豐田紡織株式會社 西區 米田町
 豐田押切紡織株式會社 同 葭原町
 豐田式織機株式會社 同 島崎町
 東邦瓦斯株式會社 中區 御器所町
 東邦瓦斯證券株式會社 同 同
 東海セメント株式會社 同 南大津町
 東陽倉庫株式會社 同 天王崎町
 東洋編織株式會社 同 同
 東郊住宅株式會社 東區 車道町
 千年殖産株式會社 南區 千種年
 知多鐵道株式會社 同 熱田東町
 中央信託株式會社 西區 御幸本町通
 株式會社大隈鐵工所 東區 布池町
 岡本工業株式會社 中區 東郊通
 神富殖産株式會社 同 新榮町
 神野新田土地株式會社 西區 傳馬町

名古屋綿絲布取引所 同 中ノ町
 名古屋合同運送株式會社 同 下廣井町
 名古屋棧橋倉庫株式會社 南區 豐田町
 内外紡績株式會社 同 瑞穂町
 村瀨同族株式會社 中區 新榮町
 矢作工業株式會社 東區 東片端町
 矢作水力株式會社 同 同
 株式會社松坂屋 中區 南大津町
 福壽火災保險株式會社 同 新柳町
 株式會社近藤紡績所 南區 呼續町
 愛知時計電機株式會社 同 千種年
 愛知織物株式會社 東區 千種町
 木曾發電株式會社 同 七間町
 北惠那鐵道株式會社 同 同
 金城興業株式會社 西區 島崎町
 金城證券株式會社 東區 東片端町

一五一

名古屋市

名港倉庫株式會社	中區	納屋町
名古屋鐵道株式會社	西區	西柳町
昭和毛絲紡績株式會社	中區	新柳町
新三河鐵道株式會社	同	廣路町
瀨戶電氣鐵道株式會社	東區	東大會根町
伊藤忠商事株式會社	中區	新柳町
日本火災保險株式會社	同	榮町
日本毛織株式會社	同	岩塚町
日本電力株式會社	同	新柳町
日本郵船株式會社	同	天王崎町
日本食料工業株式會社	同	松重町

一五二

東京モスリン紡績株式會社	東區	織部町
東神倉庫株式會社	南區	千年
千代田火災保險株式會社	中區	南大津町
小野田セメント株式會社	南區	熱田東町
大阪海上火災保險株式會社	東區	宮町
株式會社大阪毎日新聞社	中區	大池町
王子製紙株式會社	南區	船見町
片倉製糸紡績株式會社	東區	千種町
關西信託株式會社	西區	島田町
橫濱海上火災保險株式會社	同	御幸本町通
大日本紡績株式會社	中區	新柳町

名古屋市

日本製粉株式會社	同	天王崎町
日興證券株式會社	同	新柳町
日清紡績株式會社	西區	下園町
日清レーヨン株式會社	中區	榮町
日清製粉株式會社	西區	則武町
東邦電力株式會社	中區	西松ヶ枝町
東海毛糸紡績株式會社	西區	下園町
東洋紡績株式會社	同	島田町
東洋棉花株式會社	同	傳馬町
東京火災保險株式會社	中區	南大津町
東京電氣株式會社	同	新柳町

一五三

大日本人造肥料株式會社	南區	西築地
大日本麥酒株式會社	東區	高松町
大同電力株式會社	同	七間町
ライジングサン石油株式會社	中區	新榮町
野村證券株式會社	同	新柳町
安田信託株式會社	同	榮町
富士瓦斯紡績株式會社	西區	下園町
富士電機製造株式會社	同	
神戸海上火災保險株式會社	中區	小林町
合資會社新愛知新聞社	西區	御幸本町通
荒川長太郎合名會社	東區	京町

瀧定合名會社	西區東萬町
岡谷保産合名會社	中區鐵砲町
合名會社加周商店	南區西古渡町
帝國火災保險株式會社 名古屋支店	中區新柳町
帝國海上火災保險株式會社 名古屋支店	同 南大津町
株式會社麻生商店 名古屋出張所	南區眞砂町
淺野セメント株式會社 名古屋出張所	中區新柳町
共同火災保險株式會社 名古屋支店	同
麒麟麥酒株式會社 名古屋支店	同 南大津町

明治火災保險株式會社 名古屋支店	中區榮町
三井物産株式會社 名古屋支店	同 笹島町
三菱重工業株式會社 名古屋航空機製作所	南區大江町
三菱電機株式會社 名古屋製作所	東區矢田町
三菱商事株式會社 名古屋支店	中區南長島町
スタンダードヴァキユウ 石油會社名古屋營業所	同 新柳町
伊藤産業合名會社	西區茶屋町
岡谷合資會社	中區鐵砲町

豊橋市

東海道線 豊橋驛
 名古屋線 吉田驛
 豊川線
 渥美線 新豊橋驛

十四萬の人口と百十六方町の市域を擁する三河第一の都會で、近年交通機關の完備と共に商工業は倍々隆盛に赴き、繭の取引市場としては全國第一と稱せられ、今や本邦屈指の産業地となつた。生絲玉絲等の蠶絲類は工業中最も盛なるものでその生産額は一千八百萬圓を超えて産業總生産額の五割六分を占めてゐる。殊に玉絲は「吉田鹿の子と昔はいへど今は玉絲日本一」と謠はれる如く本場上州を凌駕して全國の過半数を占め、長野縣諏訪湖畔に於ける生絲と相並んで本邦製絲界の一大中心地をなしてゐる。而して是等製絲の大部分は花田の工場地帯に於て生産されるので、この地一帯は煙突林立し天日も暗き觀がある。特産の竹輪、蒲鉾は品質の優良を以て知られその生産額は五十萬圓に達してゐる。また温室利用促成栽培は近年殊に盛で優秀なるメロンやトマトを産出する。